

2075/24
38-210

萬國歷史

文部省圖書課

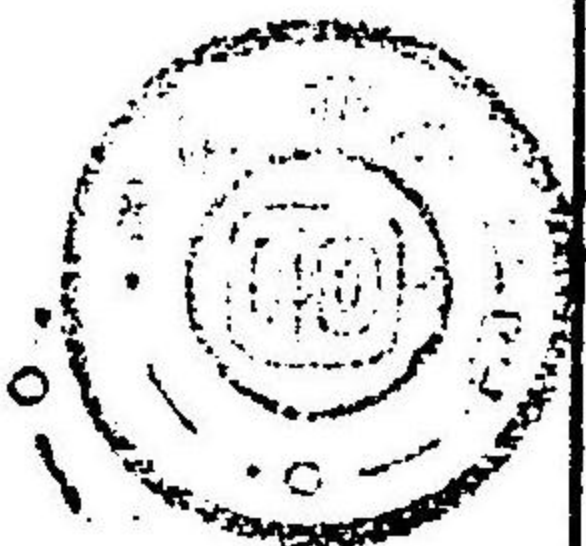
萬國歴史

緒言

一本書ハ、主トシテスウントン (Swinton) 萬國史、バーンス (Barnes) 萬國史ニ據リ、傍ラ他ノ數書ヲ參考シテ譯述セシ者ナリ。

一北米合衆國史ヲ附録トシテ收メタルハ、其事蹟、歐羅巴諸國一般ノ形勢ニ關係スルユト尠ク、之ヲ歐羅巴諸國ノ歴史中ニ混入スレバ、首尾貫徹セザルノ虞アルヲ以テナリ。

一通常所用ノウエブスダー (Webster) 大辭書ハ、米國版ニシテ、其附録ニ地名人名ノ發音ヲ載セザレド、粗畧ナル所多シ。本書ハ一千八百八十二年倫敦出版ウエブスダー大辭書ノ附録、及リッピンコト (Lippincott) 地名人名辭書等ヲ參考シテ、務メテ其發音ヲ一定セシコトヲ計レリ。



萬國歴史目次

發端	一	頁
第一篇 古代東洋諸國史		
第一章 地勢	五	頁
第二章 埃及	八	頁
第一節 畧史	八	頁
第二節 埃及ノ文明	一	頁
第三章 アッシリヤ及バビロニヤ	一	頁
第一節 前バビロニヤ國一名カルデア	一	頁
第二節 アッシリヤ國	一	頁
第三節 後バビロニヤ國	二	頁
第四章 ヘブリー	二	頁

目次

一

第五章	フニシヤ	二八頁
第六章	印度	三二頁
第七章	ペルシヤ帝國	三六頁
第一節	畧史	三六頁
第二節	ペルシヤノ文明	四一頁
第二篇	希臘史	
第一章	地勢及人種	四七頁
第二章	第一期ノ歴史	五四頁
第一節	希臘史ノ起原	五四頁
第二節	スパルタ、アセンスノ勃興	五七頁
第三章	第二期ノ歴史	六五頁
第一節	ペルシヤ人ノ入寇	六五頁
第二節	ペリクリースノ時代	七四頁

第三節	ペロポネサスノ戰	七七頁
第四節	スパルタ及シロブスノ統攝ノ時代	八〇頁
第四章	第三期ノ歴史	八二頁
第一節	マセドニヤノ統攝	八二頁
第二節	アレキサンダー大王ノ履歴	八五頁
第三節	アレキサンダーノ繼續者	九〇頁
第四節	マセドニヤ及希臘ノ末世	九二頁
第五章	希臘ノ文學藝術	九五頁
第三篇	羅馬史	
第一章	地勢及人種	一〇五頁
第二章	古代ノ羅馬即チ王政ノ時代	一〇八頁
第三章	羅馬共和政治	一一三頁

第一節	生存競争ノ時代	一一三頁
第二節	伊太利征服ノ時代	一二〇頁
第三節	外國征服ノ時代	一二五頁
第四節	内亂ノ時代	一三四頁
第四章	羅馬帝國	一五六頁
第一節	オIガスダスノ時代	一五六頁
第二節	政治上ノ歴史	一六〇頁
第三節	基督教ノ蔓延	一六五頁
第四節	羅馬ノ末世	一七〇頁
第五章	羅馬ノ文學藝術	一七七頁
第四篇	中世史	
第一章	總說 新出ノ人種	一八三頁
第二章	シIレマン以前ノ歴史	一九〇頁

第一節	ビザンチヤム帝國	一九〇頁
第二節	伊太利	一九二頁
第三節	佛蘭西ノ建國	一九五頁
第四節	英吉利ノ建國	一九七頁
第五節	サラセン人ノ興起	一九九頁
第三章	シIレマン帝國	二〇七頁
第四章	封建ノ制度	二一六頁
第五章	法王ノ擅權	二二三頁
第六章	十字軍	二三一頁
第七章	游俠ノ風	二四七頁
第八章	シIレマン以後ノ歴史	二五二頁
第一節	日耳曼帝國	二五二頁
第二節	佛蘭西	二五八頁

第三節	英吉利	二六五頁
第四節	伊太利	二七〇頁
第五節	西班牙	二七四頁
第六節	瑞西	二七六頁
第九章	中世ノ文學藝術	二七九頁
第五篇	近世史	
第一章	轉遷期	二八七頁
第一節	總說	二八七頁
第二節	東帝國ノ滅亡	二八八頁
第三節	海上ノ發明	二九〇頁
第四節	文學ノ再興	二九八頁
第五節	封建ノ廢止	三〇一頁
第六節	大國ノ興起	三〇三頁

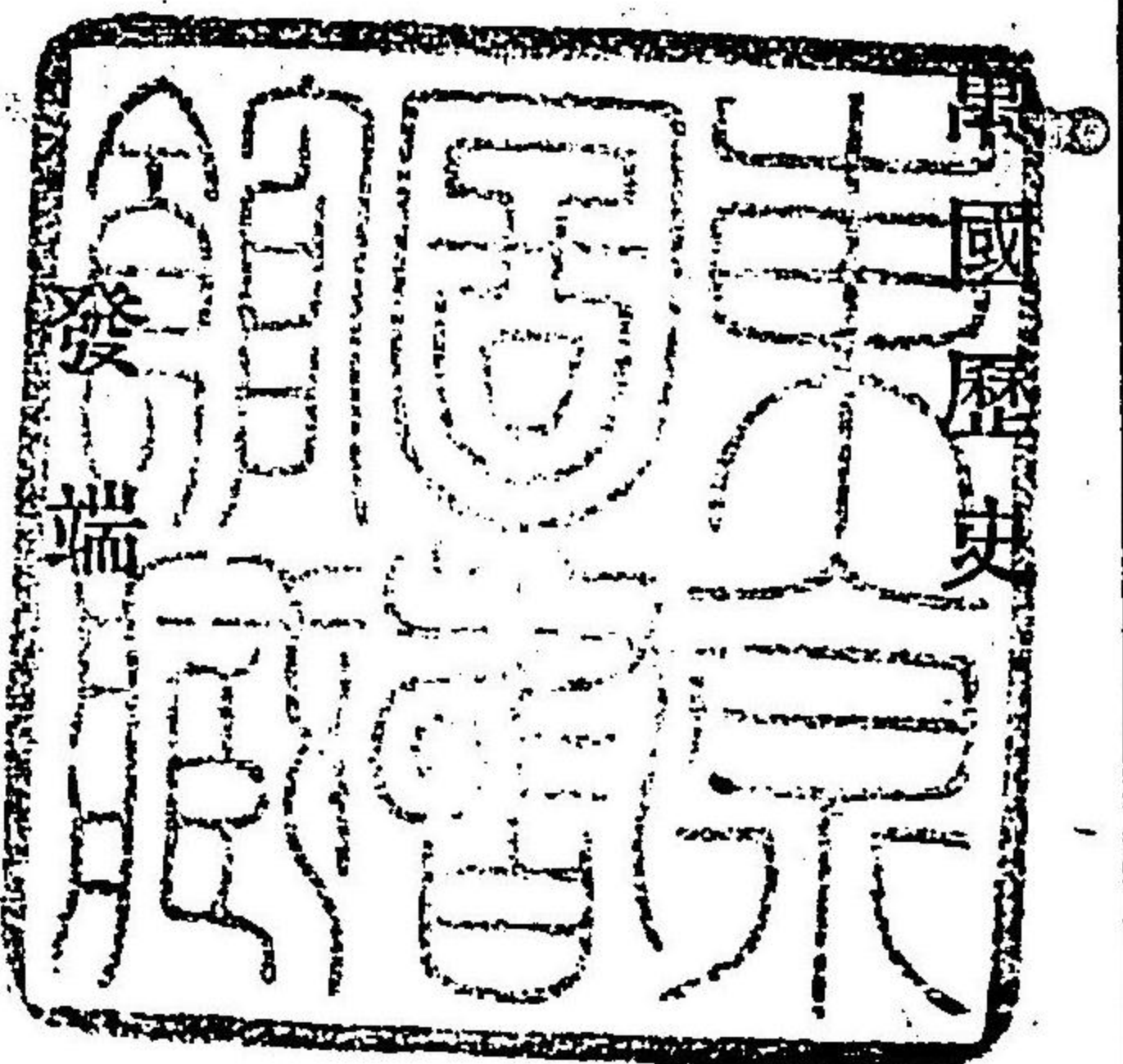
第二章	第十六世紀ノ大事變	三〇六頁
第一節	チャールズ五世ノ時代	三〇六頁
第二節	英王ヘンリー八世ノ治世	三一九頁
第三節	和蘭共和政治ノ興起	三二七頁
第四節	佛蘭西ノ内訌及宗教ノ亂	三三三頁
第五節	女王エリザベスノ治世	三四〇頁
第六節	第十六世紀ノ文學藝術	三四九頁
第三章	第十七世紀ノ大事變	三五三頁
第一節	英國スチュアート朝ノ治世	三五三頁
第二節	三十年戰	三七四頁
第三節	佛王ルイス十四世ノ時代	三八〇頁
第四節	第十七世紀ノ文學藝術	三九四頁
第四章	第十八世紀ノ大事變	四〇〇頁

第一節	英國ジョージ家ノ治世	四〇〇頁
第二節	普魯士及フレンジリッキ大王	四〇九頁
第三節	露西亞ノ勃興	四一六頁
第四節	佛蘭西ノ革命	四二六頁
第五節	第十八世紀ノ文學藝術	四五二頁
第五章	第十九世紀ノ大事變	四五八頁
第一節	コンサル政治及皇帝政治	四五八頁
第二節	近世英國ノ政治	四八三頁
第三節	佛蘭西政治上ノ革命	四九三頁
第四節	伊太利ノ統一	五〇三頁
第五節	日耳曼帝國ノ再興	五一〇頁
第六節	希臘ノ再興	五二三頁
第七節	和蘭及白耳義	五二四頁

附錄

第八節	第十九世紀ノ文學藝術	五二五頁
北米合衆國史		
第一節	十三部ノ植民及發達	五三三頁
第二節	英佛兩植民地ノ戰爭及革命ノ役	五四七頁
第三節	大統領ワシントンヨリジャックソンニ至ル	五六三頁
第四節	大統領ジャックソンヨリクリヴランドニ至ル	五七六頁

萬國歷史目次 終



文部省圖書課校定
同課員木村一步譯述

歴史トハ、廣ク其義ヲ解スレバ、人類生活ノ記録ナリ。又詳密ニ之ヲ解スレバ、世ノ文明ニ影響ヲ及ボス所ノ顯著ナル國民ノ盛衰ノ記録ナリ。

此詳密ナル意義ニ據レバ、歴史ハ、既ニ初世ノ状態ヲ脱シテ、政治社會ヲ組織シタル人類ヲ記スルヲ本分トス。即チ世事一般ノ潮流ニ影響ヲ及ボシ、世界ノ形勢ヲシテ、今日ノ進歩ニ至ラシメタ

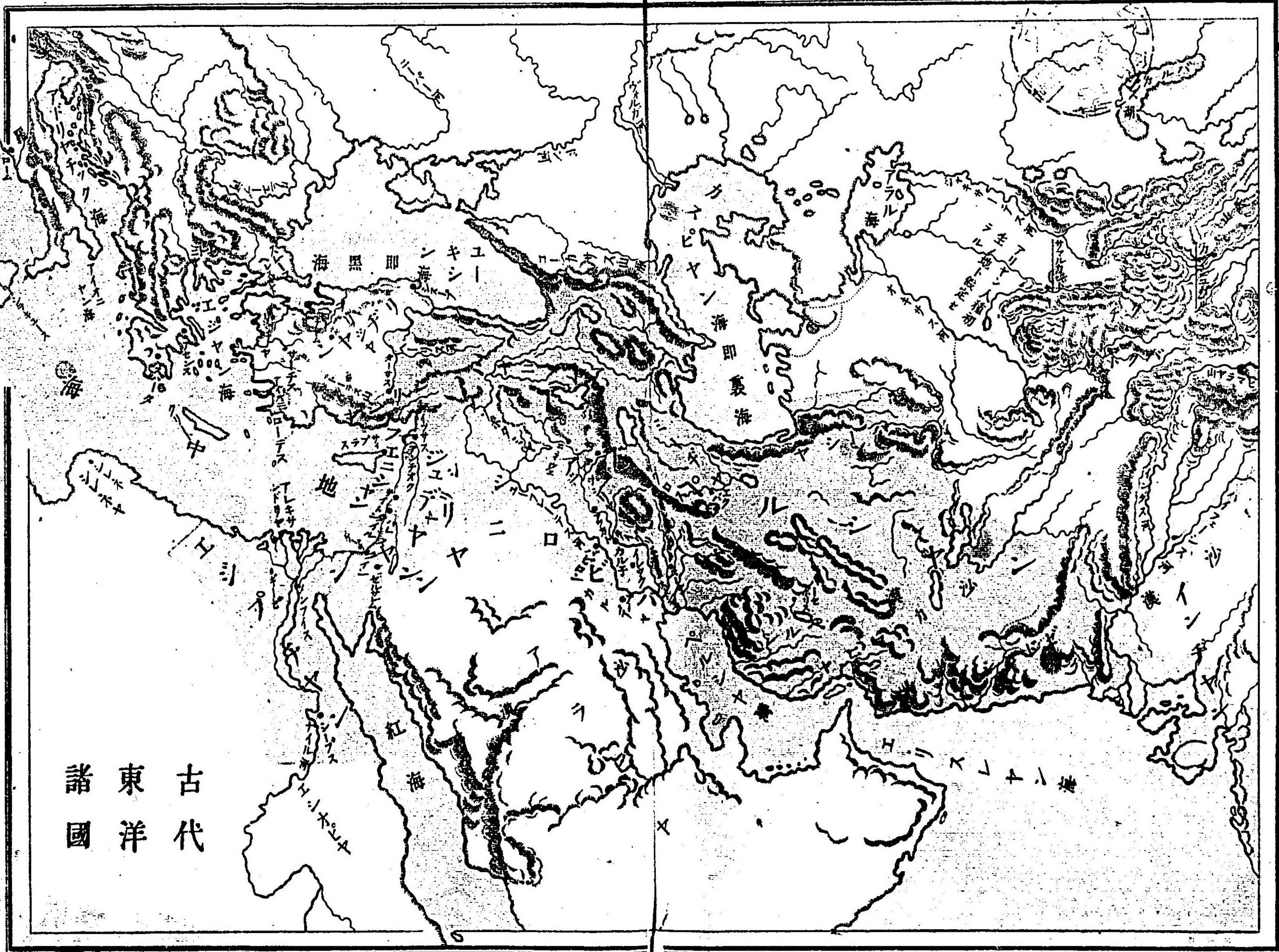
ル諸國ノ事蹟ヲ記スルヲ本分トスルナリ。
 歴史上ノ時期ハ、分チテ古代、中世、近世ノ三トス。而シテ古代史ハ、上古ヨリ、紀元四百七十六年西羅馬帝國ノ滅亡ニ至リ、中世史ハ、西羅馬帝國ノ滅亡ヨリ、第十五世紀ノ末ニ至リ、近世史ハ、第十五世紀ノ末ヨリ、現時ニ至ル。然レモ此書ハ、再ヒ古代史ヲ分チテ、東洋諸國、希臘、羅馬ノ三史ト爲シ、之ニ中世、近世ノ二史ヲ加ヘテ、五篇ト爲ス。是レ實地授業ノ便ヲ謀ルナリ。
 歴史ニ登ル所ノ人種ハ、分チテ二大科ト爲ス。チーラニヤン、(Iranian)コーカシヤン(Caucasian)是ナリ。而シテチーラニヤン科中ニハ、日本人、支那人、蒙古人、土耳其人、鞑靼人、ラブラント(Lapland)人、フィンランド(Finland)人、マジヤル(Magyar)人等之ニ屬シ、此諸族中、殊ニ文明ヲ以テ稱セラレタルハ、日本人、支那人是ナリ。
 コーカシヤン科中ニハ、アリヤン(Aryan)科、セミチツク(Semitic)科、ハミ

チツク(Hamitic)科之ニ屬ス。更ニ之ヲ細別スレバ、則チ左ノ如シ。

- | | | | | | | |
|--------|--------|-------|-------|--------|--------|--------|
| 印度人 | ペルシヤ人 | 希臘人 | 羅甸人 | チートン人 | セルチツク人 | スラヴニヤ人 |
| アリヤン科 | | | | | | |
| ヘブリュー人 | フェニシヤ人 | アシリヤ人 | アラビヤ人 | セミチツク科 | | |

ハミチツク科

埃及人
カルヂヤ人

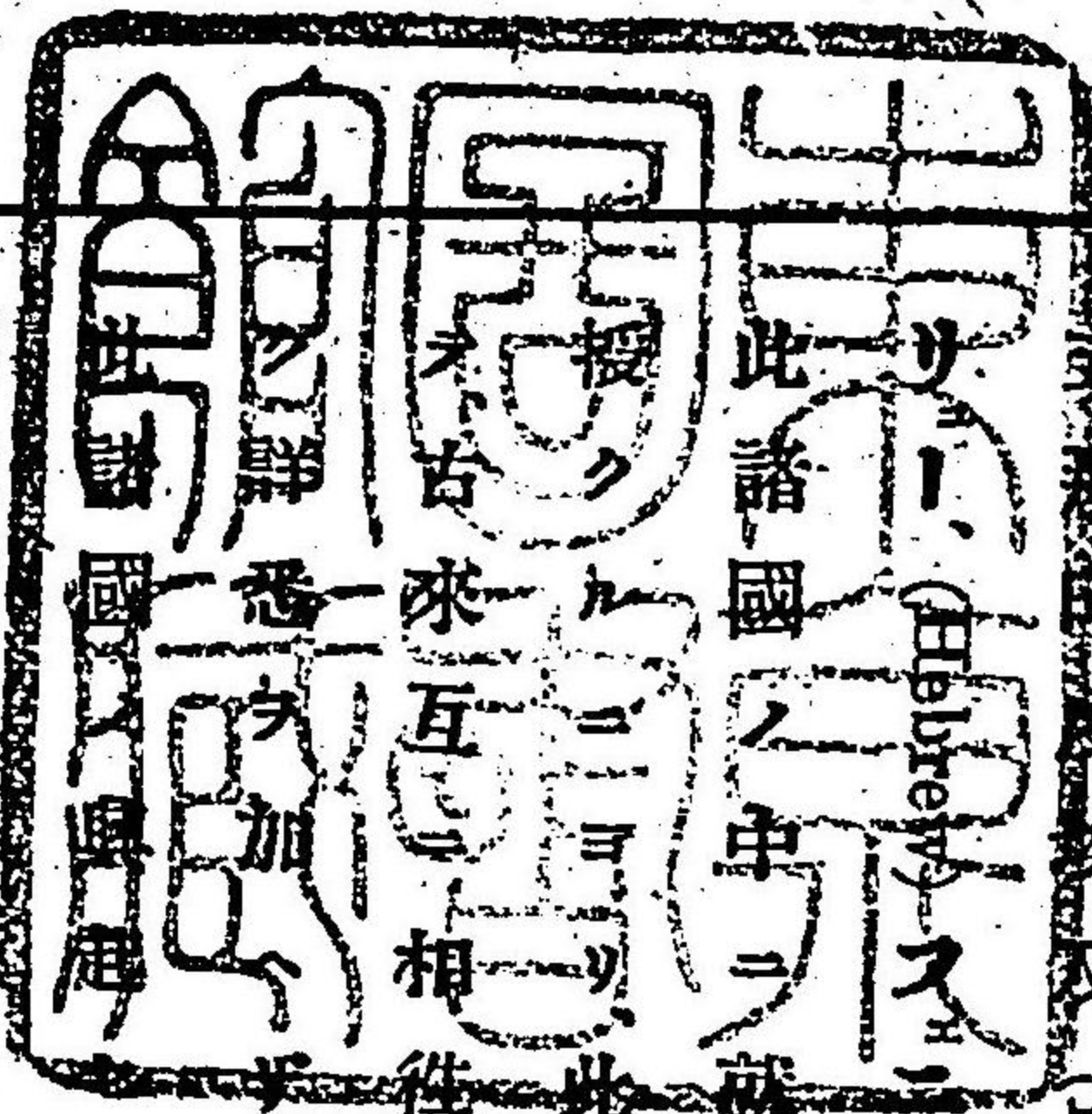


古代東洋諸國

第二篇 古代東洋諸國史

第一章 地勢

此篇ニ記スル所ハ、古代東洋諸國ノ文明トス。東洋諸國トハ、日本、支那、印度、埃及、(Egypt) アッシリヤ、(Assyria) バビロニア、(Babylonia) ヘブライ、(Hebrew) シヤ、(Phoenicia) 及ペルシヤ、(Persia) ノ諸國即チ是ナリ。此諸國ノ中ニ就キテ、本邦歴史ハ、日本歴史ノ科ニ於テ、別ニ之ヲ撰クルニヨリ、此篇ニ之ヲ記セズ。又支那ハ、本邦ト一衣帶水ヲ隔テ、其文明ハ大ニ本邦ニ影響アルヲ以テ、少シテ古來互ニ相往ルベカラズ。故ニ亦之ヲ別史ニ讓ル。此諸國ノ中ニ就キテ、本邦歴史ハ、日本歴史ノ科ニ於テ、別ニ之ヲ撰クルニヨリ、此篇ニ之ヲ記セズ。又支那ハ、本邦ト一衣帶水ヲ隔テ、其文明ハ大ニ本邦ニ影響アルヲ以テ、少シテ古來互ニ相往ルベカラズ。故ニ亦之ヲ別史ニ讓ル。此諸國ノ中ニ就キテ、本邦歴史ハ、日本歴史ノ科ニ於テ、別ニ之ヲ撰クルニヨリ、此篇ニ之ヲ記セズ。又支那ハ、本邦ト一衣帶水ヲ隔テ、其文明ハ大ニ本邦ニ影響アルヲ以テ、少シテ古來互ニ相往ルベカラズ。故ニ亦之ヲ別史ニ讓ル。



細亞ナル一小部分ノ外ニ出テズ。

南西亜細亞ハ、之ヲ三大部ニ分ツベシ。第一、ユーフレイテス(Euphrates) 河以西ノ地、第二、ユーフレイテス、タイグリス(Tigris) 兩河間ノ

地第三、ザグロス(Zagros)山、インダス(Indus)河間ノ地ナリ。
 ユーフレータス河以西ノ地ハ、再ビ分チテ三部トス。第一、小亞細
 亞半島。此部ニハ數個ノ邦國其最ヤ(Phoenicia)國トス。及數個ノ希臘植
 民地アリ。其歴史ハ、亞細亞ヨリハ、寧ロ歐羅巴ニ關涉ス。第二、シリ
 ヤ(Syria)此部ハ地中海ノ東濱ニ接シ、シリヤ本部、フェニシヤ、パレス
 タイン(Palestine)ノ三部ヲ包有ス。第三、アラビヤ(Arabia)半島。此部ハ、南
 東ニ延長シタル半島ニシテ、古代史ニ關係スル所甚ダ少シ。
 第一、タイギリス、ユーフレータス兩河間ノ地ハ、分チテ六部トス。第一、
 アーメニヤ(Armenia)ハ、小亞細亞ト裏海トノ間ニ在ル高原ナリ。第
 二、アッシリヤ本部ハ、タイギリス河ノ東、ザグロス山ノ西ニ在ル地
 方ナリ。第三、バビロニヤハ、タイギリス、ユーフレータス兩河ノ下
 流ニ在ル廣大ナル平原ナリ。第四、カルデア(Chaldea)ハ、ペルシヤ灣
 頭ニ在リテ、ユーフレータス河ノ下流ヨリ西ノ方シリヤ沙漠ニ

亘レル地方ナリ。第五、メソポタミア(Mesopotamia)ハ、兩大河ノ上流ニ
 夾マリタル地方ナリ。第六、スーシヤナ(Susiana)ハ、タイギリス河ニ
 沿ヒテ、バビロニヤノ東ニ在ル地方ナリ。
 此タイギリス、ユーフレータス兩河間ノ地ハ、紀元前六百年ペル
 シヤノ版圖ニ入リシ時迄ハ、三大王國相繼ギテ之ヲ占領セリ。三
 大王國トハ何ゾ、カルデア、バビロニヤ、アッシリヤ是ナリ。就中アッシ
 リヤノ王國ハ、其隆盛ヲ極メタル時、版圖最モ廣大ニシテ、ザグロ
 ス山ト地中海トノ間ニ在ル一帯ノ地方、全ク其管轄ニ屬セリ。
 タイギリス、ユーフレータス兩河間ノ地ノ東ヲザグロス山トス。
 此山ノ東ニ、イラン(Iran)ト云ヘル廣大ナル高原アリ。其北、裏海ニ
 濱シテ、ミーヂヤ(Media)アリ。其南、ペルシヤ灣ニ接シテ、ペルシヤ本
 部(ペルシス)アリ。更ニ東方ニ進ミテ、印度半島アリ。印度半島ハ、南
 方ニ延長シテ、南西亞細亞ノ東界ヲ爲ス。

古代地味膏腴ニシテ、人間社會ノ團結ヲ催ガスベキ地ハ、南西亞細亞ノ大平原ナリ。又最モ舊キ邦國ノ勃興セシハ、多クハ南西亞細亞ノ平原ナリ。又歐羅巴人種ハ、原來西亞細亞ノ地方ニ在リテ、之ヨリ移住シタルコト、言語ニ徴シテ明白ナル事實トス。故ニ南西亞細亞ハ、假令ヒ人類生誕ノ地ニ非ザルモ、然モ亦文明萌生ノ土ナルコト、疑ヲ容レザル事實トス。

第二章 埃及

第一節 畧史

埃及建國ノ始ヨリ、其ペルシヤ人ニ亡サレシマテ、其間ノ歴史ハ、凡ソ二千二百年ニ亘リ、分チテ三期ト爲ス。

紀元前二千七百年ノ頃、ミイ子ス(Miis)ト云フ者、下埃及ヲ攻略シテ、メンフィス(Memphis)府ヲ開キ、之ヲ其都ト爲ス。是ヲ埃及建國ノ始トス。是ヨリ紀元前六百年ペルシヤ人ノ、埃及ヲ攻略セシ時マデ、

王朝ノ更迭二十六次ニ及ブ。其後紀元前二千四百五十年ノ頃、第四朝ノ諸王、今ノメンフィスノ近傍ギーゼ(Gizeh)ト云ヘル處ニ、大金字塔數基ヲ建築ス。スーフィス(Suphis)希臘家ハ、呼ビテ、ケト云ヘルハ、即チ此朝ノ王ノ一人ナリト云フ。其後下埃及ノメンフィスニ政廳ヲ構ヘタル王國、漸ク衰微シテ、上埃及ノシーブス(Thebes)ニ政廳ヲ構ヘタル王國、漸ク強大トナリシガ、遂ニ全土ノ四分五裂ヲ致シ、埃及ノ國威大ニ衰ヘ、紀元前二千零八十年、牧畜王ノ一族、埃及ニ侵入スルニ至ル。是ヲ第一期ト爲ス。

牧畜王ハ、シリヤ若クハアラビヤヨリ出テタル遊牧ノ人種ニシテ、其埃及ニ侵入スルヤ、先ヅ下埃及ナルメンフィスノ王國ヲ滅ボシ、次ニ上埃及ナルシーブスノ王國ヲ略シ、紀元前一千九百年、埃及全土ヲ擧ゲテ、終ニ其管轄ニ屬シタリ。是ヨリ牧畜王ノ一族、埃及ヲ統御シ、埃及史ノ、暗世ト爲ルコト、凡ソ四百年ニ及ブ。紀元前

一千五百二十七年ニ至リ、埃及人ハ、シーブス王ヲ奉マテ、牧畜王ニ反シ、終ニ之ヲ驅逐シテ、埃及ノ獨立ヲ恢復ス。是ヲ第二期ト爲ス。

埃及人ノ、シーブス王ヲ奉マテ、牧畜王ニ反シ、之ヲ驅逐シテ、新ニ帝國ヲ建ツルヤ、埃及ノ全國舉ゲテ一統ノ政治ニ歸シ、國威漸ク隆ニシテ、殊ニ第十八朝、第二十朝ノ間紀元前一千五百二十年ヨリ、同二千二百年ニハ、埃及ノ威權隆盛ノ極ニ達シテ、シーブスニ大神殿ヲ建築シ、ラメセス(Rameses)二世希臘史家ハ、呼ビテ、セソト云フ。ノ如キハ、エシオピア(Ethiopia)アラビヤ、シリヤヲ征略シテ、其版圖ニ入ル、ノミナラズ、尙且ユーフレータス河ヲ渡リテ、メソポタミアノ一部ヲ攻略シタリ。然レモ第二十朝ノ末ヨリシテ、埃及ノ威權漸ク衰微ニ傾キ、版圖漸ク縮マリ、紀元前五百二十五年、ペルシヤ王カンビセス(Cambyses)ノ攻零スル所トナリテ、國終ニ亡ブ。是ヲ第三期ト爲ス。

其後紀元前三百三十二年、埃及ハ、アレキサンダー(Alexander)大王ノ版圖ニ歸シ、其海岸ニ新建シタルアレキサンドリヤ(Alexandria)ト云ヘル都城ハ、文學ノ淵藪、貿易ノ大埠頭タリ。其後アレキサンダーノ殂シテ、其帝國ノ分裂スルヤ、埃及ノ地ハ、其將軍トレミー(Ptolemy)ト云ヘル者ノ管轄ニ歸シ、紀元前三百三年ヨリ、同三百是ヨリ三百年ノ間、トレミー家ノ諸王、ナイル(Nile)河ノ兩岸ニ威權ヲ振ヒシガ、同家最後ノ女王、クレオパトラ(Cleopatra)羅馬人ト戰ヒテ敗レ、終ニ自殺セシヨリ、埃及ノ地、舉ゲテ羅馬ノ郡縣トナレリ。是ヲ紀元前三十年ノ事トス。羅馬史ヲ看ヨ。

第二節 埃及ノ文明

埃及人ハ、コーカシヤン人種中ノハミチク科ニ屬ス。或ハ曰ク、埃及ノ古言ハ、セミチク語ノ一種ニ近シ。是ニ由テ視レバ、埃及人ハ、元トペルシヤ灣頭ノ平原ニ在リテ、夫ヨリナイル河岸ニ移住セ

シ者ナルベシ。
 埃及ハ、世襲ノ王國ナリ。然レモ埃及王ハ、東洋諸國ノ帝王ノ如ク、
 自ラ己ノ行爲ヲ主宰スルコト能ハズ、宗教上ノ規律ニ因リテ、其
 公務上、其生活上ノ習慣ヲ制定セラル。又新法ヲ制定スルノ權ハ、
 擧ゲテ之ヲ國王ニ委任スト雖モ、法律アリテ、其臣民ヲ生殺與奪
 スルノ權力ヲ抑制シ、決シテ其專恣ヲ聽サズ。
 埃及ノ宗教ハ、頗ル錯雜ヲ極メ、其崇奉スル所ノ鬼神甚ダ多シ。就
 中オサイリス、(Osiris)アイシス、(Isis)ノ二神ヲ以テ、最モ廣ク崇奉スル
 所ノ者トス。又埃及ノ宗教ノ、他ニ異ナル所ハ、獸類ヲ崇奉スルコ
 ト是ナリ。犬、猫、鷹、**アイ** **ス** (Thot) 名鳥ノ四者ハ、埃及ノ全國ニ通シテ、
 之ヲ尊敬シ其他牡牛、犢ノ如キ動物ハ、唯一地方ニ於テ之ヲ崇奉
 セリ。
 埃及ノ社會ニ於テハ、種族ノ區別ヲ立テ、嚴密ニ之ヲ守レリ。此

種族ヲ區別ハ、凡ソ三等ト爲ス。祭司、軍人及下等種族是ナリ。
 祭司ハ、種族中最モ富有ニシテ、最モ權勢アル者トス。此種族ハ、宗
 教及學問ヲ以テ本務トシ、埃及全土ノ三分一ヲ所有シ、其地租ヲ
 免ゼラル。軍人ハ、祭司ニ次ギテ貴重ナル種族トス。其數凡ソ四十
 萬人アリ。此種族、亦埃及全土ノ三分一ヲ所有シ、其地租ヲ免ゼラ
 ル。下等ノ種族ハ、農夫、工匠、牧人等ヨリ成ル。此種族ハ、政治上ノ權
 利ヲ有セズ、又土地所有ノ權利ヲ有セズ。各地租トシテ收入ノ五
 分一ヲ政府ニ納ム。凡テ各種族ハ、各其職業ヲ世襲シテ、決シテ父
 祖ノ業ヲ變ズルヲ得ズ。又此種族ト彼種族トノ間ニ婚姻スルヲ
 得ズ。
 建築ノ術ハ、埃及人ノ、殊ニ熟達セシ所ナリ。凡テ埃及ノ建築物ハ、
 廣大ニシテ雄壯ナルヲ以テ、著明ナリトス。其建築ノ、最モ高名ナ
 ル者ハ、ギーズニ建テタル三大金字塔ニシテ、其最モ大ナル者ハ、

高サ四百五十呎、基趾方七百六十四呎ニシテ、十三エーカー一
十^ハ四^ハ段ニ當ル。餘ノ面積ヲ蓋ヘリ。即チ宇内建築物ノ、尤モ廣大ナ
ル者ト云フベシ。

埃及ノ彫刻ハ、巨大ヲ主トシテ、美麗ヲ主トセズ。其繪畫ノ如キモ、
彩色燦爛トシテ、活潑浮動ノ精神アリト雖モ、畫法頗ル粗疎ニシ
テ、遠景畫法又ハ透視畫法ノ規則ニ合ハズ。之ヲ要スルニ、埃及ノ
工匠ハ、嚴密ナル規律ニ束縛セラレテ、其創始ノ才ヲ施スノ餘地
ナキニ困ムガ故ニ、彫刻繪畫共ニ見ルニ足ラザルガ如シ。

埃及人ハ精緻ナル工業ニ巧ニシテ、寶石ヲ琢磨シテ、之ニ彫刻ヲ
施シ、玻璃ヲ造リ、磁器ヲ製セリ。又藥料ヲ死骸ニ塗擦シテ其腐敗
ヲ防グコト、布帛ヲ種々ノ彩色ニ染ムルコト等ハ、此人民ノ、殊ニ
熟練シタル所ナリ。又此人民ハ、亞麻ヲ培養シテ、之ヨリ精緻ナル
麻布ヲ製シ、布帛ヲ以テ埃及人トス。金屬ニ工ヲ施シ、其壁及天井ニ粉

彩ヲ施セリ。

埃及人ハ、幾何學、算術、星學、醫學等ヲ熟識セシコト明ナリ。然レモ
其學識ハ、今日ノ理學ノ如ク、定則ヲ以テ整頓シタル者ニ非ズ。唯
實地ニ目撃シタル事實ノ湊合シタルニ過ギザルナリ。又埃及人
ノ星學上ノ觀察ハ、カルデヤ人ノ如ク精密ナラズ。其幾何學ノ如
キモ、又精密ナラズシテ、今日ノ量地術ト大同小異ナルニ過ギズ。
埃及ノ文明ヲ一括シテ言ヘバ、停滞シテ進マザルノ風アリト謂
ハザルヲ得ズ。政治ナリ、社會ナリ、宗教ナリ、技術ナリ、學問ナリ、一
トシテ停滞シテ進マザルノ風ヲ帶ビザルハナシ。畢竟埃及ハ其
全國ノ事ヲ舉ゲテ、亦彼ノ藥料ヲ塗擦シテ腐敗ヲ防ギタル乾屍
ニ過ギザルノミ。

第三章 アッシリヤ及バビロニヤ

第一節 前バビロニヤ國一名カルデヤ

紀元前二千三百年ノ頃、ニムロッド (Nimrod) ト云フ者、カルデア及バ
 ビロニヤノ地ニ割據シタル諸人種ヲ統一シテ、一ノ合衆王國ヲ
 創建シ、バビロン (Babylon) ニ都ス。之ヲカルデア建國ノ始トス。此時
 バビロンノ外、重ナル都府三アリ。イレック (Erech) アッカド (Accad) カル子
 (Calneh) 是ナリ。其後カルデアノ王國ハ、一時隆盛ヲ極メタレド、末
 葉ニ至リテ、漸ク衰微ヲ來タシ、紀元前一千二百五十年、アッシリヤ
 王ハ、カルデアノ羈絆ヲ脱シテ獨立シ、メソポタミアノ地ニ覇ヲ
 稱スルニ至リテ、其ノ亡ボス所トナレリ。
 カルデア人ハ、ハミチク人種ニ屬シ、埃及人ト同族ナリ。此人民ハ、
 日月等ノ天體ヲ崇尊シテ之ヲ祀リ、又上古ヨリ星學ヲ考究スル
 コトヲ好ミ、此學ニ於テ著シキ進歩ヲ爲セリ。
 カルデア人ハ、埃及人ト同ク、上古ヨリ建築ヲ企ツルコトヲ好
 メリ。ヘブリーノ聖書ニハ、此人民、天ニ達スベキ高塔ヲ建立セン

ト企圖セシコトヲ記シタリ。蓋人民一般ノ氣風ヲ考フレバ、此企
 圖アリシコト信ニ近シ。又此人民ハ、瓦磚、燃土等ノ粗糙ナル材料
 ヲ以テ、巨大ナル樓閣ヲ築造シ、其樓閣ハ、層々相重リテ、高く空中
 ニ聳ユ。近年、此樓閣ノ遺趾ノ發見セラレタル者尠カラズ。
 其他、此人民ハ、寶石ヲ切磋シテ、之ニ彫刻ヲ施シ、各種ノ金屬ニ工
 ヲ施シテ、武器、裝飾具、器具等ヲ製造シ、其機塲ヨリ細緻ナル衣服
 ヲ織リ出ダシテ、他國ニ輸出セリ。又アイ(Ch)邑ヨリハ船舶ヲ出ダ
 シ、ペルシヤ灣ノ海岸ニ沿ヒテ貿易セシト云フ。

第二節 アッシリヤ國

アッシリヤ國ハ、最初、カルデア國ノ附庸ナリシガ、紀元前一千二百
 五十年、其王、カルデア王ニ叛キテ獨立シ、爾後次第ニ隆盛ニ赴キ、
 遂ニカルデア國ヲ亡ボシテ、西亞細亞ニ覇ヲ稱セリ。
 其後、此國ニテグラスピレンサー (Tiglath-pileser) 一世 紀元前一千及アッシ

ルイダンニパル(Asshur-Idanni-pal) 希羅史家呼ビテ、サト云フ。ダナノ二王アリ。此二王ノ時、屢兵ヲ出ダシテ、隣國ヲ攻略シ、國勢頗ル強大ヲ以テ稱セラル。其後、アッシリヤノ國勢大ニ衰頽シ、此國ノ附庸ナルバビロニヤ(即チカルデア)國ノ王ナボナッサー(Nabonassar)ト云フ者、アッシリヤニ叛キテ獨立シ、其權勢却テアッシリヤノ右ニ出テタリ。世人之ヲ稱シテナボナッサーノ時代ト云フ。紀元前七百然レモ紀元前七百四十五年、チグラスピレサー二世、アッシリヤノ王位ニ登ルニ及ビテ、大ニアッシリヤノ威權ヲ恢復セリ。是ヨリアッシリヤ中興ノ世ト稱ス。

アッシリヤ中興ノ世ニ於テハ、チグラスピレサー二世、サーゴン(Sargon)及シルマ子サー(Shalmaneser)四世等ノ諸王ノ出ツルアリテ、其最モ著名ナル者ヲセンナケリ。 紀元前七百零一年ニ至トス。此王、隣國ヲ攻略シテ、其版圖ヲ廣メ、其都城ニ子ヴ(Nineveh)

ニ宏壯ナル宮殿ヲ建築セリ。

此中興ノ時ニ當リテ、アッシリヤハ、バビロニヤ、メソポタミア、ミイヂヤ、フニシヤ、パレスタイン、アラビヤ及埃及ノ諸國ヲ其版圖ニ歸シ、此等ノ附庸ノ諸國ハ、各自ニ國王ヲ立テ、以テ自ラ治ムルコトヲ許サル、ト雖モ、然レモアッシリヤ王ニ對シテ、忠誠ノ誓ヲ宣ベ、且ツ貢税ヲ納メザルヲ得ザリシナリ。

其後、中興ノ業大ニ衰ヘ、アッシリヤノ威權振ハズ。是ニ於テバビロニヤ王ナボボラッサー(Nabopolassar)ミイヂヤ王シヤキザレス(Oxarxes)ト兵ヲ合シテ、アッシリヤニ叛キ、其都城ニ子ヴヲ攻メテ之ヲ陷レ、火ヲ放チテ其王宮、神殿ヲ燒盡シ、終ニアッシリヤ國ヲ亡ボセリ。時ニ紀元前六百二十五年ナリ。

アッシリヤ人ハ、セミチック人種ニ屬ス。此人民ハ、元トカルデアニ居住シ、後ニ至リテ、ダイグリス河ノ上流ニ移リシ者ナリト云フ。此

人民ハ、建築術ニ名ヲ得テ、其ニ子ヴノ王宮ノ如キハ、宏壯美麗、他ニ比類ナシト云フ。又アッシリヤ人ノ彫刻ハ、壯嚴強剛ノ風ヲ帶ビ、希臘ノ純清完美ナルニ比スレバ、之ニ及バサルコト遠シト雖モ、埃及ノ硬直凡俗ナルニ比スレバ、遙ニ其右ニ出ツ。アッシリヤ人ハ、頗ル有用ノ工藝ニ熟練シ、透明ナル玻璃ヲ製スルノミナラズ、尙毬球ヲモ製作セリ。又能クアーチ(Arch)ノ道理ヲ認識シテ、隧道、暗渠、溝渠ヲ造築シ、滑車、槓杆、壓塊器ヲ使用シ、金屬ヲ鑲嵌スルノ術ヲ理會シ、寶石ヲ切磋スルコトニ巧ナリ。

第三節 後バビロニア國

バビロニア王ナボポラッサー、ミーヂヤ王シヤキザレスト兵ヲ合セテアッシリヤヲ攻メ亡ボスノ後、シヤキザレスハ、ミーヂヤノ地ヲ領シ、ナボポラッサーハ、本領バビロニアノ外ニ、アッシリヤノ地ヲ領セリ。之ヲ後バビロニア國トス。ナボポラッサー殂シテ、其子子ブ

カド子^ツザ^ー(Nebuchadnezzar)位ヲ嗣グ。子ブカド子^ツザ^ーハ、夙ニ武勇ヲ以テ稱セ^レラレ、埃及ヲ攻略シ、タイル(Tyre)ヲ征服シ、又十三年ノ攻圍ノ後、ゼリザレム(Jerusalem)ヲ陥ル、等、其功業甚ダ多シ。又此王ハ、バビロン城ヲ修築シテ、以テ其名ヲ不朽ニ垂レント欲シ、許多ノ役夫ヲ使用シテ、築城ノ功ヲ竣ヘタリ。蓋バビロンハ、方形ノ都城ニシテ、其大サ方今ノ倫敦ニ五倍シ、其城壁ハ、高サ三百三十八呎、厚サ八十五呎アリ、高樓ヲ以テ之ヲ飾リ、銅門ヲ通ズ。此都城内ニ浮園ト云フ者アリ、是ハ王ガ其后ヲ慰愉センガ爲ニ、山野ノ景色ヲ摸シテ築造セル者ニシテ、空中ニ浮ブガ如クナルヲ以テ、此名アリ。

子ブカド子^ツザ^ー殂シテ、世ヲ易フルコト四タビニシテ、ナボナヂヤス(Nabonadus)ノ世ニ至ル。此王ノ子ベルシツザ^ー(Belshazzar)モ、亦父ト共ニ王位ニ登リテ、政ヲ執レリ。時ニペルシヤ王サイラス(Cy-

ヒト云フ者アリ。是ヨリ先キミイヂヤ國ヲ滅ボシタリシガ、是ニ至リ、ザグロス山ヲ下リテ、メソポタミアニ出テ、バビロンヲ攻メテ之ヲ陷レ、終ニ後バビロニヤ國ヲ亡ボセリ。時ニ紀元前五百三十八年ナリ。

其後紀元前二百年ニ至リ、アッシリヤ及バビロニヤハ、アレキサンダー大王ノ廣大ナル版圖ノ一部トナル。アレキサンダーハ、バビロンヲ以テ其帝國ノ首都ト爲シ、其舊觀ヲ復スルノ意アリシガ、未ダ其事ヲ果サズシテ歿シ、爾後バビロンノ崩壞スルコト甚ダ速ニシテ、今日ハ、唯鳥獸ノ來往セル一大遺跡タルニ過ギズ。バビロニヤ人ハ、ハミチック、セミチックノ兩人種ヲ以テ成リタル混合人種ナリ。此人民ノ才智ト學識トハ、ジヂヤ及希臘ノ歴史家ノ屢稱讚スル所ナリ。又此人民ハ、星學上ノ顯象ヲ觀察スルコト精シク、數學ノ奧義ニ入ルコト深カリシカバ、希臘人ト雖モ、理學ニ

於テハ、常ニ自ラ稱シテバビロニヤ人ノ生徒ト云ヘリ。バビロニヤ人ハ、貿易製造ニ名ヲ得タリ。バビロンノ機場ヨリハ毛氈、綿紗ノ如キ緻密ナル織物ヲ製出シ、此等ヲ以テ、アラビヤノ乳香、印度ノ眞珠、寶石、フニシヤノ銅錫及東洋ノ細羊毛、レイベスラズリ、寶石絹布、黄金、象牙ト交換セリ

第四章 ヘブリー

ヘブリー人ハ、純粹ナルセミチック人種ニ屬シ、フニシヤ人、アラビヤ人、アッシリヤ人ト同種族トス。ヘブリーノ書ニ據レバ、此人民ノ始祖ヲエブラハム(Abraham)トス。エブラハムハ、紀元前二千年ノ頃、故アリテ其一族ヲ率井、メソポタミアノ平原ヲ出テ、カナン(Canaan) 後ノ是ハパレスターニ移リ、其子孫ト共ニ牧畜ヲ業トセリ。其後エブラハムノ曾孫ジローセフ、(Joseph) 奇縁ヲ以テ埃及牧畜王ノ宰相ト爲ルニ及ヒテ、イスレール(Israel)ノ一族ヲ招キ、埃及ニ住居セシ

ム。イスレールノ一族、埃及ノ地ニ移住シテ、頗ル滋殖セシカバ、國王之ヲ待ツニ暴虐ヲ以テス。イスレールノ一族之ニ堪ヘズ、遂ニ紀元前一千三百二十年モーセス(Moses)ト云フ者、イスレールノ諸子ヲ率テ、埃及ヲ出奔シ、漂泊四十年ニシテ、アラビヤ沙漠中ニ歿シ、ジシュヤ(Joshua)ナル者之ニ繼ギ、モーセスノ志ヲ承ケ、エブラハムノ故土、カナン(ジデヤ)ヲ畧シテ之ニ據ル。是ヲジデヤ建國ノ始トス。紀元前一千二百七十七年

當時ヘブリー人ノ政體ハ、所謂上帝政治ニシテ、事アレバ大祭司ヲ經テ、上帝ノ意思ヲ伺ヒ、然ル後之ヲ裁決ス。又當時國王ヲ立テズ、士師ト云ヘル官ヲ置キ、以テ一切ノ政務ヲ執行セシム。蓋此官ハ、天啓ニ因テ、牧民ノ職ニ任ゼラル、者ナリ。士師ノ著名ナル者ハ、オスニイル(Othniel)ギデオン(Gideon)エフタ(Jephthah)サムソン(Samson)等ニシテ、最後ノ士師ヲ豫言者サミエ爾(Samuel)トス。

サミエ爾ノ時、イスレール人屢外寇ヲ蒙リ、國王ヲ立ツルニ非ンバ、之ト防戦スルコト能ハザルヲ見テ、遂ニソール(Saul)ヲ立テ、王ト爲ス。ソール位ニ在ルコト四十年ニシテ歿シ、其義子デーヴィッド(David)位ヲ嗣グ。デーヴィッドハ、ジビサイト(Jebusite)人ヨリ、ゼリザンムノ地ヲ奪ヒテ、之ニジデヤノ政廳并ニ神廟ヲ置キ、又屢戦争ヲ起シ、其領地ヲ廣メテ、紅海ヨリユーフレータス河ニ至ラシメ、フィリスチン(Philistine)人ヲ始メ、其他シリヤノ民種ヲ撃チテ、悉ク其地ヲ併ス。紀元前一千零十五年デーヴィッド位ヲ其子ソロモン(Solomon)ニ讓ル。

ソロモンノ世ニ、ジデヤノ國勢頗ル隆盛ヲ極メ、ジデヤ人ハ、埃及人及フニシヤ人ト交通シ、ソロモン王ハ、埃及王ノ女ヲ娶リテ后ト爲シ、シリヤト貿易シテ、其利益ヲ分受セリ。

然レモ紀元前九百七十五年、ソロモンノ歿スルト共ニ、忽チジデヤ

ヤ國ノ衰微ヲ來メシ、ジデヤノ屬國ハ、皆叛キテ獨立スルノミナ
 ラズ、ジデヤノ十二族中ニ於テモ、亦分離ヲ生シ、一統ノ王國分裂
 シテ、二小國トナレリ。即チ一チイスレール國ト云ヒ、都城ヲサマ
 リヤ(Samaria)ニ奠メテ、十二族中ノ十族ヨリ成リ、一チジューダ國ト
 云ヒ、都城ヲゼリザレムニ奠メテ、十二族中ノ二族ヨリ成ル。
 イスレール國ハ、建國ノ後、二百五十年ヲ經テ、紀元前七百二十一
 年、アッシリヤ王サーゴンノ攻メ亡ボス所トナリ、イスレールノ十
 族虜ヘラレテ、ミीडヤニ送致セラル。又ジューダノ王國ハサーゴ
 ンノ、イスレール國ニ來襲セシ後、百餘年間、其命脉ヲ維持セシガ、
 紀元前五百八十六年バビロニア王子ブカド子ザト、其都城ゼリ
 サレムヲ陷レ、ジューダノ民家ヲ毀キ、其民ヲ以テバビロンニ歸レ
 リ。
 ジューダ人ノ、バビロンニ遷サレシ後ハ、ジューダ史ノ斷絶スルコト、

凡ソ七十年ナリ。紀元前五百三十六年、ペルシヤ王サイラスノ、バ
 ビロニアヲ亡ボスヤ、直チニジューダ人ヲ赦免シテ、其本國ニ歸ラ
 シムルノ令ヲ發ス。是ニ於テジューダ人ノ、拘留ヲ解カレテ、本國ニ
 歸ル者甚ダ多シ。爾後ジューダ人ハ、許多ノ變遷ヲ履ミ、初ハペルシ
 ヤ帝國ノ領地トナリ、次ニ紀元前三百三十二年、アレキサンダー
 大王ノ管轄ニ屬シ、大王殂スルノ後、埃及トレミー家ノ管轄ニ屬
 ス。其後紀元前百六十六年、ジューダ人ハ、外國ノ羈絆ヲ脱シテ、獨立
 スルコトヲ得タリシガ、百年ヲ經テ、ゼリザレムハ、羅馬ノ將軍ポ
 ンペー(Pompey)ノ陷ル、所トナリ、紀元前三百ジューダノ地舉ゲテ羅
 馬ノ領地トナレリ。然レモジューダ人ハ屢、羅馬ニ叛クヲ以テ、亦屢
 羅馬ニ罰セラレ、紀元七十年、羅馬帝タイタス(Titus)再ヒゼリザレ
 ムヲ圍ミテ之ヲ陷レ、其都城ヲ破壊セリ。是ヨリシテジューダ人ハ、
 世界各國ニ分散セリ。

ヘブリー人ヲ總括シテ之ヲ視ルニ、其國極メテ狭ク、國勢隨テ微弱ナリ。又文學、技術ニ於テモ、他國ニ秀テタル所アルヲ見ズ。然レモ詩人ト聖賢トヲ出ダシ、最モ高上ナル一神教ノ真理ト道德上ノ觀念トヲ作り、之ヲ以テ世界ヲ感化セシメタルハ、ヘブリーノ名ヲ不朽ニ傳フルニ足レリ。此等ノ書ハ、舊約全書ノ名ヲ以テ、今日ニ傳ハリ、基督教ヲ奉ズル者ノ尊崇スル所トス。

第五章 フニシヤ

フニシヤ人ノ起原ハ、邈乎トシテ知ルコトヲ得ズ。然レモヘブリー人ト同ク、純然タルセミテ、ク人種ニ屬スルコトト、初ハメソポタミアノ南ナルカルデアノ地ニ住シ、其後ニ至リテ、フニシヤニ移住センコトヲ圖リ、其地ノ土人(カナ人)ヲ逐ヒテ、之ニ據リタルコトトハ、疑ナキ事實ナリトス。

フニシヤノ都府ハ各王ヲ立テ、獨立ノ軀裁ヲ爲セリ。然レモ危難ノ時ニ遇ヘバ、其中最モ強盛ナル國ヲ推シテ、盟主ト爲シ、自餘ノ諸國、其命令ニ從フヲ例トセリ。フニシヤノ主眼ノ都府ヲサイドン(Sidon)及ダイルトス。最初サイドンハ、フニシヤ中ノ最モ繁昌ナル都府ト稱セラル。然レモ紀元前一千零五十年ノ頃、サイドン衰ヘテダイル興レリ。是ヨリ紀元前六百年ニ至ル迄ヲフニシヤ史隆盛ノ時トス。

ダイルノ隆盛ナリシ時、フニシヤ人ハ、船舶ヲ出ダシテ、ダイシッシュ(Earshish)(南西班牙)ニ通シ、又亞弗利加ノ東濱ニ沿ヒ、航行シテオパール(Opal)ノ黄金ヲ搜索セリ。又サイドン府ヨリハ、縫箔物及玻璃、ダイルヨリハ、ダイル紫ヲ製造シ、之ヲ外國ニ販賣シテ、大ニ其國ヲ富マシタリ。ダイル紫トハ、二種ノ貝介ヨリ取リタル染料ニシテ、ダイルノ織物ヲ染ムルニ用ヒタル者ナリ。又フニシヤ人ハ、冶金ノ術ニ巧ニシテ、金銀、黃銅等ノ器物、其他金屬ノ細工ニ於テ、其

聲價頗ル高シ。

フェニシヤ人ハ、其通商植民ノ廣大ナルニ於テ、殊ニ有名ナリトス。蓋フェニシヤ人ハ、希臘人ニ先ダテテ、地中海ノ海岸ヲ占メ、通商ヲ企テ、植民ヲ爲シタル者ナリ。其事ハ、紀元前一千年ノ頃、希臘人ガ、其本國ヨリ移住シテ、エジヤン(Aegean)海小亞細亞ト希臘トノ海間ナル群島ヲ指ス。諸島ト小亞細亞ノ海岸トヲ占領セシ時、小亞細亞ノ海岸ノ、既ニフェニシヤ人ニ占領セラレタルニテ知ルベシ。

フェニシヤ人ハ、小亞細亞ノ海岸ニ植民セシノミナラズ、更ニ亞弗利加ノ北濱ニモ植民シ、紀元前九百年ノ頃、カルセージ(Carthage)ノ植民地ヲ建テタリ。其後カルセージハ、フェニシヤ諸植民地中ニ於テ、最モ強盛ヲ以テ稱セラレ、紀元前二百年ノ頃、其將ハンニバル(Hannibal)ト云フ者、カルセージ人ヲ率井テ、羅馬共和國ノ強大ナル勢力ニ抵抗シ、之ト雌雄ヲ試ミシコトアリ。其詳ナルハ、下略。羅馬ノ史ニ載ス。

フェニシヤ人ハ、更ニ遠征ヲ企テ、西ノ方ハ、ジブラルター(Gibraltar)ノ海峽ヲ過ケテ、大西洋ニ出テ、今ノ西班牙海岸ニ植民シテ、ゲーデス(Gades)府今ノCadix府是ナリ。ヲ建テ、ブリテン島ノ南部ヲ検討シテ、コーンウォール(Cornwall)ノ錫ヲ求メ、東ノ方ハ、アラビヤ灣、ペルシヤ灣ニ植民地ヲ開キ、印度、セーロン(Ceylon)及亞弗利加ノ海岸ニ往來シテ、交易ヲ爲セリ。是ニ由テ視レバ、フェニシヤノ通商セシ區域ハ、西ノ方ブリテン島ヨリ、東ノ方印度ニ達セシコトヲ知ルベシ。

フェニシヤハ、紀元前九百年ノ頃、アッシリヤニ隸屬シ、七百年ノ末、パピロニヤ王子ブカド子サノ攻奪スル所トナリ、六百年ノ末、ペルシヤ王カンビセスノ管轄ニ屬シ、四百年ニ至リ、アレキサンダ一王ノ版圖ニ歸シ、六十三年ニ至リテ、終ニ羅馬ノ領地トナレリ。フェニシヤ人ヲ總括シテ之ヲ言フニ、廣ク商業ヲ營ミ、運輸貿易ヲ爲シ、植民地ヲ開キシ者ハ、此人民ヨリ舊キハナシ。又此人民ハ、字

母ヲ發明シテ、之ヲ近鄰ニ傳播セリ。又此人民ハ、東洋ノ文學、技術ヲ受ケテ、地中海々岸ノアリヤン人種ニ傳播セリ。然レモ其之ヲ傳播スルヤ、農夫ノ其種子ヲ播スルヨリハ、寧ロ燕雀ノ其穀ヲ墮落スルニ似タリト謂ハザルヲ得ズ。

第六章 印度

是迄記述シタル東洋諸國ノ人民ハ、セミチツク人種ニ非レバ、ハミチツク人種ナリ。是ヨリアリヤン人種ノ、亞細亞ニ在ル者、即チ印度人、ペルシヤ人ニ就テ、之ヲ記述セントス。

印度人ハ、最初アリヤン人種初生ノ地ヲ出テ、印度ノ北西ノ部分ニ遷移シ、其後紀元前三千年ノ頃印度學士ノ說ニ從ヘバ、インダス河ヲ渡リ、黒色ノ土人ヲ征服シテ内地ニ蔓衍シ、終ニ全土ヲ占領スルニ至ル。然レモ此際、アリヤン人ハ、土人ト婚姻ヲ結ビ、其風俗思想ヲ採用シテ、次第ニ其血脈ノ純一ナルヲ失ヒ、終ニハ新

入ノ人種ト土人トヲ識別スルコト能ハザルニ至リシモノ、如シ。

印度ノ、歐羅巴ト關係シテ歴史上ニ知ラレタルハ、アレキサンダー大王ガ、世界ヲ攻畧スルノ目的ヲ以テ、其地ニ侵入セシ時ニ始マル。紀元前三百然レモ當時アレキサンダーハ、其國ノ諸王ト、數回ノ戰爭ヲ爲シ、ノミニシテ、之ヲ攻畧セシニハ非ルガ如シ。

アレキサンダーノ時代ニ於テ、印度ノ社會ハ、既ニ種族ノ別ヲ立テ、之ヲ守ルコト、埃及ニ於ケルガ如シ。其種族、凡ソ四等ニ分レ、カスト第一、波羅門(Brahmin)ト云フハ、宗教、理學ヲ本務トシ、第二、シトリア

(Kshatriya)ト云フハ、兵役、政治ヲ本務トシ、第三、ヴァイシヤ(Vaisya)ト云フハ、商賈、農家ヨリ成リ、第四、スードラ(Sudra)ト云フハ、工匠、役夫ヨリ成レリ。又パリア(Pariah)ト云ハル一種族アリ。最下等ニ位シテ、最賤ノ勞役ヲ執ルコトヲ本務トス。凡テ此等ノ種族ハ、皆其職業

ヲ父ヨリ子ニ傳ヘ、又此種族ト彼種族トノ間ニ婚姻ヲ結フコトヲ禁ゼラレ、其規律甚ダ嚴ナリ。

上古ヨリ印度ニ行ハル、宗教ヲ波羅門教トス。此教旨ハ、載セテ毗陀經（此書ハ紀元前一二世紀ニ在リ。其說唯一無形ノ上帝ヲ認識スルコト勿論ナレド、全部ヲ通シテ之ヲ視レバ、上帝ヲ以テ宇宙其物ナリトシ、吾人ノ嗅ク者、味フ者、視ル者、聽ク者、感ズル者ヲ以テ、悉ク皆上帝其物ノ一部ナリト信ズルガ如シ。）

又印度人ハ、唯一無形ナル上帝ヲ以テ、三機ニ化身スル者ト爲シ、各之ニ其名ヲ附セリ。即チ其世界ノ創造者タル時ハ、之ヲブラマ(Brahma)ト云ヒ、保護者タル時ハ、之ヲヴィスヌー(Vishnu)ト云ヒ、破滅者タル時ハ、之ヲシヴ（Siva）ト云ヘリ。又印度人ハ、靈魂輪廻ノ說ヲ信シ、善人ノ靈魂ハ、死後直チニ上帝ノ靈魂ニ結合スト雖モ、惡人ノ靈魂ハ、死後輪轉シテ、下等動物ノ軀内ニ寄寓シ、而シテ一旦腐

敗シタル靈魂ハ、之ヲ清淨ニシタル後ニ非レバ、上帝ノ靈魂ニ結合スルコト能ハズト云ヘリ。

其後紀元前六百年ノ頃、印度ノ王子釋迦牟尼（Qakyanuni）ト云ヘル者、佛教ト云ヘル一ノ新教ヲ開ク。此教法ハ、社會及宗教上ニ於テ、舊波羅門教ノ弊風ヲ改革セントスルノ意ヨリ起レル者トス。此教法ハ、速カニ蔓延シテ、近鄰諸邦ニ傳ハリ、今日之ヲ奉ズル者ハ、尙世界人口ヲ三分スルノ一ニ居ル。

印度ハ、古代ニ在テハ、常ニ當時ノ文明諸國ト絶交シテ、互ニ相往來セズト雖モ、古代ノ貿易ニ影響ヲ及ボスコト、亦甚ダ大ナリトス。印度ハ、上古ヨリ眞珠、寶石、象牙、香料、乳香及絹布等ノ天然人工ノ產物ニ富ミテ、海上ニ陸地ニ廣大ナル貿易ノ中心タリ。是ヲ以テ古代ニ於テハ、フェニシヤ人、中世ニ於テハ、伊太利ノ共和國、近世ニ至リテハ、英國人、印度ノ產物ヲ歐羅巴ニ運輸販賣シテ、巨多ノ

利益ヲ占メタリ。

第七章 ペルシヤ帝國

第一節 畧史

ミイヂヤノ史ハ、之ヲペルシヤノ史ト連合スルヲ便利ナリトス、其理由ニアリ。第一、ミイヂヤ人トペルシヤ人トハ、同一ノ人種ニ屬スルコト。第二、ミイヂヤ、ペルシヤハ、初メ各獨立ノ國タリシガ、後幾クモナク、ミイヂヤノ、ペルシヤノ版圖ニ入リシコト是ナリ。ミイヂヤ人、ペルシヤ人ハ、元ト北東ナルアリヤン人種初生ノ地ニ居住シ、其後、其地ヲ出テ、所々ニ遷移シ、紀元前八百年ニ至リ、始テイランノ高原ニ居テ定メ、各國ヲ建テタル者ナルベシ。ミイヂヤ人、ペルシヤ人ハ、初メアッシリヤ人ニ隸屬シテ、其附庸タリ。其後ミイヂヤ人ハ、漸ク強盛ヲ以テ著シ、アッシリヤ人之ヲ威服スルコト能ハズ、遂ニ紀元前六百二十五年、ミイヂヤ王シヤキザ

レス、バビロニヤ王ナボポラサート兵ヲ合シテ、ニ子ヴェテ陷シ、アッシリヤ國ヲ亡ボシ、更ニ勝ニ乗シテ、小亞細亞ニ進入セリ。シヤキザレス殂シテ、其子アスチエージス (Astyages) ミイヂヤノ王ト爲ル。此時ペルシヤノ王カンビセスハ、アスチエージスニ對シテ、忠誠ヲ盡スノミナラズ、尙且貢稅ヲ納メタリ。

カンビセス曾テアスチエージスノ女ヲ納レテ后ト爲シ、一子ヲ擧ゲ、之ヲサイラスト名ク、サイラス幼ニシテ、其外祖アスチエージスニ質ト爲ル。長ズルニ及ビテ、勇健ニシテ、僞儻ナリ。常ニミイヂヤ人ノ孱弱怯懦ナルヲ見テ之ヲ賤シ、ペルシヤ人ニ教唆シテ、ミイヂヤ人ニ反セシメ、紀元前五百五十八年、ミイヂヤノ王國ヲ滅ボシ、尋テペルシヤノ王位ニ登ル。

サイラス既ニ位ニ即クヤ、直チニ兵ヲ率井テ、小亞細亞ニ侵入ス。リヂヤ (Lydia) 王クリーサス (Croesus) 之ヲ防ガント欲シ、スパルタ (Sparta)

〔埃及、バビロニアノ三國ト聯合シ、兵ヲ率ヰテヘーリス(Halis)河
 地ノ疆界ヲ爲スヤトリ。領ヲ渡リ、シヌープ(Sinope)ノ近傍ニ於テ、サ
 イラスト會戰ス。然レモサイラス其戰ニ勝テ、勢ニ乘シテ敵兵ヲ
 追躡シ、クリーサスヲ炙殺シ、サーヂス(Sardis)ヲ陥レ、遂ニ小亞細亞
 中、ヘーリス河以西ノ全土ヲ擧ゲテ、ペルシヤノ版圖ニ入レ、紀元
前五百五十次ニ小亞細亞ノ海岸ニ點綴セル希臘ノ植民地及近傍ノ
 島嶼ヲ征討シテ、其版圖ニ入ル。是ヨリサイラス王ハ、遠東ノ征討
 ニ意ヲ注キ、ペルシヤトインダス河トノ間ニ在ルパーシヤ、(Par-
 thia)バクトリヤナ(Bactriana)ソグヂヤナ(Sogdiana)等ノ諸地ヲ征服シ、終
 ニバビロン城ヲ陥落シテ、バビロニアノ大國ヲ滅セリ。紀元前
五百三十八
 年
 紀元前五百二十九年、サイラス歿シテ、其子カンビセス位ニ即ク。
 サイラスハ、在位二十九年ノ間、大ニ其版圖ヲ擴メ、東ハインダス

河ヨリ、西ハヘレスポント(Helaspont)海峡ニ至リ、北ハジギザーテス
 (Jaxartes)河ヨリ、南ハシリヤ海岸ニ至ル。
 カンビセス、ペルシヤノ王位ニ登ルヤ、其弟スメルヂス(Smerdis)ヲ
 忌ミ、刺客ヲ遣シテ、私カニ之ヲ暗殺セシム。尋テ紀元前五百二十
 五年、カンビセス埃及ヲ征シ、埃及人ノ、聖獸トシテ尊崇スル猫、犬
 等ヲ軍前ニ奉シテ進ミ、一戰ニシテ埃及ノ兵ヲ破リ、勢ニ乘シテ
 エシオピヤニ進入ス。然レモカンビセスノ兵ハ、沙漠ノ熱ノ爲ニ
 焦死シテ、殆ド雉類ナキニ至ル。
 此際ペルシヤノ首都ニ於テハ、方士ゴーマチス(Gomates)ト云フ者、
 前キニ暗殺セラレタル王弟スメルヂスナリト偽稱シ、叛徒ヲ集
 メテ、ペルシヤノ王位ヲ奪ハントス。カンビセス埃及ニ在リテ、此
 報ヲ聞クヤ、直チニ兵ヲ引キテ、ペルシヤニ歸ラントセシニ、途ニ
 シテ過チテ自ラ帶ビタル所ノ短劍ニ傷ツキテ歿ス。或ハ云フ、自
 殺セリト。

是ヲ紀元前五百二十二年ノ事トス。時ニ王位ニ在ルコト僅ニ八年ナリ。是ニ於テペルシヤノ州牧ニシテ、兼テ王ノ一族タルヒスダスペス(Hystaspes)ノ子ニ、ダライヤス(Darius)ト云フ者アリ、義兵ヲ擧ゲテ、僞王ゴーマチスヲ誅シ、ペルシヤノ王位ニ登ル、之ヲダライヤス一世トス。紀元前五百年

ダライヤスハ、帝國ノ全部ヲ二十州ニサトラピー區分シ、今マテ貢稅ヲ出ダス所ノ土着ノ王ヲ廢シテ、各州ニ州牧ト名クル官吏ヲ置キ、又從前租稅ヲ收歛スルノ風ヲ矯メテ、定額ノ貢稅ヲ徵收シ、官道ヲ設ケ、驛遞ノ法ヲ立テ、各州ニ起ル一切ノ事情ヲ迅速ニ國都ニ報知セシム。當時スイザエクバダナ(Ecbatana)バビロンヲ以テペルシヤノ三都トス。但シスイザハ、國王春季ノ居所、エクバダナハ、其夏季ノ居所、バビロンハ、其冬季ノ居所トス。

是ヨリ先キサイラス王ノ時、小亞細亞ニ在ルアイオニヤ(Tonia)ノ

希臘都府ハ、ペルシヤノ版圖ニ入リシガ、是ニ至リテダライヤス王ニ叛キ、アセニス(Athenis)人、傍ヨリ此叛逆ヲ煽動セリ。ダライヤス之ヲ怒リ、紀元前四百九十年、希臘ニ侵入シ、ペルシヤ人ト希臘人ト、マレトゾン(Marathon)ノ平野ニ兵ヲ交フルニ至ル。但シ是ヨリ以下ノ事蹟ハ、之ヲ下篇希臘史ニ讓リテ載セズ。

第二節 ペルシヤノ文明

ペルシヤ人ハ、ミーヂヤ人ト同ク、アリヤン人種ニ屬スト雖モ、更ニ之ヨリモ血脈ノ純粹ナル人種ナリトス。ペルシヤ人ハ、後世ニ至リ、卑屈頑陋ノ風ニ陥リタレドモ、其始テ歴史ニ顯レシ時代ニハ、飲酒ヲ好マズ、奢侈ニ耽ラズ、勇猛純樸ニシテ、德義アリシナリ。ペルシヤノ政治ハ、他ノ東洋諸國ノ政治ニ比スレバ、更ニ著シキ進步ヲ爲スヲ見ル。其帝國ハ、アシリヤ帝國ノ政治ノ如ク、數個ノ王國ヲ紀律ナク連合シタル者ニアラズ。諸州ニ州牧ヲ置キテ、盡

ク之ヲ國王ノ直轄ニ歸セシメタル帝國ナリ。又其政治ハ、概シテ
 温和慈仁ニシテ、古代ノ立君政治中ノ最モ高崇善美ナル者トス。
 ペルシヤ人ノ宗教ハ、埃及、アッシリヤ、バビロニヤ、フェニシヤ等ノ宗
 教ニ比スレバ、更ニ純粹ニシテ高上ナリトス。ペルシヤ人ハ、宇宙
 間ニ、光明(善)ト暗黒(惡)トノ二大原質アリテ、永恆相抵抗シテ止マ
 ザルコトヲ信ジ、此二原質ヲ尊崇シテ神ト爲ス。而シテ其光明ノ
 原質ハ、之ヲオーラマズダ(Auramazda)又ハオルマズド(Ormazd)ト名
 ク、暗黒ノ原質ハ、之ヲアリマン(Ahriman)ト名ク。
 ペルシヤニハ、其他、火教ト稱スル一種ノ教法アリテ行ハル。其禮
 拜ノ法ハ、高山ノ絶頂ニ、祭壇ヲ設ケ、壇上ニ火ヲ焚キ、之ヲ目シテ
 天火ノ降ル者ト爲シ、祭司此壇ニ登リテ、日々頌歌ヲ唱ヘ、咒杖
 ヲ執リ、魔術ヲ行フヲ例トセリ。
 建築等ノ技術ニ至リテハ、ペルシヤ人ハ直チニ之ヲアッシリヤ人

及バビロニヤ人ヨリ傳授シタルガ如シ。然レモペルシヤ人ハ、唯
 其師ニ模倣スルヲ以テ足レリトセズ、更ニ一步ヲ進メテ、自國ニ
 適用スベキ建築ノ様式ヲ創製スルニ至レリ。蓋此様式ハ、埃及及
 アッシリヤノ壯嚴煩重ナル様式ト、希臘ノ完全美麗ナル様式トノ
 中間ヲ占ムル者ナリ。
 工業ニ於テハ、ペルシヤ人ノ爲シ得ル所、幾何モナシ。蓋ペルシヤ
 人ハ、バビロン及サトデスヨリハ、毛氈、綿紗ヲ輸入シ、カシミール
 (Cashmere)及印度ヨリハ、肩巾ヲ輸入シ、埃及ヨリハ、細緻ナル麻布ヲ
 輸入シ、フェニシヤ諸邑ヨリハ、種々ノ製造品ヲ輸入スルヲ以テ、製
 造ニ従事スルノ必要ヲ感セザリシナルベシ。

附記

小亞細亞ノ半島ハ、古代ヨリ數國ニ分カル。然レモ此諸國ノ歴
 史中、甚ダ緊要ナル者ハ、フリジヤ(Phrygia)リヂヤノ二國ノ歴史

ニ過ギズ。

上古ノ時、小亞細亞ニ威權ヲ擅ニセシ國ヲフリジヤトス。此國一時隆盛ノ時ハ、小亞細亞ノ全部ヲ占メテ、其版圖トセリ。此國ノ人民ハ、農商ノ二業ニ從事シ、國都ヲゴीडヂヤム(Gordium)ニ奠メ、ゴीडヂヤス(Gordias)マイダス(Midas)ト稱スル王アリテ、代ルル之ヲ治ム。其後紀元前五百六十年ニ至リ、フリジヤ國滅シテ、リヂヤノ版圖ニ入ル。

リヂヤハ、第七世紀ノ頃ヨリ、小亞細亞ニ威權ヲ擅ニセリ。此國ノ最後ノ王ヲクリーサスト云フ。此王ハ、鉅萬ノ財寶ヲ貯蓄シタルヲ以テ、歴史上ニ高名ナリ。ペルシヤ王サイラスノ、兵ヲ率井テ、西亞細亞ニ侵入スルヤ、クリーサスハ、スパイダ、埃及、バビロニアノ三國ト聯合シ、之ヲシヌープニ邀ヘテ戰ヒタリ。然レモ上文ニ記シタルガ如ク、此戰ヤ、クリーサス大ニ敗績シテ、敵

兵ニ虜ニセラレ、リヂヤハ、ペルシヤノ郡縣トナレリ。是ヲ紀元前五百五十四年ノ事トス。

第二篇 希臘史

第一章 地勢及人種

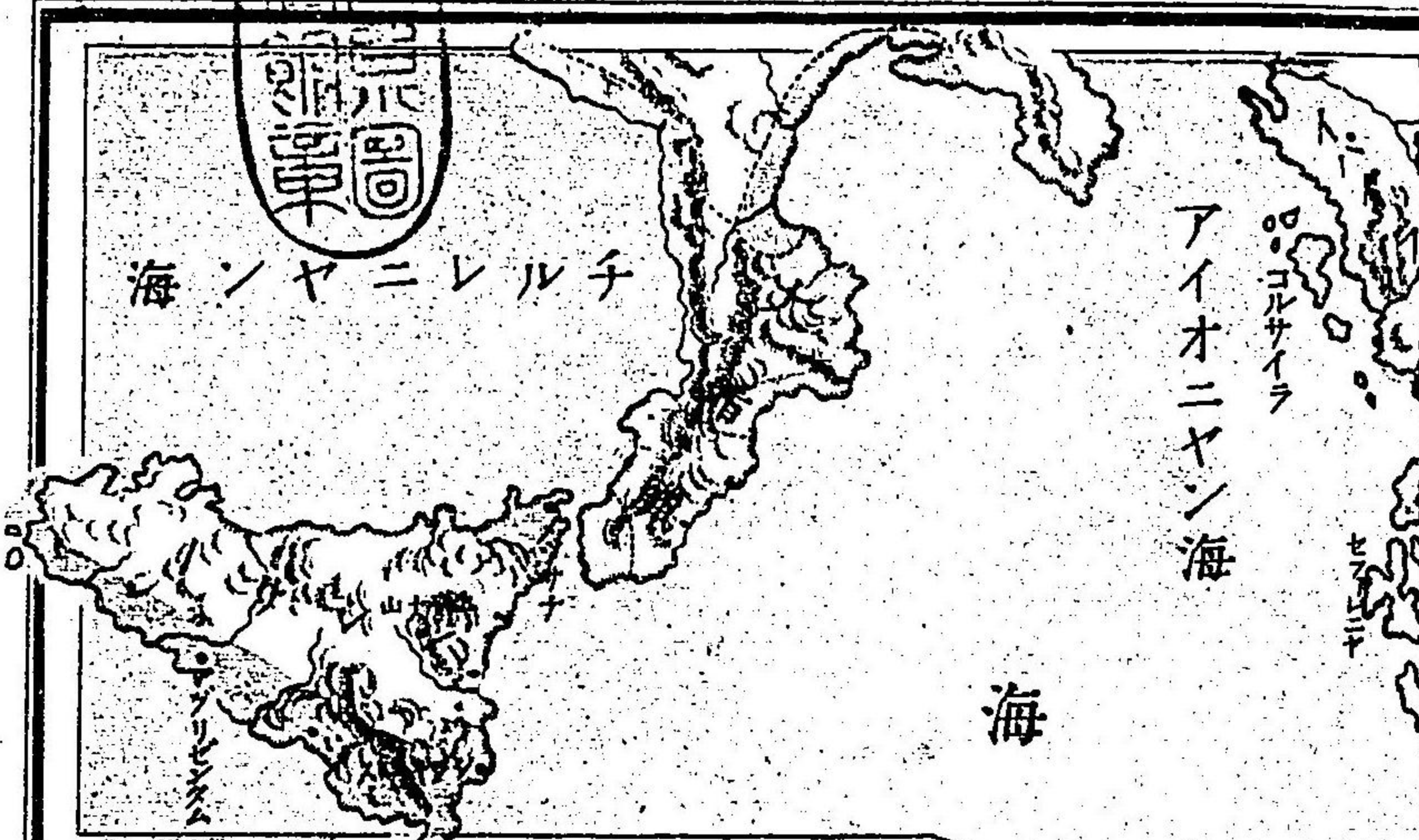
希臘人ハ、アリヤン科即チ印度歐羅巴科ノ一支族ニシテ、羅馬人ト同族ナリ。之ヲ言語ニ徵スルニ、希臘人、伊太利人ノ祖先ハ、元ト亞細亞ナルアリヤン人種初生ノ地ニ同居共住セシガ、紀元前二千年ノ前後ニ當リ、其地ヲ出テ、歐羅巴ニ遷移シ、然ル後其一支族ハ、希臘ノ半島ニ移住シ、他ノ一支族ハ、伊太利ノ半島ニ遷移シタルコト明白ナリトス。

希臘ノ本部ハ、長サ二百五十哩、廣サ百八十哩ノ半島ニシテ、其廣袤凡ソ我邦ノ南海道ニ同シ。此地自然ノ形勢ニ由リ、分チテ北希臘、中希臘、南希臘ノ三大部トス。北希臘ハ、希臘ノ北界ヨリ起リ、メーリス(Mais)アンダローシヤ(Ambrocia)ノ兩灣ム一灣ニアクテヤ東西ヨリ深入スル所ノ地ニ至ル。中希臘ハ、其兩灣ノ深入スル所ノ地ヨ

リ、コリンス(Corinth)ノ地峽ニ至ル。南希臘ハ、往古ペロポネ子サス(Peloponnesus)ト稱シ、方今モレヤ(Morea)ト稱スル地是ナリ。

北希臘ハ、分チテセッサリー(Thessaly)イパイラス(Epirus)ノ二國トス。此二國ノ北ニ、マセドニヤ(Macedonia)國アリ。マセドニヤ國ハ、希臘人ト血脈ヲ同クセル國王ノ管轄ニ屬スト雖モ、後世ニ至ルマテ、之ヲ希臘ノ一部ニ加ヘズ。中希臘ハ、分チテ十一國トシ、其最モ顯著ナル國ヲアッチカ(Attica)トス。アッチカハベオシヤ(Beotia)ノ南東ニ斗出スル一大半島ニシテ、長サ七十哩、廣サ三十哩アリ。其首府アセンスハ、希臘全國ノ大都會タリ。南希臘即チペロポネ子サスハ、分チテ七國トシ、其最モ顯著ナル國ヲラコニヤ(Laconia)トシ、一名ラセゲイモン(Lacedaemon)トス。其首府スパルタハ、アセンスニ次グル大都會ナリ。

希臘近海ノ諸島ハ、古代希臘ノ最モ重要ナル部分ヲ爲ス。東岸ノ一大島ヲエーベヤ(Euboea)ト云フ。長サ一百哩アリ。西岸ノ一大島ヲ



希臘及其植物民地

代時ノ争戰スサ子ンボロベ
ニヤリオエ色黄
ニヤニオイア色紅
ニヤリ下色紫

子加 亞

コルサイラ (Coreyra) ト云ヒ、南岸ノ一大島ヲクリート (Crete) ト云フ。
クリート島ハ、其長サ百五十哩アリ。又エジヤン海中ニ許多ノ群
島アリ。其最モ重要ナル者ヲ、シクラデース (Cyclades) 群島ト云ヒ、ス
ボラデース (Sporades) 群島ト稱ス。此二個ノ群島ハ、希臘ヨリ亞細亞
マテ連続スルコト、恰モ數條ノ碇ノ如シ。
紀元前二千年ノ比、ペラスジ (Pelassii) ト名クルアリヤン科ノ一
支族、希臘ニ入りテ、其地ヲ占ム。此種族ハ、畧、文明ニ進ミテ、田圃ヲ
耕耘シ、城市ヲ建設スルコトヲ知レリ。方今粗糲ナル大石ヲ積ミ
重キテ築キタル墳墓又ハ城壁ノ所々ニ在ルハ、即チペラスジ
人ノ作リシ所ナルベシト云フ。
其後亦アリヤン科ノ一支族ニシテ、ヘレン (Hellen) ト名クル勇悍
兇猛ノ種族アリ。セッサリ (Sassar) ヨリ下リテ、南方ニ侵入シ、ペラスジ
人ヲ追ヒ出ダシテ、終ニ希臘ノ半島ヲ占領セリ。此ヘレン人ハ、分

チテ四大族トス。ドリヤ(Doria)族、エオリヤ(Eolia)族、アキヤ(Achaean)族、アイオニヤ族是ナリ。

エオリヤ族ハ、北希臘ヨリ、ペロポネサスノ西岸ニ蔓衍シ、アキヤ族ハ、ペロポネサスノ南部及東部ヲ占領シ、アイオニヤ族ハ、ペロポネサスノ北岸ヨリ、東ノ方アッチカニ延長セル狹隘ナル地峽ヲ占領シ、ドリヤ族ハ、希臘ノ北方ヨリ、エター(Attica)山ノ南坡ヲ占領シ、ペラスジ(Perseus)ノ殘餘ナルアーカヂヤ(Arcadia)人ハ、ペロポネサスノ中央ヲ占領セリ。

此時代ニハ、未ダ真正ノ歴史アラズ。唯英雄豪傑ノ軍功ヲ記述シタル小説的ノ傳記アルノミ。因テ史家此時代ト名ク。此時代ニ在リテ、英雄豪傑ノ企圖シタル大擧ハ、前後四回トス。最後ノ大擧ハ、トロイ(Troy)城ノ攻圍ニシテ、此事載セテホーマー(Homer)ノ詩篇イリヤドニ詳ナリ。今左ニ其傳説ノ大意ヲ擧グ。

トロイ王プライヤム(Priam)ノ子パリス(Paris)曾テスパイダニ來リ、國王メネロス(Menelaus)ノ后ヘレン(Helen)ト姦通シ、之ヲ奪ヒテ其國ニ歸ル。ヘレンハ、當時最モ國色ノ名アリシ婦人ナリ。メネロスノ召集ニ因リ、希臘諸國ノ王子兵器ヲ携ヘテ集マリ、メネロスノ兄弟ナルアガメンノン(Agamemnon)ヲ選ビテ、トロイ遠征ノ都督トシ、エジヤン海ヲ航行シテ、トロイニ至リ、直チニ其城ヲ攻圍ス。小亞細亞ノ諸國ハ、トロイヲ援ケザル者幾ド希ニシテ、勇猛ヲ以テ稱セラレタルプライヤムノ子ヘクトル(Hector)トロイ軍ノ都督トナリ、希臘人ヲ追撃シテ其陣所ニ至リ、將ニ希臘ノ船ニ放火セントス。偶希臘ノ陣中ニアキレス(Achilles)ト云フ者アリ。勇敢俊捷ヲ以テ稱セラル。希臘人ノ危急ヲ見テ、措クコト能ハズ、己ノ甲冑ヲ脱シテ、其朋友パトロクラス(Patroclus)ニ與ヘ、ミルミド人ヲ率井テ、敵兵ヲ攻撃セシメタルニ、パトロクラス僅ニ

トロイ人ヲ船舶ヨリ逐ヒ出ダスヤ否ヤ、ヘクトル槍ヲ以テ、パトロクラスヲ刺殺ス。アキレス之ヲ視テ、直チニ進ミテ敵ニ向ヒ、ヘクトルト單身ノ争鬪ヲ爲シ、遂ニ之ヲ殺ス。希臘人ハ、トロイヲ圍ムコト十年、然レモ城堅クシテ拔ケズ。彼我トモニ其最モ勇敢ナル戰士ヲ失ヒシ後、狡猾ナルユリッセス (Ulysses) ノ謀計ヲ以テ、希臘ノ勇士ヲ木馬ニ惑レテ、城中ニ潜マシメ、終ニトロイ城ヲ陥ル、コトヲ得タリト云フ。此トロイ落城ノ傳説ハ、全ク事實ト看做スベキ者ニアラズト雖モ、近世學士ノ探究ニ因リ、其大ニ事實ニ基ヅク所アルコトヲ發見セリ。

此時代ニ於テ、希臘社會ノ景况ハ、載セテイリヤド、オヂ、セーノニ詩篇ニ詳ナリ。第一、立君政治ノ一般ニ行ハレシコト。第二、各種族ノ權勢甚ダ強クシテ、各都府ノ權勢ヲ壓セシコト。第三、世襲ノ貴族アリテ、國王ノ議事ニ參與セシコト。第四、國會アリテ、時々國王

ノ下問ニ應ジ、兼テ審判ノ證人タリシコト。第五、一夫一婦ノ風行ハレテ、婦人ノ一般ニ尊敬セラレシコト。第六、奴隸ノ制、到ル處ニ行ハレテ、世人之ヲ正當ト思考セシコト。第七、希臘ノ列國、互ニ戦争ヲ爲シ、殊ニ武勇ノ德ヲ重シタルコト。第八、世人深ク群神ト運命トヲ信仰シ、神殿ト祭儀トハ、殊ニ之ヲ神聖視セシコト是ナリ。

口碑ノ傳フル所ニ據レバ、此時代ニフェニシヤ人及埃及人ノ希臘ニ植民セシ者アリト云フ。此等植民ノ事ハ、今日學士ノ疑ヲ容ル、所ナリ。然レモ希臘人が、近海ノ島嶼ニ蔓衍セシ時、フェニシヤ人ハ、地中海ノ海岸ニ居住シテ、活潑ニ貿易ニ從事シタルヲ見レバ、當時希臘人ト、フェニシヤ人ト交通シテ、其字母ノ如キモ、フェニシヤ人ヨリ傳授シタルコト知ルベシ。又當時希臘人ハ、埃及人ト往來シテ、文學技術上ノ知識ヲ傳授シ、且幾分カ埃及教法ノ感化ヲ受ケタルコトハ、之ヲ事蹟ニ徵シテ、明白ニ知ラル、ナリ。

第二章 第一期ノ歴史
第一節 希臘史ノ起原

希臘史ハ、分チテ三期トス。即チ紀元前一千一百年ドリヤ人ノ遷移ヨリ、ペルシヤ戦争ノ始ニ至ルマデヲ第一期トシ、ペルシヤ戦争ノ始ヨリ、マセドニヤ王フリッポ(Philip)ノ希臘ヲ征服スルニ至ルマデヲ第二期トシ、フリッポ王ノ希臘ヲ征服スルヨリ、羅馬人ノ希臘ヲ攻畧スルニ至ルマデヲ第三期トス。
第一期ノ始ニ於テ記スベキ者ハ、ヘレン人ノ大遷移トス。紀元前一千一百年ノ比ニ當リテ、希臘ノ北方ヨリ、エズー山ノ南坡ヲ占領シタルドリヤ族ハ、ペロポネ子サスニ侵入シテ、アタイヤヲ亡ボシ、ラコニヤ(即チラセデーモン)ヲ略シテ、漸ク其近鄰ノ諸國ヲ蠶食セリ。是ニ於テアタイヤ族ハ、ドリヤ族ニ強迫セラレテ、ペロポネ子サスノ南部及東部ヲ出テ、アイオニヤ族ヲ逐ヒテ、北方ノ

海岸ニ移リ、アイオニヤ族ハ、アタイヤ族ニ強迫セラレテ、ペロポネ子サスノ北方ノ海岸ヲ出テ、其同族ノ居住セルアッチカニ逃通ス。是ニ於テアイオニヤ族ハ、威ヲ希臘ニ擅ニスルノミナラズ、尙且エジヤン海ノシクラデース群島中ニ蔓衍セリ。
ヘレン人ノ大遷移ノ一大結果ハ、希臘人が小亞細亞ノ海岸ニ植民シタルコト是ナリ。此等ノ植民地ヲ建設シタルハ、エオリア、アイオニヤ、ドリヤノ三族ニシテ、乃チエオリア族ハ、ミシヤ(Mysia)ノ海岸レスボス(Lesbos)島ニ植民シテ、エオリスト名クル同盟國ヲ立テ、アイオニヤ族ハ、リヂヤノ海岸及カイオス(Chios)セーモス(Samos)ノ二島ニ植民シテ、アイオニヤト名クル同盟國ヲ立テ、ドリヤ族ハ、小亞細亞ノ南西隅及其近鄰ノ島嶼ニ植民シテ、ドリスト名クル一國ヲ建テタリ。此等植民地ノ内、最モ顯著ナル者ハ、アイオニヤ植民地ニシテ、エオリア植民地之ニ次ギ、ドリヤ植民地又

之ニ次ク。紀元前

小亞細亞ノ外ニ、當時希臘人ノ植民セシ地方甚ダ多シ。其著明ナル者ハ、スレントス、(Thrace) マセドニアノ沿海ニ在ル植民地、シシリヤ(Sicily)ノ植民地、下伊太利ノ植民地、大希臘亞弗利加ノ北濱ナルシレネ(Orlene) 一名カシレノ植民地是ナリ。又極東ニ於テハ、ユークシネ(Euxine) 海黒ノ海岸、極西ニ於テハ、マシリヤ(Massilia) 方今ノマルセイユニシテ、希臘ノ植民地アリ。

紀元前一千年ノ頃、ヘレン人ノ大遷移全ク定マリ、各地ニ分配ス。然レモ此諸支族中、最モ顯著ナル者ハ、僅ニ二族ニ過ギズ。一ハアイオニヤ族ニシテ、之ヲ代表スル國ヲアセンストシ、一ハドリヤ族ニシテ、之ヲ代表スル國ヲスパイダトス。此二種族ハ、彼此其性質等ヲ異ニスルガ爲ニ、終始互ニ相對敵シテ和セズ。蓋アイオニヤ族ハ、性質活潑剛毅ニシテ、貿易ヲ事トシ、民主政治ヲ好ミ、高上

ナル遊戯ニ耽リテ、美術ヲ研究セリ。ドリヤ族ハ、風俗極メテ簡朴ニシテ、貴族政體ヲ好ミ、最悪ナル奴隸ノ制ヲ採用セリ。

紀元前七百七十六年、始テ希臘ニ於テオリンピヤド(Olympiad)ノ

祭儀ヲ執行ス。オリンピヤドトハ、イーリス(Iris)ノ近傍ニ於テ、オ

リンピヤン、ジピター(Olympian Jupiter) 名神祭ルノ儀式ニシテ、是ヨ

リ後四年ゴトニ必ズ之ヲ執行スルコトトセリ。此頃、希臘ノ政體大ニ變革シ、先キニ君主ヲ立テ、之ニ臣從セシ希臘ノ各國ハ、立君政治ヲ廢シテ、共和政治ヲ立テ、幾個ノ自由ナル小國、希臘ノ全土ニ碁布スルヲ見ル。然レモ獨リスパイダノ一國ノミハ、國王ヲ廢セズ。

第二節 スパイダ、アセンスノ勃興

ドリヤ人、南希臘ノ半島ニ侵入シテ、アゴス(Argos) ムセニヤ、(Messenia) ラコニヤ、即チモラセノ三國ヲ建立セシ後、ラコニヤ人ハ、漸ク

強盛トナリテ、他ノ近隣諸國ヲ轄制スルニ至ル。ラコニヤ人ハ、史上ニ所謂スパルタ人はナリ。

スパルタ人が強盛トナリテ、ペロポネサスノ諸國ヲ轄制スルニ至リシ所以ハ、主ニライカイガス(Lycurgus)ト名クル者ノ法制ヲ立テタル結果トス。ライカイガスノ人ト爲リニ就キテハ、記録ノ徵スベキ者ナク、甚シキニ至リテハ、其人ノ有無ヲ疑フ者アリ。然レモ紀元前八百五十年ノ頃、此人ノ、スパルタニ出テ、從來ノ慣習制度ヲ改革整頓セシト云フコトハ、信ズベキ事實ナリ。

ライカイガスノ法制ハ、強健勇敢ノ人種ヲ養成スルヲ以テ目的トスルガ故ニ、政治上ニ關係スルヨリハ、寧ロ人民各自ノ生活、及躰育上ニ關係スルコト多シトス。其制度ニ據レバ、スパルタノ男子ハ、生レテ七歳ニ至レバ、其家ヲ辭シテ、主務ノ官吏ニ就キ教育ヲ受ケザルベカラズ。又スパルタ人ハ、常ニ共同シテ生ヲ送り、各

其田圃ノ物産ヲ齎ラシ、相伴ヒテ、食堂ノ卓ニ就キ會食セザルベカラズ。而シテ其食極メテ粗惡ナリ。又スパルタノ政府ハ、人民ニ教フルニ體操ト兵法上ノ操練トヲ以テシ、又之ニ教フルニ身ヲ飢渴ト寒暑トニ慣ラシ、一點ノ不平ナクシテ、最モ劇烈ナル困苦ヲ忍耐スルコトヲ以テス。又政府ハ、詭計ト秘密トヲ教フルノ目的ヲ以テ、殊ニ免許ヲ與ヘテ、遠征シテ盜ヲ爲サシメ、若シ此遠征ノ擧ニ於テ露見スルコトアレバ、之ニ被ラシムルニ嚴刑ヲ以テセリ。又女子ニハ、殆ド男兒ニ同シキ體操ノ科ヲ教フルヲ以テ、其資性自ラ勇悍ニシテ、國ヲ愛スルノ心ヲ生シ、其愛國心ノ、男子ノ心ニ感徹シテ、非常ノ影響ヲ及ボシタルハ、歷史上顯著ナル事實トス。スパルタノ母、其子ノ戰陣ニ出ヅル時、必ず之ニ諭シテ曰ク、汝ノ盾ヲ以テ歸レ、然ラザレバ汝ノ盾ノ上ニ乘リテ歸レト。

スパルタノ教育ハ、偏ニ武士ヲ養成スルヲ以テ目的トスルガ故

ニ、文學、技術ノ如キハ、毫モ之ヲ獎勵セズ。辯論術ノ如キハ、殊ニ之ヲ輕蔑シ、哲學ノ如キハ、格言ヲ以テ之ニ代用シ、スパルタノ府民ノ貿易通商ニ從事スルコトヲ禁シ、二三ノ商業上ノ取引ニハ、鐵ノ貨幣ノミヲ用フルコトヲ許ス。美術ハ、人民ヲ遊惰ノ風ニ誘フ者ト看做シテ之ヲ擯斥シ、專ラヒーロット(Helot)ノ賤民ヲシテ、農業ノ勞ヲ執ラシム。蓋ライカイガスノ此法ハ、スパルタ人ヲシテ強壯勇敢ノ武人ヲラシメタルコト、疑ヲ容レズト雖モ、然レモ亦彼ヲシテ魯鈍不仁ノ人民ヲラシメタル者多シト謂ハザルヲ得ズ。スパルタノ政躰ハ、上ニ二人ノ王アリテ、相雙ヒテ國ヲ治メ、兵士ノ出役ヲ命ジ、祭祀ヲ司ル。然レモ其威權ハ、僅ニ名ノミニ過キズシテ、常ニ上院及民會ノ爲ニ其權ヲ制限セラル。又毎年民會ヨリエフォル(Ephor)ト名クル官五名ヲ選舉シ、之ニ委託スルニ政治上ノ全權ヲ以テス。故ニスパルタハ、王國ノ名義ニシテ、其實ハ共和

政治ナリ。

スパルタハ、ライカイガスノ法制ニ養成セラレテ、武勇ノ國トナリ、メッセニヤ人ヲ攻畧シ、アイゴス人ヲ壓服シ、己ノ地位ヲ高メテ、ドリヤ共和國ノ頭領トナレリ。スパルタハ、紀元前六百年ノ比、既ニペロポントサスノ顯國トナリ、ペロポントサス以外ノ希臘諸國ノ内情ニ干涉スルコトヲ始メタリ。此際ニ於テ、若シペルシヤ人ノ侵入ニ抵抗セシガ爲ニ、其兵ヲ合スルコトナカリセバ、希臘ノ諸國ハ、盡クスパルタノ轄制ニ屬セシヤ、未ダ知ルベカラズ。スパルタノ勃興セシ同時ニ、民政ノ自由ヲ重シ、兼テ希臘ノ全土ニ知識上ノ威權ヲ擅ニスル所ノ一國ノ勃興スルアリ。アセンス即チ是ナリ。アセンス人ハ、アイオニヤ人種中最モ俊秀ト爲ス。アセンスノ建國ハ、遠ク豪雄ノ時代ニ屬シ、國初アセンス人ハ、他ノヘレン人ノ

如ク、立君政治ヲ立テシガ、アセンス正史ノ始マル頃ニ至リ、國王ヲ廢シテ、共和政治ヲ立ツ。アセンスノ最後ノ王ハ、コドラス (Cottus)ト稱セリ。

然レモ當時アセンスノ政務ハ、人民一般ノ共議ヲ以テ、之ヲ處理スルニ非ズ、唯特權ヲ有セル貴族輩ノ處理スル所ナリ。故ニアセンスハ、共和政治ト稱スベシト雖モ、未ダ民主政治ト稱スベカラズ。國王ヲ廢セシ以來アーコン (Archon) 官ヲ置キテ、一切ノ政務ヲ總理セシム。此官ハ始メ定員一名ニシテ、王族ニ限り、其在職期限ハ、一生涯ナリシガ、其後十年間ノ在職ニ改メタリ。又其後アーコン官ハ、貴族總體ヨリ選任スルコトト爲シ、其定員ヲ増シテ九名トシ、更ニ職期ヲ減シテ、一年トセリ。アーコン官ノ外ニ上院アリ。後名ケテアレオパ。專ラ貴族ヲ以テ之ヲ組織シ、衆民ヲシテ毫モ政治上ニ參與セシメズ。是ヲ以テアセンスニ於テハ、少數ノ貴族、

其權ヲ濫用シテ、甚シク衆民ヲ壓制スルコト往々之アリ。アセンスニ於テハ、貴族ノ輩、衆民ヲ壓制スルコト甚シク、衆民ノ苦情、終ニ堪フベカラザルニ至ルヲ以テ、紀元前六百二十四年ドレイコ (Draco)ト名クル政事家ヲ公選シ、之ニ委託スルニ法律編成ノ事ヲ以テス。此法律極メテ峻嚴ニシテ、罪ノ輕重ヲ問ハズ、盡ク之ヲ死刑ニ處ス。然レモドレイコハ、其刑罰ノ峻嚴ナル所以ヲ辯解シテ曰ク、罪ノ輕キ者ト雖モ、宜シク死刑ニ處スベシ。罪ノ重キ者ヲ罰スルニ至リテハ、死刑ヨリ重キ刑アルコトヲ知ラズト。ドレイコ既ニ法律ヲ編制シタレモ、尙未ダ衆民ノ苦情ヲ鎮定スルコト能ハズ。貴族ノ輩、衆民ヲ虐グルコト益甚シク、衆民騷擾シテ、一時無政府ノ景況ニ陥リタリ。然レモ紀元前五百九十四年アーコン官ニソロン (Solon)ト名クル者アリ、アセンスノ憲法ヲ改革スルノ任ヲ委托セラレ、能ク其任ニ勝ヘテ、本國幸福ノ基礎ヲ開

ケリ。
 ソロンノ憲法ノ主トスル所ハ、暴虐壓制ノ貴族合議ヲ廢シテ、之ニ代フルニ寛仁温和ナル中和政治ヲ以テスルニ在リ。故ニアセ
 ンスノ府民ニ參政ノ權ヲ得セシムト雖モ、又貴族ニ特權ヲ與ヘ、
 其威權ヲシテ平民ヨリ重カラシメタリ。其法制頗ル政治上ノ才
 智ヲ彰表スル者ト云フベシ。然レモ尙未ダ當時諸黨派ノ心ヲ滿
 足セシムルコト能ハザル所アリテ、一方ヨリハ、急激ニ過グルノ
 謗ヲ受ケ、又一方ヨリハ、温和ニ過グルノ誹ヲ得タリ。
 是ニ於テ兩黨ノ間ニ、爭鬪ヲ來タシ、紀元前五百六十年、黨派ノ首
 領ピシストラダス(Pisistratus)ナル者、總裁チカラシメイ希臘人ト名ケテ、官ニ
 任シ、アセンスノ政權ヲ掌握セリ。ピシストラダスハ、ソロンノ制
 定シタル政體ヲ廢セズシテ、却テ之ヲ認定シ、仁政ヲ施シ、技術ヲ
 勸奨シ、ホーマーノ詩篇ヲ校訂スル等、治績甚ダ多シ。ピシストラ

ダス歿シテ、其諸子之ニ嗣ギ、アセンスヲ統轄スルコト、凡ソ五十
 年ニシテ、アセンスヲ放逐セラル。紀元前五
 百十年

ピシストラダスノ一族、アセンスヲ放逐セラレ、後、幾クモナク、
 貴族クリッセニース(Olischenes)ト云フ者、アセンスノ政權ヲ掌握セリ。
 クリッセニースハ、平民黨ノ保護者ニシテ、自由ノ人民ニハ、皆之ニ
 與フルニ選舉權ヲ以テシ、憲法ヲ改正シ、政體ヲ變更シテ、純然タ
 ル民主政治ト爲シ、アセンスヲシテ、中希臘ノ強國タラシメタリ。
 今記述スル所ノ時代、即チ紀元前五百年ノ初ニ至リテ、アセンス、
 スパルダノ二國、既ニ強盛ニ達シ、其他ノ希臘諸國ノ如キモ、既ニ
 其國體ヲ整ヘシニ、此際希臘人ハ、ペルシヤ人ノ侵入ニ遭遇シ、備
 ニ艱難辛苦ヲ嘗メテ、更ニ強健高崇ノ人民ト爲ラントス。

第三章 第二期ノ歴史

第一節 ペルシヤ人ノ入寇

紀元前五百二十一年、ペルシヤノ王カンビセス殞シテ、ダライヤ
 ス其位ヲ嗣グ。是ヨリ先キ小亞細亞ノ海岸ニ在ル希臘都府ハ、リ
 ザヤ王クリーサスニ攻畧セ、ラレテ、其版圖ニ入リシガ、ダライヤ
 ス、王位ニ登ルニ及ビテ、リヂヤ國ヲ滅ボシ、小亞細亞ノ海岸ニ在
 ル希臘都府ヲ擧ゲテ、皆ペルシヤノ版圖ニ入レタリ。然レモ未ダ
 幾クナラズシテ、アイオニアノ諸邑ハ、ペルシヤニ從屬スルヲ厭
 ヒ、一般ニ兵ヲ擧ゲテ叛キ、援テ其同族アセンス人ニ乞フ。アセン
 ス人ハ、兵艦二十艘ト、兵若干トテ小亞細亞ノ海岸ニ上陸セシメ、
 リヂヤノ首府サーヂスヲ攻メテ之ヲ陷レ、火ヲ放チテ之ヲ焚ケ
 リ。紀元前四百九十九年
 アセンス人が、サーヂスヲ焚燒セシ報ノ、ペルシヤニ達スルヤ、ダ
 ライヤスハ、之ヲ聽キテ、怒ルコト甚ダシ。オーラマズダ人ハ、信ズヤ
 ノル神ニ祈禱スルニ、アセンス人ニ復讐スルノ補助ヲ與ヘンコト

ヲ以テシ、且其僕ノ一人ヲシテ、毎日三次其正餐ニ向ヒシ時、主ヨ
 アセンス人ヲ忘ル、コト勿レトノ語ヲ反覆セシム。
 ダライヤスハ、其女婿マードニヤス(Mardonius)ヲシテ、アセンスニ向
 ヒ兵ヲ進メシム。陸軍ハ、スレーヌヲ經テ、マセドニヤニ進ミ、直チ
 ニ其地ヲ征服スト雖モ、之ヨリ遠ク進ムコト能ハズ。又陸軍應援
 ノ爲ニ送ラレタル艦隊ハ、マウント・エーソス(Mount Athos)ノ半島
 ノ沖ニテ暴風ニ遇ヒテ、概チ破壊シ、マードニヤスハ、耻辱ヲ帶ビ
 テ、小亞細亞ニ歸レリ。紀元前四百九十二年
 ダライヤスハ、憤怒益甚シク、再ビ大軍ヲ興シテ、希臘ニ侵入スル
 ノ準備ヲ爲シ、同時ニ使ヲ希臘ノ諸邑ニ送り、恭順ノ標識トシテ、
 土ト水トヲ貢獻セシム。然レモアセンス、スパルダノ二國ハ、斷然
 ダライヤスノ要求ヲ謝絶シ、協同一致シテ、ペルシヤ人ニ敵ヒン
 トシ、他ノ小國モ、亦アセンス、スパルダノ爲ス所ヲ見テ之ニ倣ヒ、

同盟連合セリ。スルニ

紀元前四百九十年ノ春、ペルシヤノ軍備既ニ整ヒ、其將ダイチス(Datis)ト名クル者、大軍ヲ集メ、六百艘ノ兵艦ヲ熾シ、セーモス島ヨリ解纜シ、エジヤン海ヲ横キリ、行クニシクラダイス群島ヲ攻略シ、ユーベヤ島ナルエントリヤ(Eretria)ヲ陥ル、ノ後、アチカノ東



ミルチアデイス

ニ於テ、其兵ニ十倍セルペルシヤノ兵ニ會シ、奮戦シテ大ニ之ヲ破レリ。時ニ紀元前四百九十年九月ナリ。スルニ
濱ナルマレージン(Marathon)灣ニ上陸シ、將ニアセンスニ向ヒテ進マントス。
アセンスニ於テハ、兵一萬人ヲ出ダシ、プラテヤ(Platen)ノ援兵六百人之ヲ助ケ、ミルダイヤデイス(Miltiades)之ガ大將ト爲リ、滿腔ニ愛國心ヲ懷キ、マレージンノ原野

ペルシヤ王ダライヤスハ、憤怒ニ勝ヘズト雖モ、他ノ事件ノ注意ヲ惹ク者アルヲ以テ、再ビ希臘ト戦フノ暇ナシ。紀元前四百八十年ダライヤス溘然トシテ歿シ、其子ゼルキジース(Xerxes)ペルシヤノ王位ニ登ルヤ、直チニ父王ノ遺志ヲ繼キテ、更ニ希臘ニ向ヒテ猛烈ナル侵入ヲ爲サントス。時ニマレージンノ戦ヲ距ルコト十年ナリ。

此十年ノ間、アセンス人ハ、決シテ戦争ノ準備ニ怠ラズ。當時アセンスノ首領ヲセミストクリース(Themistocles)アリスダイデイス(Aristides)ノ二人トス。セミストクリースハ、アセンスノ全力ヲ盡シテ、ペルシヤ人侵入ノ虞ニ準備シ、殊ニ海軍ヲ擴張スルノ必要ナルコトヲ主張セシガ、アリスダイデイスハ、此政略ニ反對シ、二人久シク敵對スルノ後、終ニアリスダイデイスハ、貝殼ノ彈効法貝殼ノ彈効法ト名ハ、凡ソ國ノ内ニ記シテ、之ヲシク彈効ス、苟モ衆人ニ其名ヲレノ彈効法ト名ハ、凡ソ國ノ内ニ記シテ、之ヲシク彈効ス、苟モ衆人ニ其名ヲ

逐チセラレラル、十年、者ハ、必ズ本國ヨリ放ニ因リテ、其國ヲ放逐セラレ。
 ペルシヤ王ゼルクジースハ、其領地ノ各部ヨリ、未曾有ノ大軍ヲ
 招集シテ、サーヂスニ屯セシメ、ヘレスポント海峡ニ船橋ヲ架シ
 テ、ペルシヤノ大軍戦士水夫五百五十名ト云テ、凡テ歐羅巴ニ渡シ、別ニ又
 大艦千二百艘毎艦ノ水夫二百名ト云テ、凡テ小艦數艘ヨリ成ル所ノ大艦隊ヲ艦
 装ス。既ニシテ艦隊ハ、針路ヲ北ニ取リテ、ヘレスポント海峡ニ至
 リ、是ヨリ西ニ轉シ、海岸ニ沿ヒテ航進シ、陸地ノ大軍ト絶エズ交
 通應援ヲ爲シ、陸軍ハ、ヘレスポント海峡ヲ渡ルノ後、スレーズ、マ
 セドニヤヲ經テ、セッサリニ侵入シ、徑チニア、チカニ向ヒテ進ム。
 希臘人ハ、エダトノ峻山トメーリス灣頭ノ沼地トノ間ニアル狹
 隘ナル山路是チ有名ナル山路トモヒニ據リテ、敵兵ヲ遮欄セント
 欲ス。當時サーモビレニ據リテ、敵兵ヲ防禦スルノ任ニ當ル者ハ、
 スパーダ王レオニダス(Leonidas)ニシテ、其率井ル所ノ兵士七千人

ノ内、精兵僅ニ三百人ニ過ギズ。盖此時希臘ニ於テハ、偶祭儀ヲ張
 ルノ時期ニ際スルヲ以テ、其儀式ヲ終フルマデ、唯山路ヲ保守ス
 ルニ足ルノ兵ヲ派遣セシナリ。
 希臘ノ兵士ハ、勇ヲ振ヒテ敵兵ヲ防ギ、激戦スルコト二日ニ及ベ
 リ。然ルニ第三日ニ至リテ、希臘ノ兵士ノ、敵ニ内通スル者アリ、ペ
 ルシヤ王ニ告グルニ、山路ヲ回リテ、希臘人ノ背後ニ出ツベキヲ
 以テス。希臘ノ將校ハ、ペルシヤ人ノ間道ヲ踰ユル者アルヲ聞キ、
 既ニ山路ノ防禦スベカラザルヲ知り、直チニ兵ヲ引カント欲ス。
 然レモレオニダスハ、之ヲ聽カズ、武士タル者ハ、スパーダノ國法
 ニ從ヒ敵破ルカ、然ラザレバ、其止リ防グ所ノ地ニ戦死セザル
 ベカラザルコトヲ主張セリ。其率井ル所ノ三百ノスパーダ人ハ、
 レオニダスト同一ノ感覺ヲ以テ動かサレ、七百ノセスピヤ(The-
bes)人モ亦スパーダ人ト生死ヲ共ニセント決心ス。レオニダス之

ニカヲ得テ、同盟ノ兵ノ退散セント欲スル者ハ、其随意ニ退散スルヲ許シ、殘餘ノ兵ヲ率井テ、山路ノ前面ナル廣原ニ進ミ、勇氣ヲ奮ヒテ、ペルシヤ人ヲ攻撃ス。然レモ敵兵、前後ヨリ進入シテ、希臘人ヲ圍ミ、槍折レ馬斃レテ、レオニダスハ、終ニ陣頭ニ歿シ、其麾下ノ勇悍ナル兵士ハ、一人ヲ除クノ外、盡ク戰死セリ。時ニ紀元前四百八十年八月ナリ。

此陸軍ノ戰爭ノ間、希臘ノ海軍ハ、ユーベヤ島ノ北岸ニ據リテ、ペルシヤノ艦隊ト劇戰シ、勝敗未ダ決セザルノ間ニ、ペルシヤ人ノ既ニサーモピレノ山路ヲ通過シ、アセンスニ向ヒテ進ムトノ報ヲ得タリ。是ニ於テ希臘艦隊ノ司令官セミストクリース (Themistocles) ハ、艦隊ヲ引キ、退キテ南ノ方アセンスノ近傍サラミス (Salamis) 灣ニ向フ。

アセンスノ人民ハ、ゼルキジース侵入ノ報ヲ聞キテ甚ダ恐怖シ、

事ヲ巫覡ニ謀ル。巫覡アセンス人ニ諭スニ木城ニ逃遁シテ安全ヲ求ムベキヲ以テス。アセンス人以為ラク、木城トハ、船舶ノ謂ナラント。是ニ於テ人民皆都城ヲ去リテ、船舶ニ潜伏シ、ペルシヤ人ハ、直チニアセンスノ都城ニ入り、火ヲ放チテ之ヲ焚ケリ。

然レモ希臘ノ命運ハ、一大水戰ニ因テ決定セラレントス。サラミス灣ニ屯集シタル希臘ノ兵艦凡ソ三百六十六艘アリ。ペルシヤ人ハ、暴風ノ爲ニ許多ノ兵艦ヲ失ヒタレモ、尙一千艘ノ兵艦ヲ有セリ。サーモピレ戰爭ノ後二ヶ月、二國ノ兵艦サラミス灣ニ於テ雌雄ヲ決スルノ戰ヲ爲シ、ニ、ペルシヤ人大ニ敗績シテ、二百餘艘ヲ失ヒ、ゼルキジースハ、周章狼狽シテ、紀元前四百八十年十月、故道ヲ經テ、軍ヲ其領内ニ退ケタリ。

ゼルキジースノ退軍スルヤ、其將軍マードニヤスタシテ、兵三十萬ヲ率井テ、希臘ニ駐在セシム。翌年スパルダノ將軍ポルサニヤ

ス、(Pausanias) アセンスノ將軍アリスダイデース(Aristides)ト兵ヲ合シ、其勢七萬人、マードニヤスノ兵トプラテヤ(Plataea)ニ決戦シテ、希臘人大ニペルシヤノ兵ヲ破リ、紀元前四百九十年同日又小亞細亞ノミカレ(Mycale)ニ水戦シテ、希臘人ペルシヤノ艦隊ノ殘餘ヲ破壊セリ。

サラミス、プラテヤ、ミカレノ三大戦ハ、爰ニ二國ノ勝敗ヲ決シ、爾後ペルシヤ人ハ、敢テ再ビ希臘ニ侵入セザルニ至ル。然レモ是ヨリ後、數年ノ間、希臘人トペルシヤ人トノ戦争、尙連續シ、ペルシヤ人ハ、エジヤン海ノ北ニ在ル數ヶ所ノ陣營ヲ失ヒ、終ニハ全ク歐羅巴ヨリ逐ヒ出サンタリ。

第二節 ペリクリースノ時代

サラミスノ戦争後五十年ノ間、紀元前四百八十年ヨリ、紀元前四百三十年ニ至ル。ハ、アセンスノ國勢最モ隆盛ヲ極メ、世ニ之ヲペリクリース(Pericles)ノ時代ト

稱ス。蓋此時代ニ於テ、ペリクリースト云フ者一個ノ府民ヨリ出身シテ、アセンスノ政事家トナリ、獨リ其國政ヲ左右セシテ以テナリ。

アセンスガ、希臘ノ諸國ニ威權ヲ擅ニセシハ、其ペルシヤトノ戦争ニ於テ赫々タル大功ヲ奏シタルニ由ル。今ヤエジヤン海ノ島嶼、海岸ヲ占メタル希臘都府ハ、ペルシヤノ羈絆ヲ免カレ、連合同盟シテ、互ニ其獨立自由ヲ保護スルノ約ヲ結ビ、アセンス人ノ海軍ニ強キヲ以テ、之ヲ推シテ其盟主ト爲セリ。アセンス人一タビ盟主ト爲ルヤ、一旦其同盟ニ加ハリタル國ノ、再ビ其同盟ヲ分離スルコトヲ許サズ。而シテ同盟各國ノ金庫ヲ以テ、アセンスノ金庫ニ合併セシメ、同盟國ノ船艦及金銀ヲ使用シテ、自國ノ盛大ヲ謀ルヲ目的トセリ。此政略ハ、固ヨリ深謀遠慮ヨリ出テタル者ニ非レモ、アセンスノ如キ叢爾タル共和國ヲシテ、一時驚クベキ權

力榮譽ヲ得セシムルニ至レリ。
 今ヤアセンスノ共和國ハ、ペリクリースノ保護ニ因リ、開化ノ高
 點ニ達シ、文學技術、大ニ進歩ヲ加ヘ、戯曲、建築、彫刻等ノ諸術、最モ
 巧妙ニ達シ、府民ハ、殆ド皆其官職ニ堪ヘ、業務ヲ盡スベキ技能ア
 リ。當時官職ノ過半ハ、抽籤法ヲ以テ之ヲ補缺セシニ、一人トシテ
 有力ニシテ技能アル者ニアラザルハナシト云フ。
 然レモ希臘ノ隆盛ヲ損害スベキ内亂ノ種子ハ、既ニ此時ニ播種
 セラレ、既ニペリクリース在世中ニ於テ、ペロポネサスノ戰ト
 稱スル一大内亂ノ起ルアリ。其後紀元前四百二十九年、疫癘アセ
 ンスニ流行シ、賢明ノ政治家ペリクリース亦疫ニ罹リテ歿ス。ペ
 リクリースノ、將ニ死セントスルヤ、其故舊親戚、其病床ヲ圍繞シ
 テ、切リニ其勳功ノ顯著ナルヲ稱賛セシニ、ペリクリース曰ク、兄
 等ハ、我性質ノ最モ價値アル部分ヲ忘ル。我同胞府民ハ、我處置ノ

爲ニ、未タ喪服ヲ着スルノ、已ムヲ得ザルニ出テシコトアルヲ聞
 カズト。

第三節 ペロポネサスノ戰

ペロポネサスノ戰ハ、一方ニハ、アセンス及其同盟ト、一方ニハ、
 スパルタ及其同盟トノ戰鬪ヲ謂ヒ、紀元前四百三十一年ニ始マ
 リ、二十七年ヲ經テ止ム。此戰爭ヤ、希臘全國ノ勢力ヲ孱弱ナラシ
 ムルト、全クアセンスノ威權ヲ破壊スルトヲ以テ、局ヲ終ヘタリ。
 此戰爭ハ、希臘諸邑ガ、アセンスノ強盛ヲ嫉ムヨリ起ルト雖モ、其
 實深キ原因ノ在ルアリ。何ゾヤ。此戰爭ハ、民主政治ヲ代表スルア
 イオニヤ人ト、寡人政治ヲ代表スルドリヤ人トノ間ノ、避クベカ
 ラザル爭鬪ノ破裂ニ過キズ。但シアセンスハ、民主政治諸州ノ首
 領トナリ、スパルタハ、寡人政治諸州ノ首領トナレリ。
 此戰爭ハ、コリンスト、其植民地ナルコルサイラトノ戰爭ニ端緒

ヲ開ケリ。此戦争ニ於テ、アセンスハ、コルサイラ (Corcyra) ヲ援ケ、コ
 リンスニ敵セシニ因リ、スパルタ及其同盟大ニ憤怒シ、紀元前四
 百三十一年、スパルタノ兵、アッチカニ侵入セリ。是ヨリ十年ノ間、彼
 我互ニ勝敗アリテ、アセンスハ、常ニ海上ニ勝利ヲ得、スパルタ及
 其同盟ハ、常ニ陸地ニ勝利ヲ得タリシガ、紀元前四百二十一年ニ
 至リ、ニシヤス (Nicias) ノ和議ヲ締結セリニシテ、兩國中裁ハ、與ノ人
 ヲリテ、此名アリシ。而シテ此和議ハ、五十年間、續クベキノ條約ナリシ
 ガ、同盟ノ諸國之ヲ悦バザルヲ以テ、幾クモナク再ヒ敵對ヲ始メ
 タリ。
 戦争ノ再發ハ、アセンスノ人アルシバイヤデース (Alcibiades) ノ煽動
 ニ因リテ、其期ヲ早クセリ。アルシバイヤデースハ才智ニ富ミ、功
 名ヲ好ミ、シシリノ一都府ナルシラキース (Syracuse) ヲ攻略スル
 ノ策ヲ提出シテ曰ク、若シ能ク之ヲ施サバ、アセンスヲシテ、スパ

ルタテ左右スベキ大權ヲ得セシメント。アセンス人ハ、直ニ此策
 ヲ採用シ、紀元前四百十五年、アセンスヨリ船艦ト兵士トヲ出ダ
 シテ、シラキースノ攻撃ヲ始メ、スパルタモ、亦兵ヲ出ダシテ、シラ
 キース人ヲ援ク。是ニ於テペロポン子サスノ戦争再ヒ起リ。然
 レモ此戦争ノ央ニ、アルシバイヤデースハ、神明ヲ蔑視スルノ罪
 ヲ以テ、アセンスニ召還セラレシニ、途中逃ケテスパルタニ身ヲ
 投ゼシカバ、シラキースノ征伐ハ、全然タル敗北ト爲リ、大ニアセ
 ンスノ威權ヲ弱クセリ。紀元前四
 百十三年
 是ヨリ八年ノ間、ペロポン子サスノ戦争ハ、主ニ亞細亞ノ沿海ニ
 於テ行ハレ、此際、スパルタハ、ペルシヤト同盟ヲ結ビ、其金ヲ借リ
 テ、以テアセンストノ戦争ヲ維持スルノ資ニ供シ、アセンスハ、ア
 ルシバイヤデースヲスパルタヨリ召還シテ、上將ト爲シ、勇ヲ奮
 ヒテスパルタト戦ヒタリ。然レモ紀元前四百零五年、スパルタノ

水師提督ニ、ライサンダー (Lyseander) ト云フ者アリ、ヘレスポント海
峽ノエゴス・ポタモス (Egus Potamos) ニ於テ、アセンスノ船艦ニ會シ、
襲撃シテ大ニ之ヲ破リ、翌年アセンスノ都城ニ進ミ、遂ニ圍ミテ
之ヲ陷レタリ。ペロポネサスノ戦争是ニ至リテ終ハル。

ペロポネサス戦争ノ終ハリシヨリ、スパルタハ、希臘中、第一等
ノ國トナリテ、威權ヲ擅ニシ、アセンスハ、大ニ其國勢ヲ損シテ、第
二等ノ地位ニ降レリ。然レモアセンスハ、其政治上ノ威權ヲ失ヒ
タルニ拘ハラズ、其文學技術、益々上進シテ、希臘諸邦ニ冠タリ。

第四節 スパルタ及シーブスノ統攝ノ時代

アセンス衰フルノ後、スパルタノ威勢、希臘全國ニ振ヒ、エゴス・ポ
タモスノ大勝ヨリ、リュクトラ (Leuctra) ノ大敗マデ、紀元前四百年
至七十年凡ソ三十四年ノ間、希臘諸國中、能クスパルタニ抗スル
者ナシ。此際、スパルタハ、漸ク傲慢ノ心ヲ生シ、其政治、頗ル殘忍刻

薄ヲ以テ稱セラル。是ヨリ先キ希臘諸國ハ、アセンスノ壓制ニ苦
ミ、ペロポネサス戦争ノ起リシヨリ、救済ノ望ヲスパルタニ歸
シタリシニ、今ヤ其望ヲ遂クルコト能ハザルノミナラズ、却テア
センスヨリモ一層苦難ナル羈軛ヲ受クルニ至レリ。

此際、スパルタノ傲慢ヲ制シ、塗炭ノ苦ヲ救フ者ハ、シーブス (Thebes)
ト云ヘル國是ナリ。シーブスノ、強大ヲ致シタルハ、エパミノンダ
ス、(Epaminondas) ペロピダス (Pelopidas) 二人ノ功勞ニ由ル。此二人、義勇
ノ氣象ヲ以テ、府民ヲ鼓舞セシカバ、シーブス人ハ、舊怨ヲ報シ、國
辱ヲ雪グヲ以テ念ト爲シ、二人ヲ將トシテ兵ヲ擧ゲ、久シクスパ
ルタ人ト戰ヒ、終ニ紀元前三百七十一年、エパミノンダスハ、リュ
クトラノ役ニ、大ニスパルタノ軍ヲ破リ、スパルタ人ハ、此敗軍ノ
爲ニ、俄然零落シテ、永ク其威權ヲ失フニ至レリ。
今ヤシーブスハ、希臘中、第一等ノ國トナリテ、稱ヲ希臘ニ稱シ、其

統領 **エパミノンダス**ノ在世中、曾テ其國威ヲ損セズ。其後紀元前三百六十二年、**スパルタ**人、**アセンス**人、共ニ兵ヲ合ハセテ、**シীব**ス人ト**マンチ子**ヤ (**Manthene**)ニ戰フ。此役ヤ、**シীব**ス人ノ勝利ニ歸シタルニ、**エパミノンダス**ハ、重傷ヲ負ヒテ陣歿シ、**エパミノンダ**ス陣歿スルト共ニ、**シীব**ス國ノ零落ヲ來タシ、是ヨリ後之ニ代ハリテ興ル者ハ、復アラザリキ。

スパルタト**シীব**ストノ戰爭ハ、**ペロポソ**子サスノ戰爭ニ同シク、唯希臘一般ノ衰弱ヲ催ガスニ過ギズ。爾後希臘ニ於テハ、内亂屢起リ、國勢益々陵夷シテ、終ニ**マセドニヤ**王**フリッブ** (**Philip**)ノ吞噬スル所トナルニ至ル。

第四章 第三期ノ歴史

第一節 **マセドニヤ**ノ統攝 **フリッブ**

マセドニヤ人ハ、希臘人ト同種類ニ屬ス。然レモ希臘人ノ強盛ニ赴キ、文明ヲ以テ稱セラレシ間ハ、**マセドニヤ**ハ、國勢微弱ニシテ、其名尙未ダ著ハレズ。紀元前三百五十年ノ比、豪邁ナル君主**フリッブ**ノ、王位ニ登ルニ及ビテ、國勢始テ振ヘリ。

フリッブハ、紀元前三百五十九年、始テ**マセドニヤ**ノ政務ヲ執ル。王幼少ノ時、**シীব**スニ質タリシヲ以テ、能ク希臘ノ政治ヲ熟知シ、其王位ニ登ルヤ、直チニ**マセドニヤ**ノ地位ヲ高クスベキ方策ヲ計畫セリ。但シ**フリッブ**ノ計畫スル所ハ、決シテ希臘ヲ攻奪セント欲スルニ非ズ、希臘諸國ヲシテ、**マセドニヤ**ノ、希臘列國ノ一タルヲ認許セシメ、年月ヲ經ルノ間ニ、其國ヲ以テ希臘ノ覇國メラシメシコト、猶アセンス、**スパルタ**、**シীব**スノ、相繼テ希臘ノ覇國タリシガ如クセント欲スルニ在ルナリ。

フリッブハ、巧ニ權謀術數ヲ用ヒテ、希臘ノ政治ニ關涉シ、遂ニ希臘ノ宗教大會議**アンフクチオニク・コンシル** (**Amphictyonic Council**)ノ一

員ニ列スルコトヲ得タリ。此舉ヤ、マセドニヤヲ以テ、希臘ノ一列國ト認メシメタルニ異ラザル者トス。然レモフリップノ野心ハ、是ヨリ次ヲ逐ヒテ高大トナリ、終ニ希臘全國ヲ攻奪スルノ大舉ヲ計畫スルニ至ル。時ニアセンスノ名講師ニ、デモスセニース(Demos-thenes)ト云フ者アリ、フリップノ胸中、異謀ヲ蓄フルコトヲ明察シ、百方辯論シテ、國人ヲ覺醒セシガ、アセンス人ハ、既ニ愛國ノ氣象ヲ失ヒ、耳ヲ傾ケテ此忠告ヲ聽ク者ナカリキ。

紀元前三百五十八年、フリップハ、兵ヲ率井テアセンスニ侵入シ、爾後二十年ノ間、或ハ戰爭ヲ爲シ、或ハ陰謀ヲ施シ、紀元前三百三十八年ニ至リ、ベオシヤナルカロ子ヤ(Charone)ノ戰ニ於テ、大ニアセンス人、シーブス人ヲ破ル。是ヨリ希臘ハ、其獨立ヲ失ヒ、實ニマセドニヤノ一部タルニ過キズ。既ニシテフリップハ、希臘ノ兵力ヲ合ハセテ、ペルシヤト戰ヒ、ダライヤス及ゼルキジースガ、先キニ希臘ニ侵入セシ怨恨ヲ報ゼンコトヲ公告ス。蓋フリップノ此公告ヲ發スルヤ、其意、明ニ希臘人ノ想像中ニ、野蠻人ヲ征伐スルノ一大盛舉ヲ畫カシメ、以テ其獨立ヲ失ヒタルノ不快ヲ慰メントスルニ在リ。然レモペルシヤ征討ノ準備ヲ爲スノ央ニシテ、フリップハ、其臣ノ爲ニ暗殺セラレ、其計畫ヲ果スコトヲ得ズ。王ハ、時ニ年四十六、位ニ在ルコト二十三年ナリ。紀元前三百三十六年

第二節 アレキサンダー大王ノ履歷

フリップ歿シテ、其子アレキサンダー嗣グ。世ニ之ヲアレキサンダー大王ト稱ス。王年甫メテ二十歳、其胸中ニ蓄フル所ノ智畧權謀ハ、遙ニ父王ノ右ニ出テメヲ。希臘人乃チ王ヲ推シテペルシヤ征討軍ノ上將ト爲ス。紀元前三百三十四年、アレキサンダー、三萬五千ノ寡兵ヲ率井テ發途シ、ヘレスポント海峽ヲ渡リ、小亞細亞ノグラニカス(Granicus)河濱ニ進ム。ペルシヤノ軍、既ニ此地ニ在リ。其

兵アレキサンダーノ兵ヨリ多シ。アレキサンダー之ト戦ヒテ之ヲ破リ、夫ヨリ小亞細亞ナルペルシヤ領ヲ經テ、シリシヤ(Cilicia)トシリヤトノ疆界ナルイッサス(Issus)ニ至ル。ペルシヤ王ダライヤス、コドマンナス(Darius Codomannus)大軍ヲ率井テ此地ニ在リ。然レモ地勢狹隘ニシテ、ペルシヤノ大軍ヲ運轉スルニ利アラズ。アレキササンダー大勝ヲ得テ、ペルシヤ王ノ太后ト其后トヲ擒ニシ、ペルシヤ王ハ、僅ニ身ヲ脱シテ逃遁セリ。

然レモアレキサンダーハ、直チニペルシヤノ兵ヲ追ハズ、更ニ鋒ヲ轉シテイッサスヨリダイル、ダーザ(Daia)及埃及當時皆ペルシヤノ領地ナリ。ニ向ヒテ進ミ、二十ヶ月ニシテ盡ク其地ヲ畧シ、其埃及ニ駐在セシ間、アレキサンドリヤノ一大港ヲ築キテリ。是擧ヤ、實ニ遠大ノ政略ニ出テタル者トス。

アレキササンダー、既ニペルシヤ沿海ノ郡縣ヲ畧セシカバ、紀元前

三百三十一年、ペルシヤ國ノ内地ニ侵入シ、アッシリヤナルアーベラ(Arbela)ニ至ル。ペルシヤ王ダライヤス、全國ノ兵ヲ盡ク招集シ、良地ヲ擇ビテ之ニ陣ス。然レモ百萬ト稱ズルペルシヤノ軍ハ、僅ニ五萬ニ過ギザル希臘ノ兵ニ敗ラレ、バビロン、スーザ、パーセポリス(Persepolis)ノ三都、風ヲ望ミテ降り、ペルシヤ王ハ、逃遁シテ、途中、兵士ノ爲メニ暗殺セラレ、アレキササンダーハ、僅ニ二十五歳ニシテ、西亞細亞ノ君主ト爲レリ。然レモ奢侈華麗ヲ極ムル所ノペルシヤノ首府ニ居テ定ルコトヲ欲セズ、苟クモ土地、人民ノ、畧スベキ者アラン限リハ、其畧ニ從事センコトヲ欲ス。

ペルシヤノ東ニ方リテ、未ダ世ニ知ラレザル一新世界アリ。アレキササンダー、此地ノ豊饒富有ニシテ、財寶ノ、山積スルヲ聞キ、一ハ之ヲ探訪シ、一ハ之ヲ畧センガ爲メ、大擧シテ東方ニ向ヒテ進入シ、北印度ナルハイプーシス(Hyphasis)河方今ノサットニ至リ、其地

ニ土着セル諸王ヲ征服シ、更ニ東方ニ進ミテ、亞細亞ノ大陸ヲ全ク
ク奪取セシメ、コトヲ決セリ。蓋亞細亞大陸ノ末端ハ、其地ヲ距ル遠
カラズト信シタルナリ。

アレキサンダーノ兵士、既ニハイフニス河ニ至ルト雖モ、之ヨ
リ以東ニ進ムコトヲ好マザリシカバ、アレキサンダー已ムヲ得
ズシテ歸陣ノ準備ヲ爲セリ。然レモ進軍ノ故道ニ出テズ、新路ヲ
取リテ兵ヲ歸サント欲シ、一ノ船隊ヲ編成シ、之ヲシテハイフニ
シス河、印度河ヲ下ラシメ、又陸軍ヲシテ兩河ノ河岸ニ沿ヒテ、陸
地ヨリ下ラシメ、既ニ印度洋ニ達スルノ後、其水師提督ニ「ヤカ
ス(Nearchus)ニ命ジテ、船隊ヲ率井テユーフレイテス河ニ歸航セシ
メ、王ハ、自ラ陸軍ヲ率井、ゼドロシヤ(Gedrosia)方今ノ是ナルヲカ
ニヤ(Carmania)ノ沙漠ヲ經テ、ペルシヤニ入ル。其沙漠ヲ經シ時、兵士
ノ死スル者多シ。然レモアレキサンダー更ニ屈スル色ナク、殘兵

ヲ率井テ、パーセポリスニ歸リ、新規ノ攻畧ヲ企圖スルノ準備ヲ
爲セリ。

アレキサンダー、バビロンニ在リテ、アラビヤノ攻畧ヲ企圖セシ



幣貨ノ「ダンサキレア

間、溘然トシテ歿セリ。時ニ紀元前三百二十
三年ナリ。アレキサンダーノ歿スルヤ、年僅
ニ三十三ニシテ、未ダ其威權若クハ其企圖
ヲ繼續スベキ者アラズ。王ノ將ニ「瞑セント
スル時、傍ニ在ル者、何人ニ帝國ヲ傳フベキ
ヤト問ヒシカバ、王答ヘテ曰ク、最モ強剛ナ
ル者ニ傳ヘヨト。然レモ當時不幸ニシテ、強剛ナル俊傑ノ、此帝國
ヲ維持スベキ者アラザルヲ以テ、王ノ歿後幾クモナク、帝國ノ四
分五裂ヲ致シ、王ノ偉業大勳ハ、其身ト共ニ墮滅ニ歸シテ、唯荒涼
ノ一抔土ヲ餘スノミ。

第三節 アレキサンダーノ繼續者

アレキサンダーノ殂後、其帝國ハ、分裂シテ數國トナリ、麾下ノ將軍、各大帝國ノ斷片ヲ得ントシテ、烈シク爭鬪スルコト、此ニ二十年、終ニ紀元前三百零一年、フリジヤノイブサス(Ipsus)ニ於テ、大戦争アリシ後、セリューカス(Selencus)ハシリヤ及東洋ノ王トナリ、トレミーハ、埃及ノ王トナリ、リシマカス(Lysimachus)ハスレスノ王トナリ、カッサンダー(Cassander)ハマセドニヤノ王トナレリ。然レモ此四將ノ建立シタル王國中ニ於テ、殊ニ重要ナル者ヲ埃及ナルトレミー家ノ王國及東洋ナルセリューカス家ノ王國ト爲ス。因テ左ニアレキサンダーノ殂後、此二國ニ起リタル事蹟ヲ略記セントス。

埃及ノ王國ハ、アレキサンダーノ將軍トレミーソーダー(Ptolemy Soter)世トレミーソーノ創立ニ係ル。此王ハ銳敏勇壯ノ君主ニシテ、其長キ治世中、埃及ノ全國、頗ル靜謐ヲ稱セリ。當時、此國ノ治者ハ、希臘人、マセドニヤ人ニシテ、埃及人ハ、主ニ被治者ノ地位ニ在リ。然レモ埃及人ノ、文官ニ任ゼラル、者、尠カラズ。且殊ニ埃及ノ舊教ノ崇尊セラ、ルガ爲ニ、治者ニシテ、被治者ヲ壓制スルノ惡風アルヲ見ズ。トレミーソーダー殂スルノ後、之ニ繼グ所ノ王亦トレミート稱シ、數世ヲ經テ、トレミー家ノ最後ノ女王クレオパトラ(Cleopatra)ニ至ル。クレオパトラ殂シテ、埃及ハ、羅馬ノ郡縣トナル。紀元前三

トレミー家ノ治世三百年ノ間、アレキサンダーノ創立シタルアレキサンドリヤノ首府ハ、隆盛繁昌ヲ極メタル大都會トナリ、文學、哲學及技術ノ研究盛ニ行ハレ、其大圖書館ノ藏書ハ、五十万卷ノ多キニ達シ、ナイル河岸ニハ、トレミー家ノ保護ニ因テ、希臘埃及、ジッヂヤ三國ノ風ヲ混合シタル一種特異ナル文明開化ノ起ルヲ見タリ。

東洋ナルセリ。イカス家ノ王國ハ、アレキサンダーノ將軍セリ。イカスノ創建ニ係ル。紀元前三百年此國ノ版圖ハ、最初ハ、唯バビロニヤ、ソグジヤナ、ミーヂヤ、ペルシヤ等ヲ包有スルニ過キザリシガ、其後、國ヲ奪ヒ地ヲ略シテ、西ハ、ユーフレイテス河ヨリ、東ハ、印度河ニ至リ、北ハ、ジキザイテス河ヨリ、南ハ、印度洋ニ達シ、其後又小亞細亞ノ大半ヲ攻奪シテ、其都ヲバビロニヤヨリ、シリヤノアンチオク (Antioch) ニ遷セリ。

紀元前二百八十年、セリイカス暗殺セラレテ、其子孫相繼ギテ、凡ソ二百年ノ間、セリイカスノ王國ヲ統御ス。然レモ此二百年ノ治世中、戰爭反逆相續テ興リ、版圖漸ク減縮シ、其殘餘ハ、終ニポンペー (Pompey) ノ攻奪スル所トナリテ、羅馬帝國ノ版圖ニ入レリ。紀元前六十五年

第四節 マセドニヤ及希臘ノ末世

今ヤマセドニヤ及希臘ニ歸リ、アレキサンダーノ殞後、此二國ニ起リシ事蹟ヲ畧記セントス。アレキサンダーノ殞後、希臘諸國ハ、マセドニヤノ羈軛ヲ脱セント欲シ、アセンヌヲ推シテ盟主ト爲シ、デモスセニース (Demosthenes) ヒペライデーヌ (Hyperides) ノ二人ヲ以テ上將ト爲シ、マセドニヤ王ニ抗敵セリ。史ニ之ヲラミヤン (Lami-三)三ラシミヤノ地、主ニ戰場タノ役ト云フ。紀元前三百年二十三年ヨリ、同三百二十一年ニ至ル。然レモ此役ヤ、同盟ノ軍利ヲ得ズシテ、希臘諸國再ヒマセドニヤノ羈軛ヲ受クルニ至ル。此羈軛ハ、從前ノ羈軛ニ比スレバ、更ニ嚴密ナリキ。

希臘ノ末世(其全ク羅馬ニ併吞セラル、以前)ニ於テハ、マセドニヤ、アタイヤ、エトリヤ、(Aetolia) スパルターノ四國、最モ強盛ヲ以テ稱セラル。但シアタイヤ、エトリヤハ、各隣國ト同盟シテ、連合部ヲ結成シタルヲ以テ、權勢ヲ得タリシナリ。

此等ノ連合部ハ、瑞西及北米合衆國ノ連合同盟ニ似タリ。部内ノ各國ハ、其本國ノ政務ニ於テ、自治ノ權ヲ有スト雖モ、連合部全躰ニ關スル事件、殊ニ宣戰、講和ニ係ル事件ノ如キハ、之ヲ擧ゲテ連合部ノ總政府ニ讓レリ。蓋此ノ如キ連合ヲ爲ス所以ハ、希臘ノ都府各、孤立シテ、互ニ相依ラザルトキハ、マセドニヤ王ノ壓制ヲ防グコト能ハザルヲ以テナリ。此連合部ノ最モ勢力アル者ヲアテイヤ及エトリヤノ二連合部ト爲シ、此他、小ナル連合アリ、而シテ一方ニハスパルタ、一方ニハマセドニヤヲ除クノ外、希臘ノ大部分ハ、各、皆其連合部中ニ編入セラル。

希臘ハ、右ノ如ク同盟連合シテ、一時マセドニヤノ羈轡ヲ脱シ、自主獨立ヲ維持スルコトヲ得タリ。殊ニアテイヤ連合部ノ如キハ、アレーダス(Aratus)フ、ロビームン(Philopemen)ノ誘導、其宜シキヲ得タルヲ以テ、國勢大ニ振ヘリ。紀元前二百三十四年ニ至ル。然レハスパル

タノ嫉妬ノ處置アリシヨリ。希臘ノ諸國中ニ、再ビ騷擾内亂ヲ生シ、終ニマセドニヤ王ヲ招キテ、其爭ヲ裁決セシメシカバ、王ハ、再ヒ希臘ノ君主トナレリ。

然レモマセドニヤハ、更ニ之ヨリ大ナル羅馬國ニ併吞セラレントス。當時羅馬人ハ、既ニカルセージノ國ヲ亡ボシ、漸ク東方ノ諸國ヲ覬覦ス。マセドニヤハ、羅馬ト戰フコト數年紀元前二百六十八年ニ至ル。至ニシテ、遂ニ紀元前百六十八年ピドナ(Pydna)ノ役ニ敗北シ、マセドニヤノ最後ノ王パーシーヤス(Perseus)ハ、羅馬將軍ノ虜トナリテ、其凱旋ヲ裝飾スルニ至ル。

此事アルノ後、暫クノ間、希臘ハ、獨立ノ跡面ヲ失ハザリシガ、國內再ビ騷亂ヲ生シテ、終ニ紀元前百四十六年、羅馬ノ郡縣トナリテ、アテイヤノ名ヲ以テ稱セラル。

第五章 希臘ノ文學藝術

希臘ニ於テ、詩歌ノ起リシハ、散文ノ起リシ以前ニ在リ。希臘ノ詩歌ノ、今日ニ傳ハル者ハ、ホーマーノ作ナリト傳フルイリヤド、オヂセーノ二篇ヲ以テ、最モ古シトス。此二篇ノ成ルハ、紀元前八百八十年ノ頃ニシテ、爾來數百年ノ間、唯詩人ノミ之ヲ記憶シテ、人民ノ集會、又ハ祭儀ノ時ニ、之ヲ吟誦セシニ過キズ。其之ヲ文書ニ筆記セシハ、蓋紀元前五百六十年アセンスノ總裁ビシストラダスノ時代ニ在リ。ホーマーノ後、凡ソ百年ヲ經テ、ベオシヤニヘシオド(Hesiod)アリ、セオゴニー(Theogony)及ウーグス・エンド・デース(Works and Days)ノ二書ヲ著述ス。希臘人ハ、此二書ヲ貴重スルコト尤モ大ナリ。然レモ我輩ヨリ之ヲ觀レバ、ホーマーノ詩ト同一ノ興味ヲ有セズ。

ホーマー、ヘシオドノ作ル所ハ、多クハ紀事詩ニシテ、此賦ノ詩ハ、王政ノ頃行ハレタリ。然レモ民政ノ創設アルニ及ビテ、更ニ新體

詩ノ興ル者アリ、之ヲ感懷歌ト名ク。此感懷歌ノ作者中、最モ有名ナル者ハ、チルテヤス(Tyrtæus)是ナリ。氏ハ、生レナガラ跛者ニシテ、アセンスノ學校教師タリシガ、スパルタ人ヨリ援兵ヲアセンス人ニ乞ヒシ時、氏其援兵ニ將トナリ、毫モ將帥ノ伎倆ナケレモ、詩歌ヲ賦シテ、其兵ヲ感動セシメ、遂ニ戰ニ勝テ、大功ヲ奏シタリト云フ。ケーオス(Cæus)ノハサイモニデーヌ(Simonides)モ、亦高崇ナル感懷歌ノ作者ナリトス。

次ニ興リシ者ハ、琴詩是ナリ。琴詩ハ、口ニ上セテ唱ヒ、樂器及蹈舞ノ運動ニ連帶セシムルヲ本旨トス。琴詩ニ於テ有名ナル人ハ、サッポオ(Sappho)アルシーヤス(Alcæus)アナクレオン(Anacreon)及ピンダー(Pindar)ノ諸氏トス。

次ニ興ル者ハ、戯曲ト名クル新躰ノ歌曲ナリ。此戯曲ニ二種アリ。一ヲ悲躰戯曲ト稱シ、一ヲ喜躰戯曲ト名ク。悲躰戯曲ニ有名ナル

者ハ、エスキラス(Eschylus)ソポクリース(Sophocles)ユーリピデース(Euripides)是ナリ。喜劇戯曲ハ、アリストフニス(Aristophanes)ヲ以テ作者中ノ巨擘トス。アリストフニスノ喜劇戯曲ノ、今日ニ傳ハル者ハ、雲、蜂、鳥、蛙ヲ咏シタル諸曲ニシテ、皆滑稽ヲ以テ、痛クアセンスノ社會ヲ諷刺シタル者ナリ。

轉シテ散文ニ移レバ、先ヅ記スベキ者ヲ歴史ノ一科トス。此科ニ於テ、尤モ俊秀ナル者ニ、ヘロドトス(Herodotus)アリ。氏ハ、小亞細亞ノ産ニシテ、其撰擇シタル趣意ハ、ペルシヤ戦争記ナリ。氏ハ、廣ク埃及及亞細亞ノ地ヲ遊歴シタルヲ以テ、當時諸國ノ交際生活ノ狀況ヲ模寫スルコト、最モ精細ナリトス。次ニアセンスノシューシデヂーヌ(Thucydides)アリ。氏ノ撰擇シタル趣意ハ、ペロポネサス戦争記ニシテ、文牀ノ高上ナルト、人物ノ働作意思ヲ洞察スルノ深キトヲ以テ著ハル。其他ゼノフォン(Xenophon)アリ。シューシデヂーヌト

同時ノ人ニシテ、記事ノ平易典雅ナルヲ以テ著ハル。又ポリビヤス(Polybius)ダイオドロス(Diodorus)及ブルターク(Putarch)アリ。ブルタークガ著ハス所ノ傳記ハ、英雄經ト稱シテ、人ノ愛讀スル所ナリ。辯論學モ、亦散文ト連續シテ記セザルベカラズ。此術ハ、アセンスノ共和政治ノ隆盛ナリシ頃、始テ之ヲ攻究シ、ペリクリースノ如キハ、其演說ノ体裁、頗ル高妙ナルヲ以テ稱セラル。其後マセドニヤ王フリップガ希臘ニ覇ヲラント計畫スルヤ、希臘人中ニ、其計畫ヲ庇護スル者ト、之ニ反對スル者トアリテ、各黨ヲ分チテ爭論セリ。此時、一方ニハエスキニース(Aeschines)一方ニハデモスセニース、共ニ辯論ニ巧ミナルヲ以テ稱セラル。

哲學ヲ攻究セシハ、小亞細亞及下伊太利ノ希臘植民地ニ始マル。紀元前六百年ノ頃、小亞細亞ニ於テハ、テーレス(Thales)アイオニヤ派ヲ創立シ、下伊太利ニ於テハ、ピサゴラス(Pythagoras)ピサゴラス

派ノ首領ナリ。

テイレニス、ピサゴラスニ次ギテ。一大哲學者ノ出ヅルアリ。之ヲソクラチース(Socrates)トス。氏ハ、一派ノ哲學ヲ教授セザレド、舊弊ヲ破滅シ、衆民ニ諭シテ自ラ其無知ナルコトヲ知ラシメ、論理ノ誤謬ヲ開發シ、善美、眞ナル大道理ノ成立スルコトヲ首唱スルヲ以テ、其大主意トセリ。ソクラチースノ門弟中ニプラトー(Plato)アリ。氏ハ、アセンスノ近傍アカデマス(Academus)ノ森林中ニテ、講義ヲ授ケシヲ以テ、參創立セシ學派ヲ稱シテ、アカデミー派ト云フ。プラトーノ著書ノ、今日ニ傳ハル者ハ、多ク問答書ノ軀裁ヲ爲シ、其哲學說ハ、人ノ精神ノ上ニ非常ナル影響ヲ及ボシ、古世界虛靈派ノ模範ナリ。

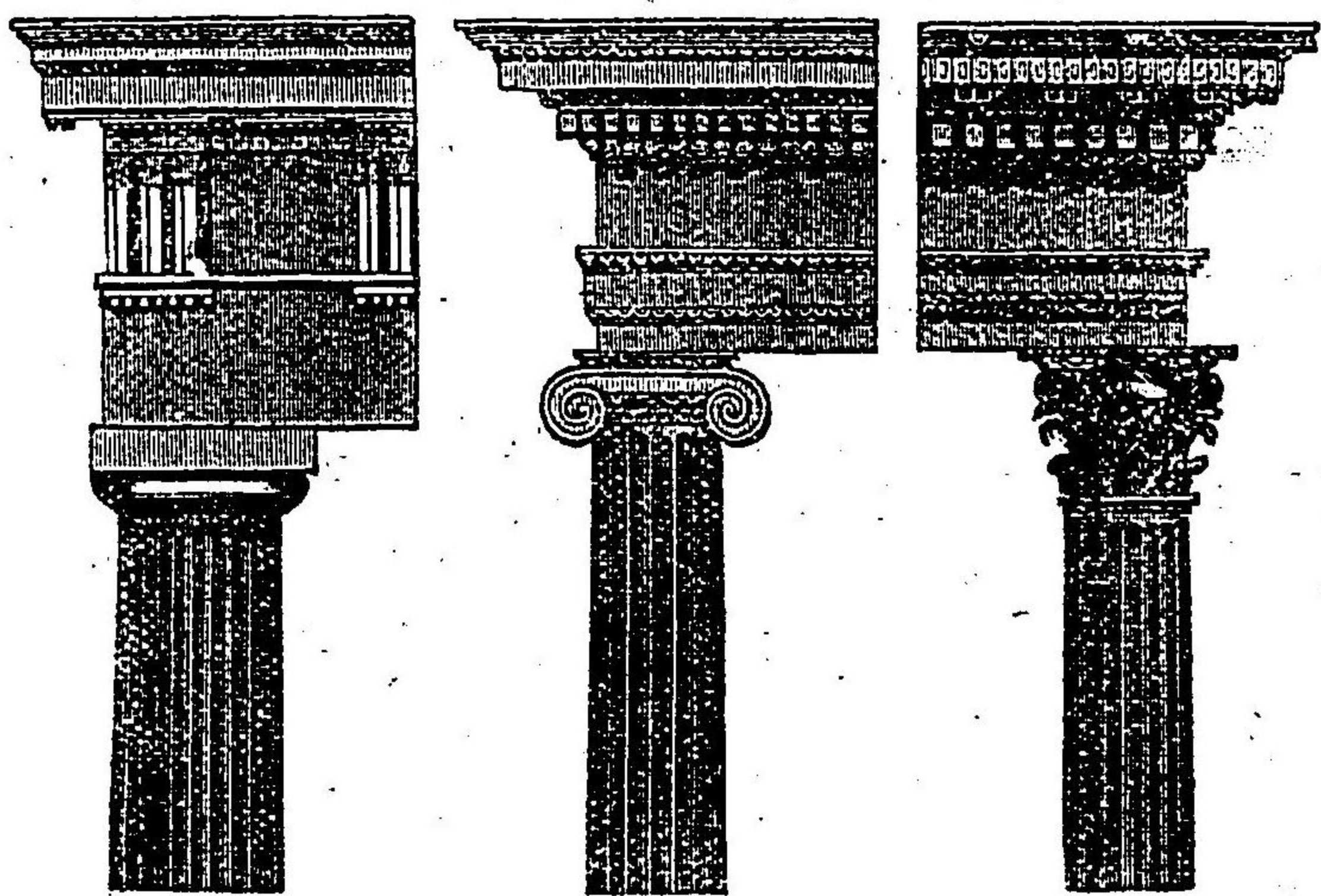
プラトーノ門弟中ニアリストートル(Aristotle)アリ。氏ハ逍遙派ハ、
常ニア
學生
ヲ教
スル
公
園
内
ノ
遊
園
名
ヲ
道
遊
シ
ノ
創
立
者
ニ
シ
テ、
希
臘
哲
學

者中ノ、尤モ論理的且軀統的ナル者トス。氏ハ始テ演繹論法ノ軀裁ヲ立テ、其哲學ハ、二千年間ノ人心ヲ支配シタリシガ、第十七世紀ノ頃、ベーコン(Bacon)ノ歸納論法出ヅルニ及ビテ、之ト交代シタリ。氏ハ、アレキサンダー大王ノ教師ナリ。

世ニ所謂美術トハ、建築、彫刻、繪畫、音樂ノ四者ヲ云フ。希臘人ハ、此四美術ノ中、建築、彫刻ノ二術ニ秀テ、頗ル高妙ノ域ニ達シタルコト、古今前後ニ比類ナキ所トス。

希臘ノ建築術ハ、ドリック(Doric)アイオニック(Ionic)コリンシヤン(Corinthian)ノ三派ニ發達シ、其最モ著大ナル建築物ハ、神殿ニ於テ之ヲ見ル。

アイオニック風ノ建築ハ、小亞細亞ナルアイオニヤノ希臘諸邑ニ起原ス。此風ノ神殿中、最モ有名ナル者ハ、イフエサス(Ephesus)ノダイアナ(Diana)神殿ニシテ、其長サ四百二十五呎、廣サ二百二十呎ア



ドーリック

イオニック

コリント

希臘建築様式ノ圖

近年、英人ノ探尋ニ因リ、此神殿ノ基礎ノ埋没シタル者、全ク發見スルヲ得タリ。コリンシヤン風ノ建築ハ希臘諸風中、最モ高上ニシテ、且裝飾ノ最モ美麗ナル者トス。ヴィーナス(Venus)、フローラ(Flora)及河泉ノ三神殿ハ、此風ニテ建築シタル者ニシテ、之ヲ裝飾スルニ花卉、草葉ヲ以テセリ。ドリック風ノ建築物中、最モ有名ナル者ハ、パーセノン(Parthenon)ノ神殿是ナリ。此神殿ハ、ミナーヴ(Minerva)

神ヲ祠レル者ニシテ、純粹ナル白色大理石ヲ以テ建築シ、アセンスナルアクロポリス(Acropolis)ノ岡上ニ在リ。彫刻術ニ於テハ、ペルシヤ戰爭以後、希臘ノ隆盛ヲ極メシ時代ニ於テ、希臘人十分其極所ニ達シタリ。今日ニ傳ハル所ノ最良ナル彫刻ハ、現ニ英國ノ博物館ニ所藏セルパーセノンノ破風ト庇トヲ潤色スル偶人はナリ。此等ノ偶人ハ、有名ナル彫工フィヂヤス(Phidias)ノ監督ニ係リ、ペルシヤ戰爭以後、希臘ノ隆盛ヲ極メシ時代ニ成レリ。繪畫ノ術ハ、希臘人中、巧妙ノ域ニ達セシ者ナキニアラザレド、彫刻術ノ巧妙ナルニ比スレバ、遙ニ數等ノ下ニ在リ。

第三篇 羅馬史

第一章 地勢及人種

伊太利ハ、歐羅巴ノ南方ヨリ地中海ニ



シテ、其長サ七百哩アリ。北ハ
 アルプス (Alps) 山脈ニ接シ、南
 西東ノ三面ハ、海ニ濱セリ。全
 國ヲ分チテ、南北二部ト爲ス。
 北部ハ、ペーダス (Padus) 河^ボ今ノ
 河。及其支流ノ浸潤セル大平
 原ヨリ成リ、南部ハ、狭長ニシ
 テ、其狀、舌ノ如ク、アペンナイ
 ンス (Apennines) 山脈、其南北ヲ貫
 キテ、脊骨狀ヲ爲セリ。然レモ

北部ポー河ノ平原ハ、羅馬帝國ノ世ニ至リテ、始テ羅馬人ノ占領スル所トナリ、羅馬人ハ、此地ヲ名クテ、ガリヤ・シサルパイナ(Gallia Cisalping)ト云ヘリ。

上古ノ時、伊太利ニ占據スル所ノ種族ノ著シキ者ヲ、ゴール(Gaul)人、エトラスカン(Etruscan)人、アイヤビジヤン(Lapygian)人及伊太利本部人ト爲ス。ゴール人ハ、北伊太利、即チガリヤ・シサルパイナノ大半部ニ占據シ、アリヤン人種ニシテ、アルプス山ノ北方ナルゴールノ地今ノ佛國ニ占據スル人民ト同種族タリ。エトラスカン人ハ、アノー(Arno)ダイバー(Tiber)兩河間ニ在ル所ノエトルーリヤ(Etruria)ノ地方ニ占據シ、其起源ハ、遼乎トシテ知ル可ラズト雖モ、亦アリヤン人種ニ屬スト云フ。蓋エトラスカン人ハ、羅馬ノ部落ノ、ダイバー河畔ニ顯ル、以前、久シク一種特異ノ文明ヲ開發シテ、殊ニ建築ニ巧ニ、又各種ノ技術ニ精シク、卜筮ヲ喜ビ、奇異ナル宗教ヲ

信ゼリ。アイヤビジヤン人ハ、アピリヤ(Apulia)及伊太利ノ趾部伊太利ノ地形長靴ニ似タル故ニ云フ。ヲ占據シ、此民種ハ、太古ヨリ此地ニ居住セル人種

ニシテ、伊太利本部人トハ、全ク異ナル者ノ如シ。以上諸種屬ノ外、希臘人ノ、伊太利ニ占據スル者アリ。此人種ハ、伊太利ノ南岸ニ數多ノ植民地ヲ設立シ、其地ニ附スルニ大希臘ノ名ヲ以テス。

伊太利ニ居住セル第四ノ人種ハ、伊太利本部人ニシテ、羅馬史中、主トシテ記載スル所ノ者ナリ。此人種ハ、殆ド中央伊太利ノ全部ヲ占メ、本トアリヤン人種ニ屬ス。此人種ノ、希臘人ト親族タルコトハ、耕作及生活ノ事實、狀況等ニ關スル言語ノ、彼此相同シキ者多キヲ以テ、之ヲ證スルニ足レリ。

伊太利本部人ハ、分チテ羅甸人、アンブ・ロ・サベリヤン(Umbro-Sabellian)人ノ二派トス。而シテアンブ・ロ・サベリヤン人中、更ニ數種族ニ分カル。即チ左ノ如シ。

ノ者ヲ集メ、アミリヤスヲ襲ヒテ之ヲ殺シ、祖父ニミトルヲ王位ニ復シ、紀元前七百五十三年、兄弟ニミトルノ允許ヲ得テ、パラダイン(Palatin)岡ニ新城ヲ建築シ、之ヲ羅馬ト名ヅク。然ルニ新城建築ノ事ヨリシテ、リーマストロミラストノ間ニ争ヲ起シ、リーマス遂ニロミラスノ黨ニ殺サルト。此等ノ傳説ハ、固ヨリ小説ニ屬シ、今日識者ノ信ゼザル所トス。因テ羅馬ノ初世ニ係リ、近世ニ至リテ知り得タル正確ナル事實ヲ左ニ記セントス。

太古ノ時、リーチヤムニ在ル羅甸人ハ、三十府ノ聯合政治ヲ立テ、アルバロンガ府ヲ以テ、此聯合都府ノ首長ト爲セリ。而シテ當時リーチヤムノ地ハ、サバイン人及エトラスカン人ノ住居スル地方ト土壤ヲ接シテ、數、其侵掠ヲ被ルヲ以テ、羅甸人之ヲ防禦センガ爲ニ、今ノ羅馬ノ地ニ外塞ヲ築キ、アルバロンガ府ノ人民ヲ移シテ、之ニ住マシメタリ。是レヲ羅馬府創建ノ濫觴ト爲ス。紀元前

七百五十年ノ頃、羅馬ハ、タイバー河邊ナルパラダイン岡ニ在リテ、人口五六千、概テ皆耕作、牧畜ヲ業トシ、同業ヲ營メル一小郷區ノ中心ヲ爲シタリ。其後種々ノ事變相續ギテ起リ、アルバロンガ府滅亡シテ、其民盡ク羅馬ニ移レリ。其後エトラスカン人ハ、シリヤン(Caelian)岡上ニ一市區ヲ設ケ、名ケテリュセラム(Lucerna)ト云フ、又サバイン人ハ、クリナル(Crinat)岡上ニ一村落ヲ開キ、名ケテクリヤム(Curium)ト云フ。此二邑ハ、羅馬ト相距ルコト遠カラザルヲ以テ、相合シテ一ノ植民地ヲ爲セリ。

口碑ノ傳フル所ニ據ンバ、紀元前七百五十三年ヨリ、同五百零九年ニ至ルマデテ、王政ノ時代ト稱シ、此間、王位ニ登リテ羅馬ヲ統御セシ者、七人アリト云フ。然レモ當時ノ事蹟ハ、大半邈乎トシテ考フベカラズ。

羅馬ノ市民ハ、古來ヨリ貴族、平民ノ二種ニ分レ、羅馬史上頗ル重

要ナル區別ヲ爲セリ。蓋貴族ハ、一切ノ行政官ニ任シ、一切ノ高僧ニ任シ、土地ヲ所有スルノ權及姓氏ヲ用フルノ權ヲ有ス。且政治上ニ於テ人民ト云ヘバ、獨リ貴族ノミナルガ故ニ、元老院ノ議官（貴族中名望アリ、齒餘ハ、固ヨリ言ヲ待タズ、コミシヤ・キリヤダ子備ハル者之ニ任ズ。）ハ、固ヨリ言ヲ待タズ、コミシヤ・キリヤダ（Comitia Curiata）組織シ貴族ヲ以テ稱スル議會モ、獨リ貴族ノミヲ以テ之ヲ組成セリ。又平民ニ至リテハ、自由ノ民ニシテ、敢テ身軀ノ束縛ヲ受ケズト雖モ、毫モ參政ノ權ヲ有セズ。

第五世ノ王ヲセルヴヤス・タリヤス（Servius Tullius）ト云フ。此王ハ、羅馬國ノ憲法ニ緊要ナル改革ヲ施シ、コミシヤ・センチュリヤダ（Comitia Centuriata）テ貴族ト平民ト議會以下云ヘル議會ヲ開キ、貴族、平民ヲシテ齊シク皆投票スルヲ得ヘカラシメタリ。蓋新設ノ國會ニテハ、舊家、富家ノ投票ノ權、平民ヨリ重ク、且此議會ニテ定メタル法律ト雖モ、コミシヤ・キリヤダノ同意ヲ得、又元老院ノ許可ヲ得ル

ニ非レバ、法律タルノ効ナキモノトス。然レモ苟クモ羅馬ニ居住セル自由ナル人民ハ、一トシテ參政ノ權ヲ得ザル者ナキガ故ニ、新憲法ハ、平民ニ與フルニ莫大ノ特權ヲ以テシタル者ト云フベシ。

第七世ノ王ヲタークニヤス・シューペルバス（Tarquinius Superbus）クイン（クイン）稱ス。ト云フ。此王、前王ノ制度ヲ廢シ、專制政治ヲ立テント欲セシカバ、人民相謀リテ、王及王族ヲ放逐シ、是ニ於テ王政廢絶ス。（元紀）前五年爾後羅馬人ハ、王ト云フ名稱ヲモ、尙聞クコトヲ厭フニ至ル。

第三章 羅馬共和政治

第一節 生存競争ノ時代

羅馬既ニ王政ヲ廢シテ、共和政治ヲ立テ、コンサル（Consul）官二人ヲ選舉シ、國王ニ等シキ威權ヲ以テ政ヲ執ラシメ、憲法ハ、皆舊ニ

因リテ變革セズ。而シテ此時始テコンサル官ニ選マレタル者ハ、ブルダス(Brutus)及コラチナス(Collatinus)トス。

共和政治ノ第二年、紀元前五八〇年羅馬人ガ、カルセージ人ト締結セシ條約ノ、今日ニ傳ハル者ニ據レバ、羅馬ハ、オスチヤ(Ostia)ヨリダイラシナ(Terracina)ニ至ルマデノ全海岸ヲ領シ、シシリ、サーヂニヤ(Sardinia)及亞弗利加ト通商ヲ爲シタルガ如シ。由是觀之、王政時代ノ末ニ於テハ、羅馬ノ國勢甚ダ盛ナリシコト知ルベシ。然レモ共和政治ヲ立テシヨリ以來、國勢俄ニ衰ヘ、百事振ハズ。羅馬人ハ隣國ト開戦シテ、大ニ其版圖ヲ滅シ、終ニゴール人ノ爲ニ羅馬全土ヲ蹂躪セラル、ニ至ル。紀元前三九〇年其間起ル所ノ著大ナル事蹟ハ、第一、エトラスカン人トノ戦争、第二、サバイン人、ヴルシヤン(Volsian)人及イーグイヤン(Etruscan)人トノ戦争、第三、イーグイヤン人及ヴルシヤン人トノ戦争、第四、イーグイヤン人及ヴエイエンダイン

(Veientine)人トノ戦争是ナリ。然レモ此等戦争ノ細説ハ、概テ皆小説ノ類ニ屬シ、信ヲ置クニ足ラザレバ之ヲ載セズ。

羅馬ハ、外患ニ困ムノミナラズ、又内憂ニ遭遇セリ。何トナレバ、共和政治設立ノ後、未ダ二十五年ナラズシテ、羅馬府内ニ於テ貴族ト平民トノ間ニ争鬭起リ、幾ト二百年ノ間、羅馬ノ社會ヲ擾亂シタレバナリ。

貴族ハ負債法ヲ實行シ、苛虐ヲ以テ平民ヲ陷レシメテコトヲ圖ル。蓋羅馬ノ初世ニ在リテハ、古代諸國ニ於ケルガ如ク、負債ヲ返還スル能ハザル者ハ、債主之ヲ捕ヘ、或ハ之ヲ鎖繫シ、或ハ奴隸ト爲シテ之ヲ虐使スルヲ許スノ制アリ。殊ニ共和政治ノ設立アリシ以後ハ、軍役頻ニ起リ、民力疲弊シテ、平民ノ、貴族ニ重債ヲ負ヒ、奴隸ト爲ル者、數百ノ多キニ至ル。即チ平民ハ、全ク氣力ヲ失ヒ、貴族ハ一切ノ權力ヲ掌握セシナリ。

是ニ於テ平民ハ、貴族ノ虐使ニ堪フルコト能ハズ、遂ニ意ヲ決シテ羅馬ヲ距ルコト四哩許ナル聖山^{セークレット・ヒル}ニ退キ、將ニ新府ヲ此ニ建テントス。貴族ハ、大ニ平民ノ舉動ヲ恐レ、商議久シキヲ經テ、負債者ヲ虐使スルコトヲ止メ、且盡ク其奴隸トナレル者ヲ放免ス。是時、更ニ緊要ナル改革ヲ行ヒ、平民中ヨリトリビーン^(Tribune)官二人ヲ選ムノ制度ヲ定ム。此後、此官ノ定員ヲ増シテ、十人ト爲シ、一年ヲ以テ任期トナシ、在職中、其身體ハ神聖ニシテ犯ス可ラザル者ト爲ス、若シ元老院ノ布告ニシテ、平民ニ害アリト認ムル時ハ、此官ハ、一言^{Verbum}ノ下ニ之ヲ拒ムコトヲ得ベシ。其後、此官日ニ重ク、威權ノ國內ニ振フコト、實ニ人ノ意表ニ出ツ。平民ハ、トリビーン官ヲ選舉シテ、既ニ緊要ナル地位ヲ得タリト雖モ、尙斃害ノ存スルニ因リ、其禍ヲ蒙ルコト少カラズ。就中、其最甚ナル者ハ、成文法アラザルニ在リ。是ヲ以テ激論數次ノ後、遂ニ

紀元前四百五十年デセンヴル^(Decemvir)ト稱スル十人ノ大官ヲ置キ、法典ヲ編纂セシメ、又コンサル官、トリビーン官等ハ、悉ク其職ヲ解キ、デセンヴル官ヲ以テ、國政ヲ裁決セシム。當初選舉セラル、所ノデセンヴル官ハ、能ク其職ヲ盡シ、羅馬ノ憲法ヲ改定セリ。有名ナル十二案ノ法律是ナリ。デセンヴル官一年ノ期滿ツルニ及ビテ、人民皆其治ヲ喜ビ、猶此制^度ヲ用ヒンコトヲ決議ス。然レモ新任ノデセンヴル官ハ、任期既ニ滿ツルモ、元老院及人民ヲ蔑如シテ、其職ヲ解カズ、暴虐恣睢ノ所爲多シ。是ニ於テ平民再ビ聖山ニ退ケリ。此第二次ノ退去ニ因テ、平民ハ第二次ノ特權ヲ得タリ。即チトリビーン官ヲ復シ、コミシヤトリビーン^(Comitia Tributa)ノ職名ノ權ヲシテ、コミシヤセンチュリヤタノ權ト平等ナラシメ、デセンヴル官ヲ廢シ、コンサル官二人ヲ選舉シテ、之ニ委ヌルニ羅馬ノ國政ヲ以

テセリ。紀元前四百十六年。

然レ平民ハ、尙不滿ヲ抱キテ止マズ。平民ハ、專ラ貴族中ヨリコ
 ンサル官ヲ選ブノ制ヲ以テ、不公平ナリトシ、己等亦其選舉ニ與
 ガラシムコトヲ求ム。貴族ハ、一同ニ之ヲ拒ミシカバ、平民等兵隊ノ
 徵集ニ應ゼズ。是ニ於テ貴族ノ輩、公言シテ曰ク、平民ヲシテコン
 サル官ニ登ルヲ得セシメシヨリハ、寧ロ此官ヲ廢スルニ若カズ
 ト。
 終ニ紀元前四百四十四年、貴族ノ建議ニ因リ、従前ノコンサル官
 ナ廢シ、貴族平民兩族ヨリミリアリ・トリビーン (Military Tribune)
 官若干人ヲ選舉シ、之ニ最上權ヲ委任ス。此官ハ、初メ三人ナリシ
 ガ、後増員シテ六人トセリ。翌年、又專ラ貴族中ヨリセンソル (Censor)
 官二名ヲ選舉ス。蓋センソル官ノ職務ハ、各市民ノ階級、身分ヲ規
 定シ、其社會上ノ地位ヲ定メ、及財産ニ課賦ス可キ金額ヲ評定ス

ルニ在リ。又ミリアリ・トリビーン官ヲ貴族平民兩族ヨリ選舉
 スルノ制ハ、唯名義上ノミニシテ、其實ハ概テ貴族中ヨリ選舉ス。
 是ヲ以テ貴族ノ權勢ノ盛ナルコト、益、舊時ノ比ニアラズ。
 是時ニ當リ、ゴール人、羅馬ニ入寇シテ、大ニ其開明進歩ヲ妨害セ
 リ。ゴール人ノ酋長ブレンナス (Brennus) 兵ヲ率テ南ニ下リ、エト
 ルーリヤヲ蹂躪シ、羅馬人ヲアリヤ (Allia) 河邊ニ破リ、進ミテ羅馬
 ニ入り、大ニ火ヲ放チシカバ、カピトル城羅馬城及城郭ノ在ル地ノ外、
 其災ヲ被ラザル者少ナシ。時ニ紀元前三百九十年ナリ。カピトル
 城圍ヲ受ルコト七月ニ至ルモ猶ホ降ラズ。ゴール人、戰ニ倦ミ、黃
 金千磅一磅五分、我秤餘ニ九當ルヲ得テ圍ヲ解カンコトヲ約ス、世ニ
 傳フ、黃金ヲ秤ル時、ブレンナス其帶スル所ノ劍ヲ取リテ錘ニ加
 ヘ、以テ約定ノ秤量ヲ増セリト。ゴール人ノ、羅馬ヲ奪取セシ事情
 ニ就テ、史家ノ記スル所ハ、其虛構タルコト固ヨリ分明ナリト雖

モ、其入寇セシ事實ハ、疑フベカラズ。

第二節 伊太利征服ノ時代

羅馬城、再ビ建築セラレ、狹衢陋屋ノ成ルヤ否ヤ、貴族ハ、再ビ其權利ヲ擅用シ、殊ニ貸借ノ古法ヲ實行ス。平民ハ、ゴール人ノ入寇ニ逢ヒテ、特ニ困難貧窮ヲ極メ、加フルニ貴族ノ處置ノ殘酷ナルヲ以テシテ、其狀態殆ド奴隸ニ異ナラズ。是ニ於テ貴族平民ノ間ニ、再ビ軋轢ヲ起シ、紀元前三百七十六年ニ至リテ其極ニ達ス。

是時ニ當リテ、剛勇明智ノ民長リシニヤス・ストロ、Lucius Stoloリシヤス・セクスチヤス(Lucius Sextus)ノ二人出テテ、議案ヲ立テ、曰ク、自今コンサル官ヲ復シテ、行政ノ長官ト爲シ、年々此官二人ヲ選舉スルノ中、一人ハ必ズ平民ヨリ選舉スベシ。又従前債主ニ償ヒシ利子ハ、悉ク元金ノ償却ニ充テ、其殘額ハ三年間ニ返還セシムベシ。又自今貴族ハ、一人五百ジゲラニ、五百ジゲラニ我ニ過ク

ルノ土地ヲ所有スルヲ得ズ。餘ハ皆平民ニ分賦シテ、其財產ト爲スベシト。蓋政治ノ不公平、及金錢衣食ノ匱乏ヲ救ハントノ趣旨ニ出テシナリ。此憲法ノ新案ノ出ヅルヤ、貴族ノ輩之ニ抵抗スト雖モ、トリビーン官固ク執リテ動カズ。貴族ノ此新案ニ抵抗スル間ハ、トリビーン官ハ、官吏ノ選舉、兵隊ノ徵集ヲ行ハザルヲ以テ、貴族ノ輩、如何トモスルコト能ハズ。紀元前三百六十七年、遂ニ新案ヲ以テ法律トナシ、翌年リシヤス・セクスチヤスヲ平民ヨリ選舉シテ、コンサル官ト爲シ、且總裁、センソル官、プリートル(Praetor)官、等ノ如キモ、平民ヨリ選舉シテ、之ニ任スルヲ得ルニ至ル。是ニ於テ貴族、平民ノ間ニ起リシ爭論、始テ鎮靜ニ歸シ、平等完全ノ改革ト爲ル。

黨派爭鬪ノ始テ定マルヤ、更ニ羅馬史ニ新時期ヲ開キ、其間屢畧地戰爭ニ從事セリ。今之ヲ列舉スレバ、第一、羅甸人トノ戰爭、第二、

伊太利人中央伊太利トノ戦争、第三、イバイラス王ピラス(Pyrrhus)及南伊太利ナル希臘移民トノ戦争、第四、北伊太利ナルゴール人トノ戦争是ナリ。

エトラスカン人、羅甸人、サムナイト人、ゴール人等、或ハ分雖シ、或ハ合從シテ、羅馬人ト戦争ヲ開ケリ。史上之ヲ總稱シテ羅甸ノ役及サムナイトノ役ト稱ス。紀元前三百九十四年三至其戦争ノ目的トスル所ハ、羅馬人ト、サムナイト人ト、孰レカ伊太利ヲ領スルヤヲ決スルニ在リ。然ルニ羅馬人ハ、勇悍ニシテ能ク戦ヒ、遂ニ全勝ヲ收メ、紀元前二百二十年、悉クサムナイト人、羅甸人等ヲ服從シ、中央伊太利ノ地ヲ擧ゲテ、之ヲ羅馬人ノ統轄ニ歸セリ。

サムナイトノ役畢ルヤ否ヤ、イバイラス王ピラス及南伊太利ノ希臘人トノ戦争起ル。此役ヤ、年月ヲ費スコト多カラズト雖モ、戦争頗ル激烈ニ涉レリ。南伊太利ニ在ル希臘ノ市府ハ、羅馬人ノ爲

ニ併合セラレシコトヲ恐レ、イバイラス王ピラスヲ希臘ヨリ迎へ、其援ト爲ス。

ピラスハ、兵士二萬五千、象二十頭ヲ率テ來リ援フ。第一回ノ戦紀元前二百八十年ニ於テハ、羅馬人敵ノ率非ル象ヲ見テ、以テ灰色ノ巨牛ナリトセシニ、其奮興衝突スルニ遇ヒテ大ニ敗レ、ピラスハ全勝ヲ收メ、第二回ノ戦紀元前二百七十九年ニ於テモ、亦ピラスハ勝利ヲ得タリ。然レモ其兵ノ死傷甚ダ多カリシヲ以テ、ピラス歎シテ曰ク、若シ再ビ此ノ如キ勝利ヲ得バ、余ハ奈何ニスベキヲ知ラズト。其後ピラスハ、志ヲ得ズシテ伊太利ヲ去リ、シシリニ行キシガ、久シカラズシテ、再ビ伊太利ニ來リ、紀元前二百七十五年ベネヴェンダム(Beneventum)ノ役ニ於テ、大ニ羅馬人ノ破ル所トナリ、希臘ノ市府ハ、其援助ヲ失フガ爲ニ、終ニ羅馬人ノ征服スル所トナル。羅馬人、既ニ南伊太利即チ大希臘ヲ征服シテ、伊太利全

土ヲ併セ、其疆域北ハシサルビンゴールノ南境ヨリ、南ハシシリ
 ー海峽ニ至リ、東ハチルレニヤン(Tyrrhenian)海一名タスヨリ、西ハ
 アドリヤチク海ニ至リ、更ニ進ミテ外國ヲ侵略セントス。
 今茲ニ羅馬人が國ヲ立ツルノ軀裁如何ヲ略記セシニ、當時伊太
 利ノ人民ハ、羅馬府民ポピュラス・ロマーナ伊太利人中央伊太利羅馬
 人ノ三種ニ分レ、其權利各異ナリ。羅馬府民ハ、羅馬本部ノ地ニ於
 テハ、**クイバ**河ノ南北ニ居住スル三十三族ノ自由ノ人民ヨリ
 成リ、羅馬本部外ニ於テハ、羅馬ヨリ植民シタルガ爲メ、若クハ羅
 馬府民ノ權利ヲ得タルガ爲メ、羅馬ノ民會ニ於テ投票スルノ特
 權ヲ有スル人民ヨリ成ルナリ。而シテ此種ノ人民ハ、羅馬ノ一公
 園ニ集會シテ、政務ヲ決議シ、五百萬餘ノ伊太利人民ノ運命ヲ左
 右セリ。伊太利人ハ、元ト同盟若クハ屬國マリシ伊太利ノ人民ヨ
 リ成リ、此種ノ人民ハ各其地ノ法律制度ヲ定メ、法官ヲ撰任スル

ノ權利アレトモ、共和國ノ政治ニ參與スル等ノ特權ヲ有セザル者
 トス。羅甸人トハ、所謂羅甸ノ特權羅馬人各レ市チニヤム此種ノ特權ヲ
 與ヘタルナリ。以テ有セル府民ヨリ成リ、此種ノ人民ハ、羅馬府民ノ
 全權ヲ有スルガ如クナラザレトモ、伊太利人ニ比スレバ、特權ヲ有
 スルコト頗ル多シ。

羅馬人ハ、右ノ如ク屬國及同盟諸國ヲシテ、自治ノ制ヲ保タシメ
 タリト雖モ、然レトモ亦三權ヲ握リテ、以テ主權ヲ己ノ手ニ收攬セ
 リ。三權トハ、第一、宣戰講和ノ權第二、外國ノ使節ヲ受クルノ權、第
 三、貨幣ヲ鑄造スルノ權是ナリ。蓋強大ニシテ自由ナル邦國ヲ世
 界ニ立テシメニハ、此制度ニ若ク者ナキナリ。

第三節 外國征略ノ時代

紀元前三百年代ニ當リ、西地中海ニ強盛ナル一國アリ、カルセー
 ジト云フ。此國ハ、亞弗利加ニ在リテ、三百有餘ノ市街ノ上ニ位シ、

其領地ハ、シシリイ、サーヂニヤ、コルシカ(Corsica)西班牙ニ跨ンリ。
 是ヨリ先キカンパニヤ(Campunia)雇兵ノ一隊ニマメルチン(Mamerline)
 人アリ。シシリイ海峡ノメッサナ(Messana)邑ヲ奪シ、カルセージ人及
 シラキース人ニ撃チ破ラレ、援ヲ羅馬ニ乞ヒシニ、羅馬之ヲ諾シ
 テ援兵ヲ送ル。是ヲ第一ピニーニク(Punie)ノ役トス。
 紀元前二百六十四年、羅馬人、兵ヲ以テシシリイニ入り、シラキース
 王ヒエロ(Hiero)ヲ撃チテ之ヲ破リ、明日又カルセージノ軍ヲ破
 ル。是ヨリ羅馬人ハ、頻リニ兵ヲ出シテ、島中ニ在ルカルセージノ
 屬地ヲ奪ヒ、カルセージ人モ、亦兵ヲ出シテ伊太利瀕海ノ地ヲ掠
 ム。羅馬人ハ、從來水戰ニ拙ク、且其船艦モ亦皆狭小ナリ。會、カルセ
 ージノ軍艦ノ漂着セシニ因リ、乃チ之ヲ取リテ摸範ト爲シ、二年
 ヲ經テ、強大ナル一艦隊ヲ編制シ、紀元前二百六十年マイレ(Myia)
 ニ大戰シテ、敵艦ヲ破レリ。

羅馬人既ニ勝ヲ得テ、勢大ニ振ヒ、遂ニ亞弗利加ニ出軍シ、カルセ
 ージノ本國ヲ攻撃ス。然ルニ羅馬ノ將レギラス(Begulus)チニス(Hu
 ero)ニ敗レテ擒ニ就キシ後ハ、轉シテシシリイニ戰ヒ、カルセージ
 人、羅馬人互ニ勝敗アリ。紀元前二百四十一年、羅馬人、カルセージ
 ヲシテ、シシリイ及其近傍ノ諸島ヲ羅馬ニ納レ、巨額ノ償金ヲ出
 ダシ、且シラキース王ヒエロノ獨立ヲ認許セシメ、以テ和親ヲ結
 プ。是ニ於テカルセージノ舊領ナルシシリイ島ハ、羅馬ノ郡縣ニ
 歸セリ。

羅馬人既ニカルセージニ勝チタレバ、更ニ版圖ヲ北方ニ擴メン
 トシテ、切リニアルプス山ヲ覬覦ス。ポー河沿岸ノゴール人ルビサ
 ン、ゴナルフノ大ニ驚キ、我ヨリ彼ニ先ンゼント、羅馬ニ向ヒテ進軍
 セシカバ、羅馬ノ三軍隊、要撃シテ之ヲ破リ、三年ニシテ、盡クシサ
 ルピン、ゴールヲ奪取シ、其地ニ羅馬ノ植民地ヲ設ク。紀元前二百

カルセージ人ハ、羅馬人ノ爲ニ大ナル損害ヲ蒙リシヲ憤リ、戦争ノ後、常ニ報復ヲ圖ルノ念止マズ。是時ニ方リカルセージノ名將ニハミルカーバカ(Hamilcar Barca)ト云フ者アリ、先ヅ西班牙ヲ征服シテ、以テ國敵ナル羅馬ヲ攻ムルノ地歩ヲ作ラント欲シ、紀元前二百三十五年、其子ハンニバル(Hannibal)ノ年甫メテ九歳ナルヲ携ヘ、西班牙ニ航行ス。幾モナクハミルカーバカ戰歿シテ、其養子ハスドラバル(Hasdrubal)職ヲ襲ク。既ニシテハスドラバル刺殺ニ遭ヒ、ハンニバル其後ヲ承テ指揮官トナル。

ハンニバル年二十六ニシテ、選バレテ在西班牙カルセージ軍ノ司令官トナリ、羅馬ノ同盟サガンダム(Saguntum)ヲ攻メテ之ヲ陥ル。是ニ於テ羅馬人、直ニ開戦ヲ宣告シテ、第二ノピューニック役興ル。ハンニバルハ、紀元前二百十八年、羅馬軍備ノ未ダ整ハザルニ先ダテ、ピレニース(Pyrenees)山、アルプス山ヲ踰エテ、伊太利ノ平原ニ出

テ、四戰シテ大ニ羅馬人ヲ破ル。

ハンニバルハ、伊太利半島ニ在ルコト十五年、羅馬ノ勇將フービ



ルバニシハ

ヤス(Fabius)マーセルス(Marcellus)以下七八人ヲシテ、常ニ奔命ニ疲レシメ、兵鋒ノ向フ所、出沒極リナク、敵兵ノ潰散スルコト、恰モ糝糠ヲ散ラスガ如シ。是ニ於テ羅馬ノ國庫缺乏ヲ告ク、伊太利ノ諸邦離叛スルニ至ル。

是時ニ當リ、羅馬人ハ、勇將パブリヤス・シピオ(Publius Scipio)ヲ西班牙ニ遣シ、其地ヲ征服シテ、羅馬ノ郡縣トナセリ。是ニ於テカルセージ人ノ援路既ニ絶エ、ハンニバル敵地ニ在リテ、頗ル困難ヲ極メシカバ、使テ其兄弟ハスドラバルニ遣シ、援助セシコトヲ乞フ。

紀元前二百零七年ハスドラバル西班牙ヨリ發シ、アルプス山ヲ
 踰エ、進ミテ伊太利ニ至リシニ、羅馬軍ノ要撃スルニ會シ、其殺ス
 所トナル。
 シピオハ、西班牙ヲ畧セシ後、亞弗利加ニ渡リテ、屢敵軍ヲ破ル。カ
 ルセーシ人大ニ恐レ、使テ伊太利ニ遣シテ、ハンニバルヲ召還ス。
 羅馬人之ヲ聞キ、ハンニバルヲ亞弗利加ザマ(Zama)ノ平原ニ邀ヘ、
 撃チテ大ニ之ヲ破ル。是ニ於テカルセーシ人ハ、嚴約ニ從ヒテ、和
 睦ヲ乞ヒ、シピオ此後シピオヲ稱ス。ハ、凱旋シテ羅馬ニ歸ル。之ヲ第
 二ピニク役ノ終リトス。
 初メ羅馬人ノ、第二ピニク役ニ勝テ得ルヤ、カルセーシヲ以テ
 附庸ト爲シタレトモ、敢テ其内政ニ干涉セズ、之ニ許スニ自治ノ
 權ヲ以テセリ。是ニ至リ羅馬ニハ、カルセーシヲ以テ郡縣ト爲サ
 ノコトヲ主張スル者多數ヲ占メ、センソル官ケートー(Cato)ノ如

キハ、演説ヲ爲スゴトニ、カルセーシハ、必ズ討滅セザルベカラズ
 トノ一語ヲ以テ之ヲ完結スルニ至ル。

羅馬人ハ、カルセーシ人ニ命ズルニ、武器、船舶、輜重ヲ擧ゲテ悉ク
 羅馬ニ献納シ、加之、其政府ヲ廢シテ、羅馬ノ臣屬タラノコトヲ以
 テス。カルセーシ人悉ク其命ヲ奉ズ。然レモ羅馬人ハ、之ヲ以テ足
 レリトセズ、更ニ之ニ命ズルニ、其海邊ノ市府ヲ破毀シテ、遠ク内
 地ニ移居センコトヲ以テス。カルセーシ人是ニ至リテ嗔怒ニ勝
 ヘズ、皆決心シテ曰ク、假令ヒ生命ヲ抛ツモ、誓ヒテ此暴令ニ從ハ
 ズト。

是ニ於テ紀元前百四十九年、羅馬人ハ、小シピオシピオト稱ス。ニ
 ナシテ、羅馬ノ軍隊ヲ總督シテ、カルセーシヲ圍マシム。カルセー
 シハ、攻圍中ニ在テ、外ニハ救援ナク、内ニハ船舶、兵器ナシト雖モ、
 死力ヲ出ダシテ防戦セリ。然レモ四年ヲ經テ、敵軍遂ニ市府ヲ陷

レ、火ヲ放チテ之ヲ焚ク。烟燄空ニ漲リ、其火斷ヘザルコト十有七日、城郭、邸宅及七十萬ノ生靈共ニ皆烏有ニ歸セリ。羅馬人、已ニ全勝ヲ占メ、乃チカルセージヲ以テ、其郡縣トナシ、プロコンサル(Pro-consul)ノ官廳ヲアチカ(Diaca)ニ置キテ之ヲ管治ス。實ニ紀元前百四十六年ナリ。是ヲ第三ピューニク役トナス。

此時ニ當リ、羅馬人ハ、マセドニヤ及希臘ヲ併セテ其版圖ニ入ル。初メ第二ピューニク役ノ酣ナル頃、マセドニヤ王フリップ五世ハ、ハシニバルヲ援クルノ故ヲ以テ、羅馬人ト兵ヲ交フ。是ニ於テ希臘ノ諸國、或ハマセドニヤヲ助クル者アリ、或ハ羅馬ニ與スル者アリ。羅馬人ハ、セッサリ州シノスセフヘリ(Cynosephale)ノ戰、及ビドナノ戰ニ於テ、大ニマセドニヤノ軍ヲ破リ、羅馬ノ壓制益、甚キヲ加ヘ、紀元前百四十六年カルセル同シジクス。落城希臘ノコリンスヲ陷レテ之ヲ焚燒シ、遂ニ希臘ハ、羅馬ノ郡縣トナリ、アケイヤト稱スル

ニ至ル。

外國征略時代ノ初ニ當リテ、羅馬ノ版圖ハ、伊太利半島ノ外ニ出テザリシニ、其時代ノ終リニ至リテハ、西ハ大西洋ノ海岸ヨリ、東ハコンスタンチノープル(Constantinople)ノ海峽ニ至リ、南歐羅巴ノ全部、地中海ノ諸要島、北亞弗利加ノ一部ヲ領シ、東洋ニ於テハ、羅馬ノ威權、埃及、小亞細亞、シリヤノ地ニ行ハル。又外國征略時代ノ初ニ當リテハ、羅馬ハ、世界大國ノ一ニシテ、カルセージ、マセドニヤ、セリュースヂー(Seleucidae)ノ王國ト並ビ立チシガ、其終リニ至リテハ、他ノ大國皆滅亡シテ、羅馬獨リ大國トナリ、敢テ之ト肩ヲ比スル者ナシ。

是ニ於テ羅馬ノ版圖ハ、伊太利ト郡縣トノ二種ノ領地ヨリ成レリ。伊太利ノ政治ノ狀況ハ、前節ニ記載スル所ノ如クナレドモ、其諸國ヲ征服セシ以來、政治上ノ局面一變シテ、郡縣政治ト稱スル一

種ノ政治發生セリ。即チ各郡縣ノ人民ハ、羅馬ヨリ派遣セル鎮臺長官、及其僚屬ノ管轄ニ屬シ、習慣、宗教、法律等ハ、其舊ニ仍リ之ヲ變更セズ。又各郡縣ノ人民ハ、貨幣若クハ物産ヲ以テ、租稅ヲ納ムルノ義務ヲ有シ、センソル官ハ、各郡縣ノ地區ニ植民スル所ノ羅馬府民パトリカニ其收入シタル租稅ヲ貸附ス。蓋羅馬ノ制度ハ、羅馬ヨリ發シテ、地中海々濱ニ居住セル數百萬ノ人民ヲ網羅シ、其言語、人種ハ、各相異ナリト雖モ、皆羅馬中央政治ノ爲ニ箝束セラレザル者ナシ。

第四節 内亂ノ時代

紀元前百五十年ノ頃ノ羅馬社會ノ形況ヲ觀察スル者ハ、日ナラズシテ羅馬ニ内亂ヲ生ズルノ兆アルヲ知ルナルベシ。往昔羅馬ノ社會ニハ、貴族、平民ノ區別アリシニ、今ヤ其區別廢絶シテ、貧民ト富民トノ二族ニ分レタリ。又往昔伊太利ニハ、田圃ヲ所有シテ、

其耕作ニ從事スル農民アリシニ、今ヤ農民其跡ヲ絶チテ、夥多ノ奴隸ノ輩之ニ代リテ、其地ヲ耕作セリ。又諸市邑、殊ニ羅馬ニハ、工匠、役夫等、正當ノ職業ヲ營ム者甚ダ少クシテ、袖手遊食、徒ラニ舌ヲ鼓シ投票ヲ賣リテ糊口スル者甚ダ多シ。畢竟羅馬社會ニ於テハ、中等ノ種族既ニ滅シテ、一方ニハ富豪ト一方ニハ貧民トノ兩端ニ分レタルナリ。

此時民長ニタイベリヤス・グラカス (Tiberius Gracchus) ト云フ者アリ、貧民ノ困窮ヲ救フノ目的ヲ以テ、田圃ヲ分割スルノ法案ヲ提出シテ曰ク、一人ニシテ、五百ジゲラ以上ノ土地ヲ所有スルコトヲ得ズ。其餘ハ、之ヲ小分シテ他ノ者ニ配賦スベシト。蓋此法案ハ、新法ニアラズ、リシニヤス (Licinius) ノ法ヲ再興セシニ過キザルノミ。紀元前百三十三年ニ至リ、人民ハ、此田圃分割ノ法案ヲ可決セリ。然レモ貴族ノ黨ハ、此法ノ己ニ利アラザルヲ見テ、争ヒ起リテ其

説ヲ謗議シ、グラッカスハ、公衆ニ向ヒテ、王冠ヲ求ムル者ナリト誣告シ、グラッカス及其黨與三百人ヲ襲撃シテ、之ヲ亂殺ス。

ダイベリヤス・グラッカスノ歿後十年、弟タイヤス・グラッカス(Caius Gracchus)又民長トナル。兄ノ遺業ヲ繼ギ、田圃分割ノ法ヲ主唱シ、激論ノ後、遂ニ令ヲ發シテ、毎月府内ノ貧民ニ穀物ヲ賑スノ法ヲ定メ、其他種々ノ改革案ヲ提出セリ。是ニ於テ貴族ノ忿怨益甚シク、在職二年ノ後、遂ニ職ヲ免セシム。然レモ貴族等猶以テ足レリトセズ、紀元前百二十一年グラッカスヲ公會場ニ襲ヒ、其黨三千人ヲ殺ス。此時グラッカスハ、僅ニ身ヲ以テ免レタリト雖モ、敵兵ノ追躡甚ダ急ナルヲ以テ、遂ニ從者ヲシテ己ヲ刺殺セシメタリ。

然レモグラッカスノ歿後、貴族ト平民トノ軋轢尙未ダ止マズ。貴族ハ、サラー(Sulla)ヲ推シテ頭領トナシ、平民ハ、メーリヤス(Marius)ヲ奉シテ首長トナシテ、互ニ相ヒ争鬪シ、鮮血、流レテ伊太利ノ全土ニ

氾濫ス。蓋メーリヤス、サラーガ、名望ヲ得テ、黨派ノ首長トナルコトヲ得タルハ、是ヨリ先キ二十五年乃至三十年間ノ戦争ニ於テ、各、勳功ヲ奏シタルニ由レリ。

其所謂戦争トハ、ジユガーサ(Jugurtha)ノ役、シンブリー(Cimbri)人ノ役、連合部ノ役、及ミスリデチース(Mithridates)ノ役是ナリ。茲ニ其概畧ヲ記スレバ左ノ如シ。

ジユガーサハ、亞弗利加ヌミヂヤノ篡主ナリ。羅馬人、兵ヲ遣シテ之ヲ征スレモ、勝タズ。然ルニメーリヤス一戰ノ下ニ之ヲ破リ、王ヲ擒ニシテ歸ル。之ヲジユガーサノ役ト曰フ。

シンブリー人ハ、羅馬帝國ヲ顛覆セシ北蠻ノ前駆ナリ。其勢五十萬、南下シテ羅馬ニ迫ル。羅馬人之下六戰シテ勝タズ。然ルニメーリヤス一戰ノ下ニ之ヲ破リ、羅馬ノ危急ヲ救フ。之ヲシンブリー人ノ役ト曰フ。

連合部ノ役ハ、畢竟伊太利ノ内亂ニシテ、一民長アリ、伊太利人ニ
羅馬府民ノ全權ヲ與ヘンコトヲ發議セシガ、刺客ノ殺ス所トナ
レリ。是ニ於テ伊太利ノ諸邑、兵ヲ擧ゲテ羅馬人ニ叛シ、殺傷三十
萬人ニ及ベリ。然レモ羅馬人、終ニ伊太利人ニ羅馬府民ノ全權ヲ
許セリ。之ヲ連合部ノ役ト曰フ。

ポンダス(Pontus)ノ王ミスリヂチースハ、剛勇ニシテ智畧アリ。大ニ
亞細亞諸邦ト希臘トヲ連合シテ、以テ羅馬ニ抗敵セント企圖シ、
先ヅ小亞細亞ノ市府ニ住居スル羅馬人ヲ襲ヒ、一日ニシテ八萬
餘人ヲ掩殺シ、紀元前八十八年而シテ後チ希臘ニ進入ス。羅馬人此報ヲ
得ルヤ、直チニ征討ノ軍ヲ募リ、其總督ヲ撰バントス。メーリヤス、
サラ一相競ヒテ總軍都督ノ任ニ當ランコトヲ望ム。サラ一ハ貴
族黨ノ首長ナリシガ、撰バンテコンサル官トナリ、征討ノ軍ニ總
督タリ。メーリヤス之ヲ見テ憤懣ニ耐ヘズ、平民黨ノ力ヲ藉リテ、

サラ一ノ職ヲ奪フ。サラ一之ヲ聞キテ、直ニ令ヲ部下ニ傳ヘ、羅馬
ニ入リ、メーリヤスヲ脅シテ亞弗利加ニ遁走セシメ、更ニ兵ヲ轉
シテ希臘ニ向ヒ、ミスリヂチースノ軍ヲ破ル。是ニ於テ希臘ノ全
土悉ク平ク。紀元前八十八年至ル。之ヲミスリヂチースノ役ト曰
フ。

サラ一ノ、未ダ羅馬ニ凱旋セザルニ先チ、メーリヤスハ、亞弗利加
ヨリ羅馬ニ歸リ、大ニ殺戮ヲ縱ニシ、殊ニ元老院議官ノ、サラ一ヲ
佐クル者ヲ殺シ、自ラコンサル官ト稱ス。然レモ纔ニ二週間ニシ
テ歿セリ。紀元前八十四年
メーリヤス已ニ歿セリト雖モ、其黨派ノ勢力尙未ダ衰ヘズ、サラ
一遙ニ之ヲ聞キ、メーリヤス黨ヲ芟鋤シテ、以テ己ノ地位ヲ固メ
ント欲シ、急ニミスリヂチースト和シ、兼程シテ伊太利ニ歸ル。紀元
前八十三年メーリヤスノ黨之ヲ邀フ、サラ一之ト激戰シテ之ヲ破リ、

大ニ殺戮ヲ縱ニシテ、鮮血川ヲ成セリ。其殺戮ノ殘忍ナルヤ、メー
 リヤスノ時ニ比スレバ、更ニ甚シク、平民黨ニ與スル者ハ、悉ク死
 刑ニ處スルノ令ヲ下シタリト云フ。
 サラーハ、悉ク平民黨ヲ變鋤スルノ後、紀元前八人民ニ迫リ、己ヲ
 以テ終身ノ總裁ニ任ズルノ公布ヲ發セシメ、其後專ラ貴族黨ヲ
 利スルノ目的ヲ以テ、政府ノ組織ヲ變更セシメ、僅ニ三年ヲ經テ、
 突然職ヲ辭シ、一私人トナル。世人其舉動ノ意表ニ出デタルニ驚
 カザルハナシ。メーリヤストサラートノ内亂ニ於テ、羅馬市民ノ
 死スル者凡ソ十五萬ニシテ、其中、元老院議官二百人アリト云フ。
 サラーノ歿後、貴族黨ノ中ニテ、最モ卓然タル者ヲ子イヤス・ポン
 ペー(Cneius Pompey)トナス。ポンペーハ、メーリヤス黨ノセルトリヤス
 (Sertorius)ナル者、西班牙ニ在リテ、羅馬ニ叛キシヲ討シ、又劔優ノ首
 領タルスパークカス(Spartacus)ノ叛逆ヲ討滅シ、又小亞細亞ノシリ

シヤヲ本據トシテ、地中海ニ横行セル海賊ヲ征討スルノ命ヲ受
 ケ、三月ニシテ之ヲ平グ、其功ヲ以テ大ニ勢力ヲ政治上ニ得タリ。
 既ニシテポンダス王ミスリヂチー兵ヲ起シテ、羅馬ノ東郡ヲ
 攻略ス。ポンペー命ヲ受ケテ、出征スルコト二年、連戰連勝シテ、遂
 ニ全クミスリヂチース及其義子タイグラニース(Tigranes)ヲ服從
 セシメ、フェニシヤヲ略シ、シリヤヲ併セテ、羅馬ノ郡縣トナシ、又進
 ミテ、ゼリユサレム府ヲ取り、功業既ニ成リテ、羅馬ニ凱旋セシカバ、
紀元前六國人儀容ヲ盛ニシテ之ヲ迎へ、優待至ラザル所ナシ。
 サラーノ歿後、羅馬ニ四黨派アリ、一ニ寡人政府黨ト名クルハ、元
 老院ヲ左右シ、又羅馬共和國ヲ制御セル少數ノ氏長ヨリ成ル。此
 黨ノ首領ハ、ポンペーナルガ、其亞細亞出征中ハ、シセロ(Cicero)代リ
 テ其首領トナレリ。二ニ貴族黨ト名クルハ、元老院議官中、同僚數
 人ノ爲ニ勢力ヲ奪ハシ、熱心シテ其回復ヲ謀ル所ノ多數黨ヨリ

成ル。此黨ノ首領ハ、コンサル官クラッサス(Crassus)ナリ。三ニメーリヤ
 ン黨ト名クルハ、曾テサラーノ爲ニ其家族ヲ虐殺セラレ、今方ニ
 相合シテ、権力ヲ覬覦セント謀ル者ヨリ成ル。此黨ノ首領ヲケイ
 ヤス・ジュリヤス・シーザー(Caius Julius Caesar)ト爲ス。シーザーハ、貴族ノ
 家ニ生ルト雖モ、其私志ヲ遂ゲンガ爲ニ平民ニ黨援セシナリ。四
 ニ武人黨ト名クルハ、曾テサラーノ配下ニ在リシ老練ノ將校ニ
 シテ、其畧奪セル財産モ、既ニ浪費シ盡シ、功名富貴ヲ博センコト
 ヲ冀フ者ヨリ成ル。此黨ノ首領ハ、カチリン(Catiline)ナリ。
 貴族ノ少壯ニシテ放逸ナル者、及軍人ノ落魄シタル者ハ、カチリ
 ンニ歸シ、之ヲ戴キテコンサル官ト爲シ、以テ己ヲ利センコトヲ
 謀ル。カチリンハ、シセロト相競ヒテ、コンサル官タランコトヲ望
 ミシガ、元老院議官ノ援助アルヲ以テ、シセロ遂ニコンサル官ニ
 擧ゲラレタリ。カチリン大ニ怒リテ、シセロヲ殺シ、羅馬ヲ燒カン

トスルノ謀ヲ爲ス。其發スルニ先チテ、一婦人之ヲシセロニ密告
 セシカバ、シセロ直ニ雄辯ヲ振ヒテ、カチリンヲ彈劾ス。カチリン
 答フルコト能ハズ、羅馬ヲ遁逃シテ、群黨ト俱ニゴールニ走リ、エ
 トルーリヤニ至リ、遂ニ追兵ノ殺ス所トナル。時ニ紀元前六十二
 年ナリ。

ポンペーヲシテ、若シ英邁ニシテ、洞察ノ見アラシメバ、其東國ヨ
 リ歸ルヤ、直チニ羅馬ノ全權ヲ占メテ、億兆ノ上ニ位スルコト難
 キニアラザルベシ。然レモポンペーハ、英邁ナル政治家ト謂ハン
 ヨリハ、寧ロ僥倖ナル將帥ト謂フベキ人ニシテ、其才、其任ニ適セ
 ズ。ポンペーハ、寡人政府黨ノ漸ク己ヲ輕侮シ、又元老院議長ク
 トーガ、其亞細亞出征中ノ措置ヲ非トシテ、許可セザルヲ恚リ、遂
 ニ抵抗ノ念ヲ生シ、轉シテ平民黨ニ入り、シーザート深ク相結托
 ス。

シーザー、ポンペーハ、其意氣ノ相投ズルヲ以テ、堅ク聯合セント欲ス。シーザーハ、其愛女ジュリア(Cleopatra)ヲ以テポンペーニ妻ハセ、又クラッサスヲ以テ、己ノ黨與トスルノ便利ナルヲ知り、之ヲ援キテ三人互ニ相締結ス。是レ紀元前六十年ノ事ニシテ、羅馬史上有名ナル第一次ノ三人聯合ナリ。蓋シーザー、ポンペーノ心ハ、専ラ元老院黨ヲ遏抑シテ、悉ク其權勢ヲ己ノ黨ニ收攬セントスルニ在リ。

三人聯合ノ立チシ後、シーザーハ、コンサル官ニ撰擧セラレ、其職期滿ツルニ及ビテ、ゴールノ總督ニ任ジ、其間、屢、土人ト劇戰シテ悉ク之ヲ破リ、日耳曼人ノ酋長エーリオヴスマス(Ariovistus)ノ、ゴールノ地ニ據ラントスルヲ驅逐シ、ライン(Rhine)河ヲ涉リテ、日耳曼ノ内地ニ入り、更ニ海ヲ渡テ、ブリテン島ヲ攻侵スルコト、前後凡ソ八年ニ亘レリ。其後紀元前五十年ノ春、シーザーハ其部下ノ兵

ヲ率井テ、アルプス山ヲ越エ、南ニ下リ、シサルピン、ゴールニ移居セリ。シーザーガ部下ノ兵ハ、多クハゴール人、日耳曼人ヨリ成リ、皆シーザーニ心服シテ、之ト其進退ヲ與ニシ、水火ノ難ト雖モ、敢テ辭セザル者ナリ。

是ヨリ先キ紀元前五十五年、シーザーノ出テ、外ニ在ルヤ、ポンペー、クラッサスハ、共ニコンサル官ニ選舉セラレ、其職期ソ滿ツルニ及ビテ、ポンペーハ、五年間プロコンサル官トナリ、西班牙ヲ管轄スルノ權ヲ得、クラッサスモ、亦同一ノ官ニ拜セラレテ、東方ヲ統轄スルノ權ヲ得タリ。然レモ幾モナクシテ、クラッサスハ、ペルシヤニ於テ害セラレ、三人ノ聯合ハ、變ジテシーザー、ポンペー二人ノ聯合トナレリ。

是ヨリシーザー、ポンペーノ二人ハ、交誼漸ク疎クナリ、其極、互ニ相敵視スルニ至ル。ポンペーハ、平民黨ヲ脱シテ再ビ貴族黨ニ加

ハリ、紀元前五十二年唯獨リコンサル官ヲ占メ、以テシーザーニ抵抗セントス。是ニ於テ羅馬ノ貴族ノ、シーザーヲ忌憚セル者、悉クポンペーニ屬ス。

シーザーノ總督タル任期ハ、將ニ紀元前四十九年ヲ以テ終ラントス。自ラ以謂ク、紀元前四十八年ノ改選期ヲ以テ、コンサルノ官職ヲ得ルニ非ズンバ、退キテ一私人トナラザルヲ得ズト。乃チ其身、外ニ在リト雖モ、コンサル官ノ候補簿ニ其名ヲ記入セラレシコトヲ求ム。ポンペー之ヲ許ササルノミナラズ、シーザトニ令スルニ、宜シク紀元前五十年十一月十三日ヲ以テ其總督ノ職ヲ解クベキコトヲ以テス。シーザーハ、ポンペーノ命令ノ不理ナルヲ憤ルト雖モ、尙平和ヲ欲シ、若シポンペーニシテ、其東方總督ノ職ヲ解カバ、己モ亦己ガ職ヲ解カント發議ス。然レモ元老院ハ、其議ヲ容レズ、シーザーハ、宜シク日ヲ期シテ其軍隊ヲ解散スベシ。若

シ背ゼズンバ、國賊ヲ以テ之ヲ處分スベシト命令ス。

シーザーハ、事ノ已ニ整ハザルヲ知り、直チニ曲直ヲ干戈ニ訴ヘントス。紀元前四十九年一月シーザー兵ヲ率井テ、ラヴェンナ(Ravenna)ノ本營ヲ發シ、ルービコン(Rubicon)河ヲ渡リ、其軍ヲ進ム。是時、ポンペーハ、大軍ヲ募リ、再舉シテシーザーヲ壓倒セント決心シ、伊太利ヲ退キテ、希臘ニ赴ケリ。是ヲ以テシーザーハ、僅々六十日ニシテ、伊太利ノ全土ヲ定メ、紀元前四十八年總裁及コンサル官ニ選舉セラレ、老練ナル政畧ヲ施シ、人心ヲ籠絡シテ、大ニ民望ヲ得タリ。

シーザーハ、ポンペーノ、大軍ヲ集メテ、セッサリーニ在リト聞クヤ、直チニ兵ヲ率井テ出發シ、紀元前四十八年プーサリヤ(Pharsalia)ニ決戦シテ、大ニポンペーヲ破ル。ポンペー既ニ敗レテ、埃及ニ遁レ、其海岸ニ上陸セシニ、埃及王トレミー(Ptolemy)人ヲ遣シ、之ヲ刺殺

セシメ、ポンペーノ首級ヲシーザーニ送レリ。
 埃及王ノ姉クレオパトラ(Cleopatra)ハ、容顏艶麗妖冶ニシテ、人ニ媚
 アルノ態アリ。シーザー埃及ニ止マルコト數月、其容色ニ感溺シ、
 其言ヲ納レテ國王トレミテ擊殺シ、クレオパトラヲ以テ埃及
 ノ女王トナシ、更ニ轉シテポンダスニ進ミ、ミスリヂチーヌノ子
 フーナセス(Pharnaces)ヲ伐チテ、之ヲ征服セリ。
 是時ニ當リ、ポンペーノ殘兵ハ、フーザリヤヨリ逃レテ、亞弗利加
 ナル羅馬ノ領地ニ據リ、シピオ、タート一等ヲ奉シテ、其將帥トス。
 紀元前四十六年、シーザー既ニ東方ノ事件ヲ終ヘ、兵ヲ率井テ之
 ヲタープサス(Thapsus)ニ擊破シ、シピオ、タート一皆自殺ス。殘兵再
 ビ西班牙ニ集マル。紀元前四十五年三月、シーザー、マンダ(Munda)ニ
 於テ之ト戰ヒ、擊チテ之ヲ破ル。ポンペーノ殘黨此ニ於テ亡ブ。
 シーザー既ニ羅馬ノ政柄ヲ掌握シ、王冠ト王號トヲ希フノ意アリ

リ、此時クイヤス、カシヤス(Caius Cassius)マーカス・ジュニヤス・ブルータ
 ス(Marcus Junius Brutus)ノ二人ハ、シーザーノ恩遇ヲ受クルコト厚シ。
 然レモ猶以テ足レリトセズシテ、却テ其威名ヲ忌ミ、不逞ノ徒ト
 合シ、シーザーノ王冠ト王號トヲ希フノ意アルコトヲ流言シ、私
 カニ黨ヲ集メテ、シーザーヲ刺殺セシコトヲ謀ル。元老院議員ノ、
 其黨ニ加ハル者、六十人ノ多キニ至レリ。

不平黨ハ、シーザーヲ刺殺セシコトヲ決シ、紀元前四十四年三月
 十五日ヲ以テ、其事ヲ行ハントス。此日、シーザー元老院ニ臨マン
 トス。人アリ切諫シテ之ヲ止ム。シーザー意ト爲サズ。既ニ入テ席
 ニ就クヤ、刺殺黨群リ起チテ、各、ヒ首ヲ揮ヒ、シーザーニ逼ル。シー
 ザー暫ク之ト防戰セシガ、ブルータスノ、其黨中ニ在ルヲ見テ、咄
 ブルータス、汝モ亦然ルカト言ヒ、乃チ衣ヲ以テ面ヲ掩ヒ、敢テ復
 抗セズ。シーザー身ニ二十三創ヲ蒙リ、遂ニ其舊敵ポンペーノ塑

像ノ下ニ殮ンタリ。時ニ年五十六ナリ。

シーザーノ官途ニ出身シタルハ、其四十歳以後ナリトス。爾後ゴ



シーザー

ールヲ征シテ、慄悍ノ蠻民ヲ一擧ニ征伏シ、羅馬ノ國旗ヲ英吉利及ライン河ノ以東ニ翻シ、ニタヒ西班牙ヲ攻略シ、伊太利ニ進入シテ、ポンペーノ軍ヲ破リ、埃及ヲ克服シ、フーナセスニ勝チ、テープサス及マシダニ於テ、最後ノ勝利ヲ得タリ。此間、僅ニ十四年ニ

シテ、戦争スルコト凡ソ五十回、殺傷スル所凡ソ百餘萬人トス。然レモ、シーザーノ、軍事ニ、從ヒシハ、唯其政治家タルノ地歩ヲ作ラントスルニ過ヤズ。是ヲ以テシーザー既ニ羅馬ノ全權ヲ握リタル後ハ、破壊ノ主義ヲ棄テ、孜々トシテ富國安民ノ事ニ從事シ、郡縣ニ在リテハ、公明正大ノ行政法ヲ制定シテ、貿易及農業ヲ

振作シ、羅馬府ニ在リテハ、神廟、劇場、公會所等ヲ設ケテ、之ヲ裝飾シ、其他ポンチン(Pontin)ノ沼澤ヨリ水ヲ導キ、ダイバー河ノ爲ニ、水道ヲ開カント謀リ、曆法ヲ改正スル等、其計畫スル所ハ、總テ羅馬國ノ全版圖ヲ改良擴張スルノ意ニ出テザルハナシ。蓋其羅馬ニ歸リシヨリ歿スルニ至ルマデ、其間僅ニ二年ニ過ヤザルヲ追思スレバ、シーザーガ事業ノ大且偉ナルコト、實ニ驚クニ堪ヘタリ。

シーザーノ葬儀ヲ行フヤ、コンサル官マークアントニー(Mark Antony)其棺前ニ於テ演説シ、シーザーノ功勳ヲ賞讃セシカバ、羅馬人之ニ感激シテ、切リニ刺殺黨ヲ惡ムノ念ヲ發ス。是ニ於テブル

一ダス、カシヤスノ二人ハ、禍ヲ恐レテ羅馬ヲ去レリ。當時、羅馬ニ於テシーザーノ主義ヲ代表繼續セル者ハ、マークアントニーヨリ近キハナキガ如シ。然レモシーザーノ姪ニシテ養

ハレテ其子トナリタルガイヤス・オクタブイヤス(Caius Octavius)ハ、ア
ントニニ比スレバ、却テ近クシーザーノ主義ヲ代表繼續セリ。
是ヲ以テ、シーザーノ舊臣、老將、争ヒテオクタブイヤスノ麾下ニ集
マリ、兵ヲ擧ゲテ義父ノ爲ニ仇ヲ報ゼンコトヲ德愆シテ止マズ。
オクタブイヤスハ、時ニ年十九歳ナリ。

初メアントニトオクタブイヤストハ、互ニ相容レザリシガ、後遂
ニ心ヲ同シクシ、騎兵都督レピダス(Lepidus)ヲ其黨ニ加ヘ、第二ノ
三大聯合ヲ結成シ、羅馬ノ主權ヲ三人ノ間ニ分マンコトヲ謀ル。
紀元前四
十三年

是ニ於テ三人ハ、先ヅ其仇敵ヲ殺戮ヒントス。其殺戮ノ残忍ナル
ヤ、メーリヤス、サラノ暴殺ヨリモ甚シ。相傳フ、此時殺害ニ遇ヒ
タル者ハ、元老院議員三百人、士人二千人、都人數千人ニシテ、就中
雄辯家シセロノ如キハ、痛クアントニトニテ罵詈セシヲ以テ、深ク

其怨恨スル所トナリ、橋ニ乗ジテ羅馬ヲ遁逃スルノ途中、刺客ノ
殺ス所トナレリ。

三人ハ、次ニ共和黨ノ勢力ヲ撲滅セントス。此時共和黨ナルブル
ーダス、カッシヤスノ二人ハ、伊太利ヲ去リテスレーニスニ往キ、兵士
十萬ヲ召集ス。アントニト、オクタブイヤスノ二人、大軍ヲ率非テ
之ヲ追撃シ、遂ニフリビ(Philippi)ニ會戦ス。共和黨ノ軍全ク敗レ、ブ
ルーダス、カッシヤス皆自刃ス。紀元前四十四年十一月

是ニ於テ三人ハ、羅馬國ヲ分割シテ、アントニトハ、東國ヲ得、オク
タブイヤスハ、西國ヲ得、レピダスハ、亞弗利加ノ郡縣ヲ得タリ。然レ
凡分割ノ事畢ルヤ否ヤ、三人ノ間ニ不和ヲ生ジ、幾バクモナク、レ
ピダスハ、其領地ヲ失ヒ、アントニトオクタブイヤストハ、固ヨリ
兩立スルコト能ハザルノ英雄ナルヲ以テ、互ニ相陷レンコトヲ
謀ル。

アントニーハ、羅馬帝國ノ一半部ヲ領シテ、首府ヲアレキサンド
 リヤニ定メシガ、埃及ノ女王クレオパトラノ容色ニ惑ヒテ、己ノ
 名利ヲ謀ルノ念ヲ失ヒ、終ニ其妻オクタヴィヤ(Octavia)ヲ離婚シテ、
 クレオパトラニ婚シ、羅馬ノ郡縣ヲ擧ゲテ之ニ與フ。オクタヴィヤ
 ハ、オクタヴィヤスノ姉妹ナリ。
 オクタヴィヤス、此事ヲ聞クヤ、直チニアントニーヲ以テ國ヲ賣ル
 ノ大罪人ト爲シ、元老院ノ認可ヲ得テ、直チニ兵ヲ進メ、希臘ノ西
 岸ナルアクチヤム(Achium)ノ海角ニ會戰ス。戰爭方ニ酣ニシテ、ク
 レオパトラハ、埃及ノ海軍ヲ率井テ遁走セシカバ、アントニーハ、
 直チニ其後ヲ追ヒ、俱ニアレキサンドリヤニ向ヒテ走ル。是ニ於
 テアントニーノ率井シ海陸軍ハ、皆オクタヴィヤスニ降ル。紀元一
 年
 オクタヴィヤスハ、敵ヲ追ヒ、進ミテアレキサンドリヤヲ圍マント

ス。アントニー之ヲ防禦セント企テタレトモ、其麾下ノ兵士遁レ去
 リテ、之ガ用ヲ爲サズ、即チ自ラ刃ニ伏シテ歿ス。又クレオパトラ
 ハ、其容色ヲ以テオクタヴィヤスヲ蠱惑センコトヲ謀レトモ、オクタ
 ヴィヤスノ冷淡ナル、更ニ之ニ應ズルノ色ナシ。クレオパトラハ、生
 キナガラ縲紲ノ辱ヲ受ケテ、オクタヴィヤスガ馬前ニ立チ、其凱旋
 ノ榮ヲ添ヘンヨリハ、寧ロ自殺スルノ愈レルニ如カズト決心シ、
 遂ニ毒蛇ヲ以テ身ヲ齧マシメテ自殺セリ。或ハ云フ、毒針ヲ以テ
 レオパトラ既ニ死シテ、埃及遂ニ羅馬ノ郡縣トナレリ。紀元前
 三十九年
 是ニ於テ豪邁ナルジュリヤスガ、兒孫ノ爲ニ掃蕩シタル大版圖ハ、
 擧ゲテ義子オクタヴィヤスノ掌握ニ歸シ、其羅馬ニ凱旋スルヤ、元
 老院議員ハ、直ニ之ニ奉ズルニインペレーター(兵馬總督)ノ稱號
 ヲ以テス。オクタヴィヤス辭スレドモ聽カレザリシカバ、十年ヲ限
 リテ其職ニ就キ、其間漸次ニプロコンサル官、コンサル官、センソ

ル官、民長及大祭主等ノ重職ヲ一身ニ帶ビ、其實羅馬全土ノ皇帝ト異ナルユトナキニ至レリ。蓋羅馬帝國ノ始マリシハ、紀元前二十七年オクタヴィヤスガ、オーガスダス(Augustus)ノ稱號ヲ受ケタル時ニ在リトスベシ。

第四章 羅馬帝國

第一節 オーガスダスノ時代

オーガスダス・シーザー(Augustus Caesar)ハ、年三十六ニシテオーガスダスノ尊號ヲ得、其實羅馬全土ノ皇帝トナル。紀元前二十七年此時羅馬ノ制度ハ、尙共和政治ノ舊ニ依リタル者尠ナカラズト雖モ、其實、帝政ニ異ナラズ。元老院ハ、舊ニ依リ集會スレド、唯皇帝ノ意ニ從ヒテ、可否ノ投票ヲ爲スニ過キズ。人民モ、亦舊制ニ依リテ、議院ニ參シ、コンサル官及其他ノ高官ヲ選舉スレド、唯皇帝ノ推薦シタル人ヲ選舉スルニ過キズ。然レモオーガスダスハ、帝王ノ虛飾ヲ



羅馬帝國
第二世紀
地圖



波斯
印度洋
紅海
地圖

用フルヲ好マズ、政治ノ實權ヲ握ルヲ以テ足レトシ、殆ド間斷
ナク祭典ヲ張リ、遊宴ヲ設ケ、或ハ穀物等ヲ賑恤シ、以テ民心ヲシ
テ政治ヲ議スルノ暇ヲ得ザラシメ、人民モ亦甘シテ政治以外ニ
安身ノ地ヲ求ムルヲ以テ足レトセリ。
オーガスダス帝ノ建立シタル羅馬帝國ノ疆界ハ、北ハ英吉利海
峽、北海、ライン河、ダニューブ (Danube) 河及黑海ニ濱シ、東ハユーフレ
ーテス河及シリヤ沙漠ニ臨ミ、南ハ亞弗利加サハラ (Sahara) ノ大
沙漠ニ接シ、西ハ大西洋ニ鄰シ、東西二千七百哩、南北一千哩トス。
帝國ノ全土ハ、伊太利ヲ除クノ外、分チテ二十七州トス。即チ歐羅
巴ニ十四州、亞細亞ニ八州、亞弗利加ニ五州トス。
羅馬帝國ノ範圍内ニ、三種ノ文明ヲ存セリ。羅甸、希臘、東洋ノ文明
是ナリ。
羅甸ノ文明ハ、大西洋ヨリアドリヤチツ海ニ至ル迄ノ地方ニ行

ハレ、此等ノ地方ニ於テハ、羅匈語到ル處ニ行ハレテ、固ク根柢ヲ張リ、風俗、習慣ヲ初メ一切ノ文明ヲ擧ゲテ、悉ク羅馬風ニ變シタリ。

希臘ノ文明ハ、アドリヤチック海ヨリトリス(Thuris)山東小亞細亞ニ連レル山ナニ至ル迄ノ諸國ニ行ハレ、此等ノ諸國ハ、政治上ニ於テハ、全ク羅馬ニ則レリト雖モ、風俗、習慣、言語等ニ於テハ、皆希臘ヲ學ビタリ。

東洋ノ文明ハ、ユーフレイテス河以東ノ諸國、殊ニ埃及、シリヤノ二州ニ行ハル。此等ノ地方ハ、アレキサンダー大王ヲ繼續セシ諸將ノ管轄ニ歸セシ後、較希臘風ニ化セシモ、其勢力微弱ニシテ、未ダ普ク民心ヲ化スルニ至ラズ。其羅馬ノ所屬ト爲ルニ及ビテモ、尙依然トシテ東洋ノ風習ヲ存セリ。

オーガスダス帝ノ治世中、羅馬帝國ノ封域内ニ生息セシ人民ハ、蓋一億萬ニ上リシナルベシト雖モ、其内、奴隸ノ域ニ陥リタル者半ニ過ギタリ。又伊太利ニ住居シテ、羅馬府民ト誇稱シ、政治上自治獨立ニシテ、少シク羅馬ノ政治ニ參與セシ者ハ、僅ニ一小部分ニ過ギズシテ、其他各地、各州ノ人民ハ、大抵最上ノ兵權ヲ握リタル羅馬ノ縣令、又ハ總督ノ管領ニ屬シ、自治獨立ノ權利ヲ受ケズ。只市制ヲ定メ、市尹ヲ選ム時ニ在リテハ、羅馬人ハ、之ヲ其地ノ人民ニ委テテ、更ニ管制スルコトナキノミ。又プレトリヤン・コーホート(Pretorian Cohort)ト稱スル一萬人ノ兵隊アリ。此兵隊ハ、屢剛勇ヲ顯ハシ、征戰ニ練熟シタルヲ以テ、オーガスダス帝ヨリ、他ノ兵隊ニ二倍セル給料ヲ受ケ、羅馬及伊太利ノ公安ヲ保持スルノ職ニ任シ、而シテ諸州ニ於テハ、三十五萬ノ常備兵アリテ、各其地人民ノ鎮撫ヲ司レリ。

オーガスダス帝ノ治世中、尤モ記憶セザルベカラザル一事ハ、ジ

ベヤナルベスレハム(Bethlehem)ノ一小村ニ、耶蘇・基督(Jesus Christ)ノ降誕セシコト、是ナリ。此事ヤ世界宗教史中ノ、最モ緊要ナル事實ニシテ、今日歐米ノ諸國ニ於テ採用スル紀元ヨリ之ヲ推算スレバ、實ニ紀元前四年ニ當レリ。

紀元十四年以下紀元オーガスダス帝殂ス。帝ハ、紀元前二十七年オーガスダスノ稱號ヲ得シヨリ、其殂スルニ至ルマデ、羅馬ノ版圖ヲ管領スルコト、凡ソ四十一年ナリトス。

オーガスダス帝ノ殂後、羅馬ノ歴史ハ、唯歷世皇帝ノ運命、又ハ宮禁ノ騷擾ノ如キ鎖細無味ノ事ヲ以テ充滿セラレ。是ヲ以テ以下唯オーガスダス帝ノ殂後ヨリ羅馬國ノ東西ニ分カル、ニ至ルマデノ羅馬ノ大勢ヲ畧記セントス。

第二節 政治上ノ歴史

オーガスダス帝ノ殂後數十年ノ間、其子孫ト稱シ、若クハ其家ニ

養ハレテ子ト爲ル者、帝國ヲ傳領シテ、ニロー口(Nero)帝五十四年ニ至ル。ニロー口帝殂スルニ及ビテ、オーガスダスノ系統ハ絶エタリト雖モ、之ニ繼キテ帝位ニ登ル者、尙舊ニ依リテ自ラシイザ、オーガスダス等ノ稱號ヲ帶ビタリ。其後幾モナク軍卒ハ皇帝ノ左右ニ在リテ、廢立ノ實權ヲ弄シ、特ニ近衛兵ノ如キハ、其好ム所ノ人ヲ擧ゲテ皇帝トナシ、當時元老院アリト雖モ、只軍卒ノ推薦スル所ノ帝ヲ認可スルニ過ギズ、且軍卒ハ、皇帝ヲ廢立スルヲ以テ職トナスノミナラズ、己ノ立ツル所ノ皇帝ト雖モ、其即位ノ際、賜與スル所少クシテ、輒チ之ヲ弑シテ、更ニ他將ヲ選ビ皇帝トナス。是ヲ以テ數國ノ軍隊、各其黨スル所ノ者ヲ擁立シテ、一時數帝アルニ至ル。

オーガスダス帝ノ遺令ニ因リ、羅馬帝國ノ版圖ハ、天然ノ地勢ニ因リテ、之ガ限界ヲ爲シ、永ク變改スルコトナカラシム。即チ西ハ

太西洋、北ハライオン河、ダニユーブ河、東ハユーフレータス河、南ハ亞弗利加、アラビヤノ沙漠ヲ以テ、帝國ノ境界ト定ム。然レモ第一世紀中ニ於テ、クロードヤヌ(Olaudius)ニエロ、ドミシヤン(Domitian)ノ三帝ハ、ブリテン島ノ大半ヲ征服シテ、羅馬ノ版圖ニ加ヘ、又第二世紀ノ初メトトレイジャン(Trajan)帝ハ、ダシヤ(Dacia)ノ地ヲ征服セリ。但シダシヤノ一州ハ、北ハニースター(Dneister)河ニ接シ、西ハダニス(Dniestr)河ニ臨ミ、南ハ下ダニユーブ河ニ濱シ、東ハ黒海ニ鄰セリ。前章ニ記シタルガ如ク、羅馬帝國創立ノ初ハ、其版圖伊太利ト郡縣トノ二部ニ分レ、其政治ノ體裁全ク同シカラズ。即チ伊太利ノ住民ハ、所謂羅馬府民ニシテ、羅馬人ノ權利ヲ有シ、郡縣ノ人民ハ、羅馬ヨリ縣令又ハ總督ヲ派遣シ、軍法ヲ以テ管制スル所ニシテ、毫モ權利ヲ有セザリキ。其後、年ヲ經ルニ隨ヒ、伊太利ノ制度ハ、漸クニ郡縣ニ波及シ、郡縣ノ人民羅馬ノ外征服人セラノ忠實善良ナル

者ニハ、權利ヲ與ヘ、自由ヲ得セシムルコトアリ。又郡縣ノ人口少キ地ニ、羅馬人ヲ植民セシムルコトアリテ、之ガ爲ニ、郡縣中ニ漸ク羅馬府民ノ數ヲ増シ、カラカラ(Caracalla)帝二百一十年ニ至リ、二百二十年ニ至リ、二世ニ至リテハ、帝國內、自由ノ人民ハ、一トシテ羅馬府民ノ資格ヲ有セザル者ナキニ至リ、羅馬府民ト郡縣人民トノ區別、全ク消失セリ。是ニ於テ羅馬府民ハ、漸ク其地位ノ尊大ヲ失シ、羅馬帝國ノ中心タル地位ヲ保ツコト能ハズ。是ニ於テ從來ノ組織ヲ一變スルニ非ルヨリハ、羅馬帝國ヲ統御スルコト能ハザルニ至ル。二百八十三年、ダイオクレシヤン(Diocletian)ノ、羅馬帝トナルヤ、其版圖ノ廣大ナル、能ク一人ノ統御スベキニ非ルヲ以テ、先ヅ帝國ヲ二分シテ、東西ノ二大部ト爲シ、自ラ西部ヲ統轄シ、將軍マキシミヤン(Maximian)ヲ擧ゲテ帝トナシ、之ニ附スルニ東部ヲ統轄スルノ權ヲ以テセリ。然レモ其後ダイオクレシヤン帝ハ、之ヲ以テ足レ

リトセズ、自ラ輔佐一人ヲ置キ、マキシミアンヲシテ亦輔佐一人ヲ置カシム。但シ此輔佐ハ、シーザート稱號シテ、後日帝位ヲ襲グベキ者トス。然レモ此制、永ク行ハレズシテ、争擾屢起リ、三百二十三年ニ至リ、コンスタンチン(Constantine)大帝再ヒ全帝國ヲ一統ス。コンスタンチン大帝ノ位ニ即クヤ、末世ニ一大影響ヲ及ボスベキ變革ヲ行ヒ、帝都ヲボスフラス(Bosphorus)海峽ナル希臘ノ舊市ビザンチヤム(Byzantium)ト云フ所ニ遷シ、之ヲ新羅馬ト名ク、又改メテコンスタンチノープルト云ヘリ。蓋大帝ノ前代ニ於テモ、羅馬ハ、常ニ帝居タラズシテ、或ハミラン、或ハニコメヂヤ、或ハ其他ノ地、往々帝居タリシコトアリ、然レモ遷都ノ事ハ、大帝以前未ダ之レアラザル所ナリ、亦以テ伊太利及羅馬ガ、昔日ノ如ク帝國ノ中心タルノ地位ヲ保ツコト能ハズシテ、郡縣ノ大勢ニ壓倒セラレタルヲ徴スルニ足レリ。

其後三百九十五年セオドシヤス(Theodosius)帝ノ歿スルヤ、邦土ヲ兩分シテ、其二子ニ傳フ。即チホノリヤス(Honorius)ハ、其西部ヲ得、ア
 一カヂヤス(Arcadius)ハ、東部ヲ得マリ。是ヨリ以後、羅馬史ハ、分レテ西帝國（羅馬帝國）、東帝國（希臘帝國）トモ稱ズ。ノ二史トナレリ。然レモ東帝國ノ史ハ、第十五世紀ニ至リテ局ヲ終ヘ、西帝國ハ、四百七十六年ヲ以テ亡ブルガ故ニ、東帝國ノ記事ハ之ヲ中世史ニ讓リ、以下專ラ西帝國ノ事ヲ記シテ以テ古代史ヲ終ヘントス。然レモ其西帝國ノ事ヲ記スルニ先チテ、基督教弘布ノ事ヲ畧記セザルベカラズ。

第三節 基督教ノ蔓延

耶蘇基督ノ磔刑ニ處セラレタルハ、ダイベリヤス(Tiberius)帝ノ第十九年ニ在リトス。三十九年徒弟バーナバス(Barnabas)及セント・ポール(St. Paul)ガ、シリヤノアンチオクニ於テ、基督教ヲ説キシ時、始テ徒

弟ヲ稱シテ、基督信徒ト云ヘリ。其後セント・ポールハ、小亞細亞及希臘ノ地方ニ巡遊シテ、基督教ヲ説キシガ、遂ニ囚ハレテ羅馬ニ送致セラレ、ニロ帝ノ世、獄中ニ死セリ。然レモ基督教ヲ信ズル者漸ク多クシテ、ジジヤヨリ東部(即チ希臘)異教地ニ傳ハリ、夫ヨリ西部(即チ羅匈)異教地ニ及ベリ。

基督教ノ、羅馬帝國ニ顯ハル、ヤ、政府ハ、直チニ其信徒ヲ虐待シ、ニロ帝、トロージアン帝、マールカス・オーレリヤス (Marcus Aurelius) 帝ノ三世五十四年ヨリ、五十五年ヨリ、百ニ於テハ、信徒ヲ虐待スルコト最モ甚シ。然レモ其ノ之ヲ虐待スルニ拘ハラズ、人民ノ、基督教ニ歸依スル者益、増加シ、二百年ヨリ二百五十年ノ間ニ當リ、教徒ハ、公會ニ於テ僧官ヲ選舉シ、禮拜ノ用ニ供スベキ堂宇ヲ建築シ、且其地ヲ以テ聖地トナシ、羅馬府内ト雖モ、一區ノ土地ヲ購ヒテ教會ノ用ニ供スルノ許可ヲ得タリ。其後デーシヤス (Deiins) 帝、ヴァレリヤン (Valerian) 帝二百五十年ニ至リ、ノ世ニ至リ、基督教徒虐待ノ事アリタレ

其教猶各地ニ弘布シ、上下之ヲ信シテ止マズ。

然レモ二百八十五年ニ至リ、ダイオクレシヤン帝、マキシミヤン帝三百零五年ニ至リ、ノ世ニ及ビテ、舊新兩教ノ大争鬭終ニ避クベカラザルニ至リ。當時ダイオクレシヤンノ義子ニシテ、且其輔佐タル者ニ、ガレリヤス (Galerius) ト云フアリ。最モ基督教徒ヲ惡ミ、帝ニ勸メテ、悉ク基督教ノ會堂ヲ毀テ、一切ノ經典ヲ火ニ投シ、教徒ノ官爵ヲ受クル者ハ、盡ク之ヲ剝奪スルノ令ヲ發セシム。又當時二週内ニ、宮中ニ二タビ失火アリシカバ、之ヲ口實トシテ、教徒ヲ虐待スルコト甚シク、舊教ノ偶像ニ對シテ燒香スルヲ肯セザル者ハ、或ハ之ヲ鞭チ、或ハ之ヲ殺スニ至ル。此虐殺ハ、全國ニ亘リテ之ヲ行ヒ、只西部ノ皇帝マキシミヤンノ輔佐コンスタンチヤス・クローラス (Constantinus Chlorus) ノ管領セシゴールブリテン、西班牙ノ三州ノミ、此難

Julius Luth. Schreier, von C. Cross

ヲ免カレタリ。其後ガレリヤスノ、東帝ト爲ルヤ、一層ノ暴威ヲ以テ、基督教徒ヲ虐待セシガ、基督教徒ノ固執ナル、到底其種子ヲ撲滅スルコト能ハズ。ガレリヤス晩年ニ至リ始テ基督教徒ノ好ム所ニ隨ヒ、上帝ヲ禮拜スルコトヲ許スノ令ヲ發シタリ。然レモ當時基督教ハ、未ダ羅馬ノ國教トナラズ。其國教トナリタルハ、コンスタンチン大帝ノ世ニ始マル。コンスタンチンハ、コンスタンチヤスクローラス帝ノ子ニシテ、父帝ノ、ブリテンニ殂スルヤ、直チニ兵士ノ爲ニ推戴セラレテ、皇帝ト稱シ、帝位ヲ望ム者五人ニ敵シテ、直チニ戰鬪ヲ始メタリ。

傳ヘテ云フ、三百十二年コンスタンチン帝ハ、羅馬ノ近傍ナル敵手ノ一人マキセンチヤス(Maxentius)ニ向ヒテ進軍スルノ際、此ニ依リテ勝ツベシトノ文字ヲ銘シタル十字架ノ、大陽ノ上ニ顯現シテ放光スルヲ目撃シ、既ニシテマキセンチヤスノ軍ト戰ヒシニ、

大ニ之ヲ破リシカバ、コンスタンチン帝直チニ意ヲ決シテ基督教徒トナレリト。

コンスタンチン帝ハ、翌年有名ナルミラン(Milan)ノ令ヲ發シテ、基督教會ヲシテ舊ノ如ク安寧ニ復セシメ、三百二十四年、帝ニ敵對セル最後ノ敵手ヲ破リ、基督教ヲ立テ、國教トナシ、直ニ檄ヲ傳ヘ、其臣下ニ告諭スルニ、己ノ例ニ倣ヒ基督教ヲ信奉センコトヲ以テス。コンスタンチン帝ノ世ニ、國內人民ノ基督教ヲ奉ズル者ハ、全數ノ二十分ノ一ニ居リシト云フ。然レモコンスタンチン帝ハ、直チニ舊教ヲ禁ゼシテ、嘲笑ト冷遇トヲ以テ之ヲ仆サント決意シ、新教ノ教堂ハ、官金ヲ以テ之ヲ修覆或ハ新築セシカバ、都會ノ地、到ル處ニ舊教ノ神殿ト、宏壯美麗ナル基督教堂ト相對立セリ。又基督教ノ僧官ニハ、租稅ヲ免除シ、日曜日ヲ以テ休業日ト爲シ、都ヲコンスタンチノープルニ遷シテ、之ヲ基督教ノ市府ト

ナセリ。

其後三百六十一年ジュリアン(Julian)帝ノ位ニ即クヤ、將ニ倒レント
スル所ノ舊教ヲ恢復セント欲シテ力ヲ盡スト雖モ、其志ヲ達ス
ルコト能ハズ。三百年ノ末ニ至リテハ、舊教全ク墮廢シテ、基督
ノ信徒、到ル處ニ多數ヲ占メ、遂ニセオドシヤス一世三百年ヨリ、三十二
ニ至ル。五年ニ至リ、舊教ノ神ヲ拜禮スル者ハ、嚴刑ニ處スルノ令ヲ
發シテ、以テ舊教ヲ撲滅セリ。

第四節 羅馬ノ末世

前節、羅馬帝國ノ、東西ニ分レシ事ヲ述ベタリ。今ヤ西帝國ノ滅亡
ニ陪隨スル事情形勢ヲ畧述セントス。

第五世紀ニ當リテ、百事皆羅馬ノ衰微セル兆候ヲ顯ハシ、嘗テ世
界ヲ一統セシ羅馬ノ人民ハ、既ニ一國民トシテ生存スルノ力ヲ
失ヒ、却テ己ガ征服セシ世界ノ爲ニ壓制セラレ、ノ地位ニ陥リ

タリ。加之、羅馬人種ノ血液ハ、他國人種ト混ズルニ從ヒテ、者修日
ニ增長シ、人民益、不徳ニ陥リ、殊ニ五百年ノ久シキ、甘シテ帝政壓
制ノ下ニ屈セシガ如キハ、其既ニ自由民タルニ適セザルノ徵候
ト爲スニ足レリ。

コンスタンチン帝ノ、羅馬ヨリビザンチヤムニ都ヲ遷シ、セオド
シヤス帝ノ、羅馬帝國ヲ東西ニ分割セシガ如キハ、亦以テ伊太利
ノ、既ニ羅馬帝國ノ中心タル力ヲ失ヒタルヲ證スルニ足ルベシ。
是ヨリ後、西帝國ハ、伊太利、ゴール、西班牙等ヲ領スル者ト看做ス
コトヲ得ベク、東帝國ハ、希臘及東部ノ諸文明國ヲ包有シ、西帝國
ト離レテ、一箇ノ獨立國タリト看做スコトヲ得ベシ。

斯ノ如キ形勢ニテ、西帝國ハ、チウトン(Teuton)人即チ日耳曼人ノ掌
握ニ歸セントス。抑、此種族ハ、數百年間、北方ニ住シ、オーガス
帝ノ時ヨリ、常ニ羅馬ノ強敵トナリ、其羅馬人ト交通スルニ從ヒ

テ、羅馬ノ開化ニ浸染シ、又基督教ヲ信奉シテ、其教徒トナリシ者甚ダ多シ。殊ニチュートンノ一支族ナルゴッス(Goth)人ハ、ダニユーブ河ノ北岸ナルデーシヤノ地ニ據リ、アルフリス(Ulfilas)ト云ヘル教正ノ誘導ニ由リテ、アリヤン派ノ基督教徒トナレリ。

第四世紀ノ後半ニ當リ、匈奴ナリテヤ、種人種トハ、全ク異ノ一群、他ノ種族ノ爲ニ東亞細亞ヲ驅逐セラレテ、歐洲ニ侵入シ、ゴッス人ニ逼ル。ゴッス人ハ、窘迫ノ餘リ、ヴェーレンス(Valsens)帝此時、帝ハ、東羅馬ニヤ領シ、帝ハ、西羅馬ニ請フニ、ダニユーブ河ヲ渡リテ羅馬ノ領地ナル南岸ニ移住セシコトヲ以テス。ヴェーレンス帝之ヲ許シ、カバ、慄悍ナル

ゴッス人ノ一隊男女、奴僕ヲ合セテハ、三百七十六年、武器ヲ携帶シテ、ダニユーブ河ノ南岸ニ移住セリ。ゴッス人ハ、此地ニ移住スルノ免許ヲ得ルヤ、羅馬人ニ誓フニ、永ク羅馬ノ國疆ヲ防禦スルノ義務ヲ盡サシコトヲ以テシタリ。然レモ羅馬ノ官吏ハ、ゴッス人ヲ

虐待スルコト甚シク、之ヲ驅リテ飢餓ノ域ニ陥ラシム。ゴッス人遂ニヴェーレンス帝ニ叛キ、コンスタンチノーブルニ向ヒテ進ム。ヴェーレンス帝、兵ヲ率井テ之ヲアドリヤノイブル(Adrianople)ニ邀ヘ、戰ヒテ大ニ敗績シ、ヴェーレンス帝ハ陣歿セリ。三百七十六年是ヨリゴッス人ハ、沃饒ナル國土ヲ占領シテ、西ノ方伊太利ノ國境及アドリヤチツク海ニ及ベリ。

三百七十九年セオドシヤス大帝ノ、東羅馬ノ帝位ニ登ルヤ、ゴッス人ニ説諭シテ、靜穩ナラシメ、其壯年ノ者ハ、多クハ之ヲ羅馬ノ兵士中ニ編入シタリト雖モ、只騒亂ノ階ヲナスニ過ギズ。セオドシヤス殂シテ、其柔懦ナル二子ノ、帝國ヲ分領スルニ及ビテヤ、ヴェーシゴッス(Visigoth)人即チ西羅馬帝ニ反シ、其酋長アラリック(Alaric)ヲ盾ニ載セテ、是レ其國ニ於テ、國王ナ伊太利ニ侵入シ、羅馬府ヲ陥レ、南部伊太利悉クゴッス人ノ覆没スル所トナル。十四年